

願文用語略稿

渡辺秀夫

凡 例

- 1、本稿は、『本朝文粹』巻13・14（願文上・下）所載の願文計27篇を対象とし、その用語を抽出、集成したものである。
- 2、配列は50音順とし、漢字の音は、漢音を一応の標準としながら、なお便宜にしたがったところもある。
- 3、本文は、活字本として通行する新訂増補国史大系本に拠り、頁数その他については、以下のごとくに表示する。

〈例〉〔嗟吁〕

○○。晨昏所誦者提婆品。 46-4(20)

46-4 → 国史大系本の346頁、第4行目に所在。

(20) → 『本朝文粹』巻13・14（願文上・下）に収められた願文作品に、仮に付した通し番号（以下に表示）。

○ → ○にアンダーライン（○）を付したものは、国史大系本の頭注に異文注記のあることを示す。

- 4、本稿は、国文学研究資料館における共同研究「本朝文粹における願文の研究」（昭和61年度）に際して、表現・用語の考察のために私にディスク化したメモをもとに、同館における第2次共同研究「願文の総合的研究」（昭和63年度）に資すべく整理しなおしたものである。活字校訂本を相対化した新たなる本文の整理こそが急務であるが、今しばらくは、来たるべきその成果のうえになされる筈の一字索引に至る捨て石のごときものとした。語彙の拾い方や掲出の仕方に、共同研究の過程で次第に明らかにされた願文の文体上の特質が反映されるような多少の工夫を加えたつもりだが、思わぬ不備の多いことを恐れる。通史的な願文用語の収集・検討を俟ってさらに補訂されるべきであらう。

『本朝文粹』所収願文作品番号表

(1)	賽萱丞相廟願文	慶滋 保胤
(2)	於尾張國熱田神社供養大般若經願文	大江 匡衡
(3)	村上天皇供養雲林院御塔願文	大江 維時
(4)	爲左大臣供養淨妙寺願文	大江 匡衡
(5)	供養同寺塔願文	大江 匡衡
(6)	爲盲僧眞救供養率都婆願文	大江 匡衡
(7)	朱雀院被修御八講願文	大江 維時
(8)	朱雀院平賊後被修法會願文	大江 朝綱
(9)	供養自筆法華經願文	兼明 親王

(10)	爲空也上人供養金字大般若經願文	三善 道統
(11)	爲仁康上人修五時講願文	大江 匡衡
(12)	裔然上人入唐時爲母修善願文	慶滋 保胤
		(以上、願文上)
(13)	陽成院四十九日御願文	大江 朝綱
(14)	朱雀院四十九日御願文	大江 朝綱
(15)	朱雀院周忌御願文	大江 朝綱
(16)	圓融院四十九日御願文	菅原 輔正
(17)	華山院四十九日御願文	大江 以言
(18)	一條院四十九日御願文	大江 匡衡
(19)	村上天皇爲母后四十九日御願文	大江 朝綱
(20)	爲二品長公主四十九日御願文	慶滋 保胤
(21)	爲左大臣息女女御四十九日願文	大江 朝綱
(22)	爲大納言藤原卿息女女御四十九日願文	慶滋 保胤
(23)	爲謙德公報恩修善願文	菅原 文時
(24)	重明親王爲家室四十九日御願文	大江 朝綱
(25)	爲亡息澄明四十九日願文	大江 朝綱
(26)	爲右近中將源宣方四十九日願文	大江 匡衡
(27)	爲覺運僧都四十九日願文	大江 以言
		(以上、願文下)

ア

【阿】

【阿育】

○○者阿闍世王之孫也。 27-9(5)

【阿闍世王】

阿育者○○○○之孫也。 27-10(5)

○○○○之夢。煙暗金河之西。 43-4(17)

【阿尾】

謂扇驚頭之餘風。併滅○○之殘焰者。 30-13(8)

【阿鼻】

乃至○○。聞此餘香。 50-8(24)

既云香緣。何隔○○。 51-15(26)

乃至有頂○○。鐵圍沙界。 52-15(27)

【阿鼻地】

乃至自有頂天。及○○○。 29-12(7)

《ああ》

【於戲】

○○。此間吾等。縱沉至哀之淚泉。 43-8(17)

【嗟呼】

○○。遠近遺恨。不見春洞連袂之柳腰。 40-10(14)

○○。晏昏所誦者提婆品。 46-4(20)

○○。人命不定。吾生難知。 49-1(23)

○○。幽靈知我此志。 51-6(25)

○○。北芒新墳。已見七尺之花樹。 51-14(26)

【嗟呼】

○○。花言綺語之遊。何益於神道。 22-6(1)

○○。碎丹心而營佛事。 23-6(2)

○○。落花飄颻之光。寧如翻袖 23-15(3)

○○。燬寒木於大智之日。淚變蒼栢之煙。 26-1(4)

○○。目睹一不幸也。 28-1(6)

○○。切利天宮之園。含歡喜之號。 29-9(7)

○○。諸法無相。四生無常。 31-13(10)

○○。衆生慈父。今已在此。 33-12(11)

○○。我身非我身。 35-9(12)

○○。尊嚴猶如在于眼前。 44-9(18)

【嗚呼】

○○。過於熙連河之苦行一年。 42-9(16)

【噫】

○。娑婆遺哀。縱肩千行於眼下。 45-10(19)

アイ

【哀】

佛子○哉。不值在世之日。 33-6(11)

豈不○哉。豈不痛哉。 34-7(12)

從樂盡○來。志留事變。 40-8(14)

○哉○哉。奈何奈何。 43-6(17)

何圖樂未央○先至。福漸始禍早成。 47-2(21)

乃至三千界之中。與我同○者。 47-10(21)

○哉片時不見。臍腸宛如千萬秋。 48-3(22)

樂盡○來。天人猶逢五衰之日。 49-15(24)

【哀情】

去夏○○再焰。在臂而未滅。 47-4(21)

【哀聲】

鳥獸○○。沉於虎闕鳳閣乎。 44-9(18)

【哀慟】

一心之難忍。猶迷○○之自然者也。 52-4(27)

【哀樂】

○○如夢。未獻是界之壽。 45-7(19)

【哀憐】

不聞于今仁王垂○○。 48-5(22)

→ (遺○・含○・至○)

【愛】

上泣聖明之恩。下泣父子之○。 48-3(22)

仕而用朝者。亦誰○之暗通。 48-14(23)

【愛河】

欲海○○。流轉之輩不定。 30-12(8)

【愛海】

乃知八正分源。斷疑網於○○。 45-1(19)

【愛子】

千官景從。本是諸天之○○。 39-7(13)

【愛日】

于時蒙霧開。○○暖。 25-8(4)

→ (恩○・自○・鍾○)

アク

【惡】

【惡業】

追悔前生。造何○○。 47-6(21)

【惡趣】

後生之善提者。我之所爲先。豈令墮○○乎。 35-4(12)

→ (三○・善○・斷○)

【濕】

【濕澤】

重寄過器。○○溢身。 49-2(23)

《あに = 豈 → ガイ》

アン

【安】

今思四生之無○。求哀於十方。 30-7(8)

【安穩】			
天下○○。萬民快樂。	25-16(4)		
【安居】			
昔切利天之○○九十日。刻赤梅檀而摸尊容。	33-8(11)		
【安置】			
新結構多寶塔一基。○○五佛像。	23-13(3)		
【安樂】			
現世則天下太平。理世○○之樂。	27-6(5)		
○○界中。攀覺花於彌陀之樹。	50-8(24)		
【安樂園】			
共諸衆生。往生○○○。	33-15(11)		
→ (長○・保○)			
【晏】			
【晏駕】			
亢龍雲慘。○○霞登。	43-4(17)		
【菴】			
【菴園】			
或至自○○奈菴。	32-7(10)		
【暗】			
目雖○有耳得聞諸法理。	27-15(6)		
目雖○有舌。得誦一乘經。	28-1(6)		
目雖○有意。得念極樂。	28-1(6)		
目雖○有足。得至道場。	28-1(6)		
嗟呼。目○一不幸也。	28-1(6)		
目○一幸也。雖向衆色。不起見欲。	28-2(6)		
阿闍世王之夢。煙○金河之西。	43-4(17)		
【暗魂】			
徒爲東岱之○○。北芒之朽骨。	31-2(9)		
【暗中】			
保寶珠於醉後。照然燈於○○。	29-2(7)		
【暗通】			
仕而用朝者。亦誰愛之○○。	48-14(23)		
【暗冥】			
神變放光。○○之霧盡散。	28-14(7)		
→ (破○)			
イ			
【衣】			
披如來之○。著菩薩之座。	26-1(4)		
○雖破憐愧之○是全。食雖乏禪稅之食是豐。	27-15(6)		
摩訶迦葉。跪奉付囑之○。	45-11(19)		
→ (薛○・法○・名○)			
【位】			
年三十極人臣之○。十一年忝王佐之任。	24-13(4)		
昇霞以來。定到無上法王之○。	42-13(16)		
今拂九尊方廣之場。新加十號圓明之○。	50-8(24)		
→ (昔○・帝○)			
【依】			
【依違】			
方今齡近艾服。不可恃餘年以○○。	48-15(23)		
【依怙】			
或多愁志無○○之人等也。	46-5(20)		
【威】			
【威光】			
天神地祇。增○○以隨喜。	29-10(7)		
【威風】			
居武官而○○遠弱。嗜文道而詞露自鮮。	51-10(26)		
【威力】			
乃至鷄王○○。遠任遍法界之風聲。	24-5(3)		
降法雨而洗災患。金光明經之○○最勝。	45-6(19)		
→ (神○)			
【畏】			
沉寵深者思又深。榮甚者○又甚。	49-2(23)		
→ (無○)			
【唯】			
○其所無者。塔婆而已。	26-9(5)		
無得而稱。其○妙覺歟。	30-4(8)		
○是充身後之造福而已。	31-5(9)		
曾無一鉢之儲。○唱十方之志。	32-4(10)		
○隨宿習之所催。任運命之自然而已。	35-8(12)		
○願大悲。照此御願者。	41-9(15)		
今勤信心之惠業者。○添法身之莊嚴也。	42-14(16)		
未以受恩寵爲榮。○以逃俗塵爲志。	46-4(20)		
○願大悲導此中志。	47-9(21)		
供佛之誠。○志是盡。	50-7(24)		
寤寐念佛。○善是勸。	51-10(26)		
【異】			
其趣雖○。其志猶同。	41-9(15)		
今之所講。趣○誠同。	45-9(19)		
【異口】			
○○同音。讚嘆如來之相好。	33-11(11)		
【異處】			
懷古感今。○○同趣。	29-10(7)		
【異類】			
寄心於無知之域。委身於○○之人。	34-6(12)		
→ (相○・不○)			
【移】			
【移修】			
如是之故。有意○○。	49-9(23)		
【渭】			
【渭陽】			
四海皆戀仁恩。最深者○○嗚咽之曉浪。	44-4(18)		
【意】			
目雖暗有○。得念極樂。	28-1(6)		

禪波澄○。欲開上上之蓮。	32-10(10)	【一歡】 佛子○○一泣。淚與言落。	35-1(12)
【意樹】 ○○送春。解脫之枝點萼。	30-11(8)	【一贊】 覆○○以不止。終及萬仞矣。	34-5(12)
功德成林。普開惠花於四生之○○。	45-12(19)	【一泣】 拂子一歡○○。淚與言落。	35-1(12)
【意匠】 俯毗首而加○○。移孝禮尊顏。	25-7(4)	【一句】 彼○○半偈之功能。佛猶何筭數。	41-11(15)
【意藥】 ○○發露。無上之果欲求。	32-3(10)	【一言】 一事○○。于朝于暮。	50-1(24)
→ (如○・素○・芳○)		【一現】 似對優曇之○○。合掌花而薰修。	26-14(5)
【遺】 【遺哀】 噫娑婆之○○。縱肩千行於眼下。	45-10(19)	【一劫】 雖歷○○。不可說盡。	47-6(21)
【遺韻】 玄風雖遙隔。○○叩而猶聞。	43-15(18)	【一幸】 眼暗○○也。雖向衆色。不起見欲。	28-2(6)
【遺孤】 豈圖更引○○。吞悲而經營今日之事。	44-10(18)	【一香】 ○○一色。遍恒沙界以薰修。	28-9(6)
【遺恨】 今日○○。只在此事。	39-6(13)	【一山】 四海之中。○○之上。	52-8(27)
遠近○○。不見春洞連袂之柳腰。	40-10(14)	【一子】 大慈在情。撫萬姓於○○。	45-1(19)
千萬億之悲情。更訴○○於何處。	41-8(15)	【一枝】 去冬之歡情。幾誇家風於○○之桂。	51-5(25)
【遺跡】 願次詣中天竺。欲禮釋迦之○○。	34-4(12)	【一事】 ○○一言。于朝于暮。	50-1(24)
【遺弟】 留而消魂者。皆是緇門之○○。	42-9(16)	【一日】 爰展○○之錦筵。普施千僧之綺饌。	30-10(8)
室中多年少之○○。	52-6(27)	【一色】 一香○○。遍恒沙界以薰修。	28-9(6)
【遺風】 泗水○○。待七年而餘慶。	50-14(25)	【一咲】 ○○再顧。既是羅山之舊容。	46-2(20)
【遺卵】 燕雀巢覆。撫○○而摧肝。	50-4(24)	【一乘】 護○○之法輪。觀念不變。	24-2(3)
【醫】 【醫人】 天使相望於路。○○多盡其方。	42-8(16)	造次顛沛。必○○。	24-14(4)
→ (大○王)		山城獨勝。有便於弘○○。	25-11(4)
イキ		○○轉輪。非無退亦住之輩。	29-6(7)
【域】 寄心於無知之○。委身於異類之人。	34-6(12)	經者夢後之精勤。以○○爲與證。	44-6(18)
→ (耆○)		【一乘教】 此○○○。有心展香之筵。	22-6(1)
イチ		【一乘經】 目雖暗有舌。得誦○○○。	28-1(6)
【一】 【一箇】 ○○中之花月。相傳失主。	50-15(25)	誦○○○。全護寶珠於頂上。	42-7(16)
【一音】 斯乃所以能仁秘○○而待時。	49-6(23)	【一乘佛子】 臥雲之後。雖謙○○○○之名。	42-12(16)
【一家】 常念○○之子孫。附門戶於其顯。	47-2(21)	【一心】 因茲弟子致○○合衆力。	28-5(6)

分此〇〇。備於六道。	30-8(8)	梅檀糍之羹。〇〇無驗。	40-2(14)
盡丹青於〇〇之中。成粉墨於期年之內。	41-12(15)	【一落】	
報是〇〇。雖歷劫雖改生何忘。	48-13(23)	然猶若比弟子之合掌。彼〇〇不再開。	49-10(23)
妾五內如割。〇〇已迷。	51-9(26)	【一粒】	
雖知凡聖之相隔。〇〇之難忍。	52-4(27)	半錢所施。〇〇所捨。	32-1(10)
【一神】		→ (顯〇・四十〇)	
〇〇有慶。衆生賴之。	22-7(1)	イツ	
【一親】		【溢】	
若〇〇形言變色而留之。	35-2(12)	重寄過器。渥澤〇身。	49-2(23)
【一人】		《いわんや=況→キョウ》	
昔當萬邦之有罪。歸責於〇〇。	30-7(8)		
殿庭之儀不改。所欠只〇〇慈悲之昔容。	44-7(18)	イン	
【一生】		【引】	
是人〇〇不爲一切毒藥所中。	26-10(5)	【引接】	
【一聲】		彼岸〇〇之因。普濟三千界之塵數。	29-2(7)
曉雞〇〇。長臨無常之別。	50-2(24)	乃至六趣四生。莫不〇〇。	48-10(22)
苔壠雲靜。松風只〇〇。	50-15(25)	【引攝】	
【一夕】		所修善根。〇〇四思。	27-7(5)
〇〇五起。竊所庶幾也。	45-3(19)	【引導】	
痛矣〇〇相離。老淚已且四十餘日。	48-4(22)	何善能通。仰白牛之〇〇。	29-5(7)
【一切】		【印】	
功德無邊。普及〇〇。	22-7(1)	劫石雖磷。願主之〇不剎。	26-2(4)
是人一生不爲〇〇毒藥所中。	26-10(5)	匿香已在。薰〇而燒。	49-10(23)
〇〇衆生。悉潤智惠之雨。	31-12(10)	【因】	
凡厥〇〇衆生。普遊四種佛土。	42-14(16)	彼岸引接之〇。普濟三千界之塵數。	29-2(7)
功德之餘。普及〇〇。	43-8(17)	響聲未斷。應響添〇。	49-12(23)
【一千】		【因縁】	
紅桃結子。三期〇〇之秋。	24-5(3)	眞如椽落。在善惡之〇〇。	31-13(10)
【一善】		→ (業〇・植〇・善〇・發〇・良〇)	
以此〇〇。廻向四思。	25-16(4)	【咽】	
播于〇〇之帶芥。納於百億之須彌。	31-4(9)	尼連禪河之水音。空〇跋提之淚浪。	52-3(27)
【一代】		【咽石】	
南無〇〇教主釋迦尊。	27-8(5)	白浪〇〇之岸。相同鷺池。	32-8(10)
【一旦】		【咽嵐】	
〇〇背世之憂。已殘心地之焰。	50-3(24)	緇素含哀。空聞暮山〇〇之松響。	40-10(14)
【一年】		【茵】	
計其實筭。釋迦如來〇〇之兄。	39-5(13)	青苔鋪設。自展七淨瑠璃之〇。	25-10(4)
過於熙連河之苦行〇〇。禪定水靜。	42-9(16)	【院】	
【一念】		〇花春暮。只夙夜於霸陵之松。	43-6(17)
仰願三寶增益〇〇。	26-1(4)	→ (舊〇)	
若不心起〇〇。手成微功。	31-2(9)	【陰】	
今日〇〇。於是而盡。	47-9(21)	【陰陽】	
【一鉢】		五蘊六根。雖〇〇之陶冶。	31-13(10)
曾無〇〇之儲。唯唱十方之志。	32-4(10)	→ (光〇)	
【一不幸】			
嗟呼。目暗〇〇〇也。	28-1(6)		
【一服】			

【飲】			
方今○恨之日漸積。食香之期欲盈。	50-5(24)		
ウ			
《有→ユウ》			
【孟】			
【孟蘭】			
七月半之○○。所望在誰。	50-15(25)		
【雨】			
花○四種。彌勒欲決疑於當今。	28-14(7)		
一切衆生。悉潤智惠之○。	31-13(10)		
努力莫爲人中之雲○。自愛不受天上之快樂。	48-7(22)		
→(雲○・花○・風○・暮○・法○)			
【烏】			
【烏瑟】			
○○暗加護持。羊柱適畢書寫。	32-2(10)		
→(青○)			
《優→ユウ》			
ウツ			
【辭】			
【辭腸】			
哀哉片時不見。○○宛如千萬秋。	48-4(22)		
ウン			
【芸】			
【芸閣】			
方今○○塵深。竹簡幾千卷。	50-14(25)		
【運】			
【運載】			
無二無三之車脂轄。○○爲宗。	29-1(7)		
【運命】			
唯隨宿習之所催。任○○之自然而已。	35-8(12)		
→(四○)			
【雲】			
大千世界。遍敷慈悲之○。	31-12(10)		
抑空也齡逐年暮。身與○浮。	32-2(10)		
七匝香煙。瑠璃之○成蓋。	33-11(11)		
鼎湖隔○。漏水屢滴。	40-4(14)		
臣等鶴林○歸。鱗水義絕。	41-14(15)		
亢龍○慘。晏駕霞登。	43-4(17)		
洞月曉到。空瞻望於鼎湖之○。	43-6(17)		
新舊皆議追從於禪門之○。	44-4(18)		
驚頭○霹。雞足山開。	45-10(19)		
若有未明之月輪。餘習○散水令圓滿。	46-11(20)		
苔壠○靜。松風只一聲。	50-15(25)		
夫菩提道樹之月影。遂隱沙羅之愁○。	52-3(27)		
室中多年少之遺弟。失前途於荊谿之○。	52-7(27)		
【雲雨】			
努力莫爲人中之○○。自愛不受天上之快樂。	48-7(22)		
【雲漢】			
涕淚流而無從。迷倒○○於眼下。	52-5(27)		
【雲鬢】			
落○○而入道。訊三明於方袍。	39-3(13)		
【雲集】			
黑白衣之○○。	25-15(4)		
【雲樂】			
九品○○。今則三界之慈親。	39-7(13)		
【雲臺】			
梅檀風吹。自出○○之下。	28-15(7)		
【雲泥】			
於是天使相望○○之間。	48-2(22)		
【雲衲】			
爰○○霞袂。或來自靈鷲山之巔。	26-15(5)		
蘿襟○○。不改舊日之詔名。	40-9(14)		
→(臥○・五色○・慈○・愁○・陣○・青○・穿○・暮○・法○)			
エ			
《惠→ケイ》			
エイ			
【永】			
承露之盤。非秋日以○映。	23-13(3)		
玄圃仙遊之際。玉體○明。	29-11(7)		
猶恐九泉之底。○纏寒冰。	30-6(8)		
開三顯一之文。春花貫以○點。	42-5(16)		
仲冬上旬之初日兮。○告九泉之別。	52-5(27)		
【英】			
【英聲】			
鶯子無雙之智。振○○於暮春之風。	29-8(7)		
【盈】			
【盈數】			
閑計資筭之○○。獨歎喜懼之交懷。	45-3(19)		
【策】			
○餘於身。賞過於分。	24-13(4)		
滿歲藤之○。所以卓躐萬姓。	24-15(4)		
縱有枯株。依造塔力可○。	27-5(5)		

未以受恩寵爲○。唯以逃俗塵爲志。	46-4(20)	【越鳥】	
況寵深者思又深。○甚者畏又甚。	49-2(23)	胡馬非北風不嘶。○○非南枝不巢。	34-15(12)
【榮花】		エン	
剎那之○○。更變枯木。	29-3(7)	【宛】	
【榮枯】		青草敷煙之堤。○如鷲嶺。	32-8(10)
滿園之草木。期○○於彼恩。	47-2(21)	哀哉片時不見。爵賜○如千萬秋。	48-4(22)
【榮分】		【宛轉】	
往年爲○○。爲聲名。祈廟社。	22-4(1)	○○不閑。如臥鐵炭之上。	47-3(21)
【瘞】		【延】	
問此巖頭。亦○同胞兄弟之芳骨。	25-4(4)	【延年】	
【影】		少陽之宮。龍退勸○○之術。	32-12(10)
無去無來。紺頂之○澄月。	30-4(8)	【延命】	
○臨萬水。光滿三空。	33-4(11)	息災○○。千秋萬歲。	23-6(2)
常念西日○斜。付後事於吾子。	50-13(25)	除病○○之願。已以不諧。	51-3(25)
→(月○・伴○・幡○)		【延齡】	
【瑩】		去年初心。只契○○之驗。	45-9(19)
○政理於文學。通百家以重十家。	44-1(18)	【怨】	
故○白銀鑄出滿月之容。研黃金寫成貫花之偈。	45-6(19)	無○無怒。無喜無辱。	28-2(6)
【瑩玉】		有習○盡。應謝稠林。	32-11(10)
今長年丞相之勤。○○範金。	27-9(5)	【怨氣】	
【叡】		冤靈邪鬼。銷○○以歸眞。	29-10(7)
【叡襟】		【怨曲】	
且尋上皇之○○。且奉中宮之令旨。	40-11(14)	鶯舌無識。猶奏○○於庭樹之曉風。	42-10(16)
【叡心】		【怨親】	
○○所指。疑在花時。	40-8(14)	欲混勝利於○○。以頒拔濟於平等。	30-9(8)
【叡念】		【怨貌】	
又上皇昔有奉寫一切經之○○。	41-10(15)	母曾無○○。既有勸心。	35-1(12)
工キ		【爰】	
【易】		○承累葉之慶。浴皇華之恩。	24-12(4)
抑朝露○滅。春夢非長。	29-2(7)	○雲衲霞袂。或來自靈鷲山之巔。	26-15(5)
【益】		○展一日之錦筵。普施千僧之綺饌。	30-10(8)
方今拂云經云。空留何○。	45-9(19)	○三五七之良因。聖主每度。修福於七箇寺。	40-4(14)
→(増○・得○・蒙○・利○)		○設齋會。彌增善因。	42-12(16)
【掖】		○移仙居於九重之裏。營孝思於萬機之先。	45-2(19)
【掖庭】		○發善提心。凝道場觀。	49-4(23)
花前辭恩。不見○○之月。	47-3(21)	○四十九日忌景已至。	51-12(26)
【腋】		【婉】	
【腋庭】		【婉順】	
有身暫退陋巷。有禁久在○○之故也。	48-1(22)	柔和稟性。○○在心。	50-1(24)
エツ		【冤】	
【越】		【冤魂】	
【越聲】		精靈○○。浴法雨而離垢。	27-8(5)
莊舄之得富貴也。不變○○	34-15(12)	【冤靈】	
【越膽】		聖靈○○之相異。盡住法雲。	24-3(3)
燕肝○○。輪迴之鄉無期。	30-12(8)	○○邪鬼。銷怨氣以歸眞。	29-10(7)
		【掩】	

入道之後。遂以○眼。	51-2(25)	以前佛經。供養○○。	42-5(16)
焰		即於平昔之燕寢。敬以供養○○。	44-7(18)
一旦背世之憂。已殘心地之○。	50-3(24)	〔演暢〕	
→ (殘○・毒○)		共奉造釋迦尊之形像。○○所說之經典。	33-8(11)
【園】		→ (講○)	
切利天宮之○。含歡喜之號。	29-9(7)	【筵】	
→ (菴○・故○・後○・兔○・滿○・梨○・一箇中)		此一乘教。有心展香花之○。	22-6(1)
【園】		→ (錦○・展○・梵○)	
【園覺】		【緣】	
仍於○○道場。奉供養件佛經。	39-2(13)	此界得益之○早斷。定歸本覺之月。	52-14(27)
【圓滿】		→ (因○・起○・機○・苦○・群○・結○・香○・隨○・善○・大○・攀○・無○・有○)	
增長福壽。○○御願。	23-5(2)	【燕】	
餘習雲散。永令○○。	46-11(20)	【燕肝】	
【圓明】		○○越瞻。輪迴之鄉無期。	30-12(8)
同應方赤。共期○○。	31-7(9)	【燕雀】	
定知貪憐○○之覺花。豈敢往還煩惱之火宅。	39-7(13)	○○巢覆。撫遺卵而摧肝。	50-4(24)
今佛九尊方廣之場。新加十號○○之位。	50-8(24)	【燕寢】	
【圓融】		素思進○○。不欲混俗塵。	47-14(22)
○○亭午。寂滅平西。	33-4(11)	即於平昔之○○。敬以供養演說。	44-7(18)
→ (獨○)		【閣】	
【煙】		【閣浮】	
煨寒木於大智之日。淚變蒼栢之○。	26-2(4)	為飭上皇之德。留○○而設齋。	41-9(15)
阿闍世王之夢。○暗金河之西。	43-4(17)	【鴛】	
香則求難陀此岸之○。花則擎樹提後園之萼。	50-7(24)	【鴛鴦】	
生者必滅。釋尊未免栴壇之○。	49-15(24)	○○衾空。向舊枕而濕袂。	50-4(24)
堂上有齡傾之老母。泣後事於松門之○。	52-6(27)	【鴛】	
【煙霞】		【鴛雀】	
系烟六百高僧之龍象。將歸十六大會之○○。	32-7(10)	率鸞鳳之群。代○○之賀。	26-15(5)
【煙巢】		才	
泣而更泣。玉卵共破於○○。	47-4(21)	【汚】	
→ (香○・松○・敷○)		心○不必清淨。攀緣非無所慙。	27-2(5)
【遠】		《おえつ》	
居武官而威風○扇。嗜文道而詞露自鮮。	51-10(26)	【嗚咽】	
【遠近】		四海皆戀仁恩。最深者涇陽○○之曉淚。	44-4(18)
華夏○○。縉素尊卑。	32-13(10)	オウ	
功德之餘。普及○○。	39-8(13)	【王】	
○○遺恨。不見春洞連袂之柳腰。	40-10(14)	【王侯】	
恩德之餘。普及○○。	44-12(18)	始自○○相將。至于縉素男女。	44-2(18)
【厭】		【王佐】	
然猶泡山可○。忽尋姑山之幽邃。	42-6(16)	年三十極人臣之位。十一年忝○○之任。	24-13(4)
【厭世】		【王舍】	
今亦有為○○。入三密而出家。	40-1(14)	○○不遠。無煩於率群僚。	25-11(4)
【演】		【王舍城】	
【演說】			
供養之。○○之。	25-9(4)		
五日十講。供養○○。	35-6(12)		
以前供養尊像。○○妙典。	39-15(14)		

殊於○○之東河。假立佛世尊之月殿。	32-6(10)	【音】	
【王丞相】		蓮華世界之鳥。嚙妙法之○。	29-10(7)
伴槐棘以高法棟。擬○○之梓先塋。	25-14(4)	苦空傳○。如聞命命之鳥。	32-10(10)
【王劭】		【音樂】	
○○者晉之重臣也。築寺於父之廟北。	25-13(4)	是故別命伶倫。整理○○	23-15(3)
【王母】		【音曲】	
早尋成子之石。永贈○○之玉。	43-5(17)	臺上留絲竹。○○盡風獨悲。	51-12(26)
唯須迎日月於仙家。以祝○○之齒。	45-4(19)	【音信】	
【王民】		將通○○而無便。兼寫寶偈以代書。	48-4(22)
既云率土。誰非○○。	30-9(8)	【音聲】	
→ (阿闍世○·哥○·鵝○·國○·大醫○·仁○)		方今聊設伎樂。供以○○。	32-9(10)
【往】		→ (一○·雅○·觀○·水○·同○·八○·法○·梵○·妙○)	
【往還】		【恩】	
豈敢○○煩惱之火宅。	39-7(13)	爰承累葉之慶。浴皇華之○	24-13(4)
【往事】		其○是深。不得不報。	34-16(12)
追尋○○。不忘者有。	30-4(8)	凡棄○入無為。真實之報恩。	35-4(12)
抑追思○○。觸類銷魂。	44-8(18)	昔釋迦善逝。為報摩耶之○。	41-9(15)
追思○○。良可化人。	46-7(20)	莫不臣妾感其○。華夷歸其德。	42-6(16)
【往生】		各皆輸誠勵行。莫不染風浴○。	44-2(18)
後世亦地下拔苦。○○極樂之樂。	27-7(5)	滿園之草木。期榮枯於彼○。	47-2(21)
共諸衆生。○○安樂國。	33-15(11)	花前辭○。不見掖庭之月。	47-3(21)
奉資先公相府之後世。奉導太后夫人之○○。	49-11(23)	弟子上泣聖明之○。下泣父子之愛。	48-2(22)
大師尊靈。○○極樂	52-14(27)	○有四種。父之慈。母之悲為先。	48-13(23)
【往昔】		【恩愛】	
材明六通。文殊能辨瑞於○○。	28-15(7)	裔然去難去家鄉。弃難弃之○○。	34-6(12)
【往年】		【恩寵】	
○○為榮分。為聲名。	22-4(1)	未以受○○為榮。唯以逃俗塵為志。	46-4(20)
抑亦○○。擇此地之閑敞。	24-1(3)	彼才色雖非絕代。○○亦不愧人。	47-15(22)
【往返】		【恩德】	
○○六趣之衆生。思授覺藥。	29-4(7)	○○之餘。普及遠近。	44-12(18)
【枉】		【恩波】	
弟子自幼最○。	48-13(23)	證明○○之無岸。知見聖德之有隣。	30-12(8)
【橫】		→ (皇○·四○·知○·二○·佛○·報○·戀○)	
【橫死】		【溫】	
壽命長遠。無有○○。	26-11(5)	【溫樹】	
【橫草】		雖思○○之不語。難忍德澤之有餘。	48-1(22)
文官武官。共勵吹塵○○之忠節。	29-12(7)		
【應】		力	
【應化】		【下】	
覺花承步。○○之跡長芳。	31-12(10)	○則解脫群生輪迴之苦緣。	46-12(20)
先於沙羅林之涅槃三日。○○月空。	42-10(16)	【下界】	
→ (感○)		況於凡身乎。況於○○乎。	46-1(20)
【鶻】		【下品】	
【鶻舌】		彌陀尊之設蓮臺。望上品又仰○○矣。	48-8(22)
○○無識。猶奏怨曲於庭樹之曉風。	42-10(16)	→ (眼○·松○·上○·地○·天○·塔○·燈○)	
オン		【化】	

玉體萬機。○出哥王之表。	32-12(10)	而今佛道記里之車忽摧。向○方而爲指南。	52-10(27)
他方利生之○相催。豈留中有之風。	52-15(27)	【何況】	
【化身】		○於至心之人乎。於造塔之人乎。	27-4(5)
又不知觀音欲度隨類。爲現○○歟。	46-8(20)	○道云俗云。誹謗虛胡者。已千萬人。	34-8(12)
【化人】		【何疑】	
追思往事。良可○○。	46-7(20)	○○鉢羅樹下。開菓臂而轉妙輪。	42-13(16)
→(應○·榴○·德○)		佛事廣作。○○速證之實語。	43-7(17)
【火】		○○哉。○。○哉。	48-9(22)
是娑婆世界衆生。徒累○血刀之業因焉。	33-5(11)	【何圖】	
【火宅】		○樂未央哀先至。福漸始禍早成。	47-2(21)
定知貪憐圓明之覺花。豈敢往還煩惱之○○。	39-8(13)	【何必】	
→(石○)		○○質朴之愚者。得爲州刺史。	22-12(2)
【何】		○○簡素之儒者。得書大般若。	22-13(2)
花言綺語之遊。○益於神道。	22-6(1)	【何復】	
○者始祖內大臣。	24-15(4)	○○待厚祿而猶豫。	49-1(23)
縱有枯株。依造塔刀可榮。○株非釋迦樹。	27-5(5)	→(奈○·無○)	
縱有寒草。依造塔刀可暖。○草非妙法蓮。	27-5(5)	【花】	
翠柳不濃。○貽霜後之悔。	29-3(7)	苟有香緣。智惠之○自開。	22-15(2)
○謀能救。憑白毫之照明。	29-5(7)	去而不返。瓊籬無投暮之○。	31-1(9)
○善能通。仰白牛之引導。	29-5(7)	院○春暮。只夙夜於翻陵之松。	43-6(17)
非揮智劍。○剪穉林。	30-11(8)	彼蓬萊洞之○非不芳。素意久期七覺。	46-3(20)
禽獸魚虫。○物非流轉之父母。	31-14(10)	彼金谷醉○之地。○每春勻而主不歸。	49-1(23)
山川蔽澤。○處無生死之形骸。	31-14(10)	百年偕老之契。不異夢路之○。	50-3(24)
麻淪送日之中。復施○力。	32-4(10)	香則求難陀此岸之煙。○則擎樹提後園之萼。	50-7(24)
縱歸○敢貪職任。	34-12(12)	合掌爲○。善心爲香。	51-14(26)
有人問吾。是汝○人。	34-13(12)	【花雨】	
捨本土朝巨唐。有○心有○願乎。	34-13(12)	○四種。彌勒欲決疑於當今。	28-14(7)
其詞如是者。於本朝有○耻乎。	34-14(12)	四主○○。薜蔔之露添灯。	33-11(11)
若一親形言變色而留之。我可○逆哉。	35-3(12)	○不知天人之所供歟。	44-7(18)
餘年之水菽者。汝之所可營。○以及飢寒。	35-4(12)	【花下】	
問前途於○處。觀音得大狹行路而奉迎。	40-3(14)	○之春遊。揮神筆以手書御製。	44-8(18)
抑說法有隣。○野非鹿苑。	40-6(14)	【花界】	
如來不住。○山非鷲峯。	40-6(14)	機緣薪滅。○○駕催。	42-8(16)
○臨夕陽之西傾。忽逢慈雲之東斷。	41-7(15)	【花月】	
千萬億之悲情。更訴遺恨於○處。	41-8(15)	一園中之○○。相傳失主。	50-15(25)
此生永隔汲引之厚願。○日再瞻慈悲之尊容。	41-14(15)	【花言】	
十萬億之國土○言遙。早迎仙蹕於極樂。	44-11(18)	○○綺語之遊。何益於神道。	22-6(1)
本志無遂。朕恨云○。	45-12(19)	【花香】	
○其遁世之太疾乎。	46-7(20)	○○梵唄之莊嚴。亦在南嶽之光儀。	52-14(27)
方寸所憶。○宜少分。	46-15(21)	【花枝】	
綿綿此恨。生生○忘。	47-5(21)	翡翠簾前。○○添戀古之色。	45-7(19)
追悔前生。造○惡行。	47-6(21)	【花時】	
雖歷劫。雖改生○忘。	48-13(23)	觀心所指。疑在○○。	40-8(14)
月與秋期。而身○去。	49-2(23)	【花樹】	
耳目所觸。○事不悲。	50-5(24)	北芒新墳。已見七尺之○○。	51-14(26)
非暇大日遍照之光。○成黑夜破暗之計。	50-5(24)	【花色】	
既云香緣。○隔阿鼻。	51-14(26)	公主若住暫舍之○○。常樂風吹忽令開敷。	46-11(20)

【花前】			
○○辭恩。不見掖庭之月。	47-3(21)	○○遠近。緇素尊卑。	32-13(10)
【花朝】		【華界】	
椒房○○。蘭殿雪夜。	45-2(19)	忽出冷泉之寶宮。永遷眞如之○○。	39-2(13)
【花釐】		【華構】	
漢宮入內之夜。傍○○而成歡。	47-5(21)	仍自長保六年三月一日。結○○償初心。	25-5(4)
【花露】		→ (皇○·法○經·蓮○世界)	
論此浮生。如彼○○乎。	31-1(9)	【假】	
→ (榮○·覺○·貫○·惠○·香○·醉○·千○·優曇○ ·落○·離○·林○)		不知妙音暫來自界。○爲後宮歟。	46-7(20)
【果】		非○大日遍照之光。何成黑夜破暗之計。	50-5(24)
佗方妙覺之○。速證四八相之金容。	29-2(7)	【菓】	
意藥發露。無上之○欲求。	32-3(10)	【菓醫】	
【果報】		何疑鉢羅樹下。開○○而轉妙輪。	42-13(16)
豈唯○○之殊勝乎。兼復道場之莊嚴也。	23-12(3)	【過】	
非唯○○之殊勝。兼爲佛庭之莊嚴。	26-11(5)	【過去】	
→ (證○·增○·得○·佛○·妙○)		補助○○。恢弘方來。	24-12(4)
【迦】		如遇○○之二親。振肝葉而歡喜。	26-14(5)
【迦葉】		低頭舉手。懺悔○○之罪業。	33-11(11)
摩訶○○。跪奉付囑之衣。	45-11(19)	抑佛昔於○○釋迦牟尼佛所。	33-13(11)
→ (釋○)		【遐】	
【哥】		【遐邇】	
【哥王】		於是幽明共動。○○普驚。	32-4(10)
玉體萬機。化出○○之表。	32-12(10)	【禍】	
→ (鸞歌)		何圖樂未央哀先至。福漸始○早成。	47-3(21)
【夏】		【禍福】	
【夏季】		○○相改。忽赴佗方之遊。	45-7(19)
○○受病。秋初背世。	50-13(25)	【嘉】	
【夏臘】		【嘉手】	
遊俗之魂更還。乞求○○高僧之戒。	51-2(25)	是以剛拙掌而馳筆區。以信爲○○。	25-6(4)
→ (華○·去○)		【寡】	
【家】		【寡居】	
四海之○未作貧也。豈若眞如之寂靜。	41-6(15)	雙林忽唱滅度。至悲者椒庭○○之秋風。	44-5(18)
【家鄉】		【寡婦】	
裔然去難去之○○。弃難弃之恩愛。	34-6(12)	或及暮齡爲○○。或多愁恙無依怙之人等也。	46-5(20)
【家譜】		【霞】	
抑檢○○。萬歲藤之榮。	24-15(4)	亢龍雲慘。晏駕○登。	43-4(17)
【家風】		【霞浪】	
去冬之歡情。幾誇○○於一枝之桂。	51-5(25)	羅蓮分味。所助者千比丘之○○。	41-13(15)
→ (一○·十○·出○·仙○·百○·良○)		【霞袂】	
【華】		爰雲衲○○。或來自靈鷲山之巔。	26-15(5)
菩提樹下。七覺之○彌鮮。	40-5(14)	→ (煙○·昇○)	
【華夷】		方	
○○銷塵。盡感四海之靜謐。	24-3(3)	【臥】	
○○消災。幽顯蒙益。	27-8(5)	坐爰○爰。空思瑤裙之去日。	45-8(19)
莫不臣妾感其恩。○○歸其德。	42-6(16)	【臥雲】	
【華夏】		○○之後。雖謙一乘佛子之名。	42-12(16)
		【臥病】	

又○○之間。爲蒙冥助有奉圖樂師如來之願。	51-2(25)	→ (辯○)
【賀】		【悔】
率鸞鳳之群。代鶯雀之○。	26-15(5)	翠柳不澗。何貽霜後之○。
【雅】		→ (後○・憊○・追○)
【雅音】		【恢】
月前之秋宴。吹玉笛以自繰○○。	44-9(18)	【恢弘】
【駕】		福助過去。○○方來。
機緣薪滅。花界○催。	42-8(16)	【海】
自彼白鷄驚睡。九原之○不歸。	50-3(24)	佛心湛水。智惠之○無涯。
豈圖北芒○促。營終制於老翁。	50-14(25)	【海岸香】
→ (晏○・奔○・龍○)		優曇花發。○○○薰。
【鵝】		【海象】
【鵝王】		甚深之義。○○吐明月之珠。
乃至○○威力。遠任遍法界之風聲。	24-5(3)	【海中】
カイ		爲滿求願。喻之○○如意之珠。
【灰】		生死○○。慈氏之月未照。
【灰燼】		誠是生死○○大船師。煩惱病中大醫王也。
未揚題名。忽作○○。	39-6(13)	→ (愛○・苦○・四○・慈○・渡○・南○・乳○・佛○・欲○)
【快】		【界】
【快樂】		法音沸天。三千之○盡動。
天下安穩。萬民○○。	25-16(4)	有爲之鄉。無邊之○。
努力莫爲人中之雲雨。自愛不受天上之○○。	48-7(22)	凡此○古今婦人之出家也。
【戒】		昔龍女獻珠。已證三明於南無垢之○。
【戒師】		→ (下○・花○・華○・境○・現○・恒沙○・沙○・三○・三千○・自○・世○・是○・佗○・佛○・遍法○・蓮華世○)
請故延曆寺座主大僧正良源爲○○。	46-5(20)	【偕】
→ (菩薩○)		【偕老】
【改】		百年○○之契。不異夢路之花。
【改生】		【開】
雖歷劫。雖○○何忘。	48-13(23)	【開悟】
→ (相○・不○・變○)		難解難入之門排扇。○○不測。
【乖】		【開講】
【乖例】		國母臨期。○○於一伽藍。
而上月中旬。寢膳○○。	50-2(24)	【開三】
【廻】		○○顯一之文。春花貫以永點。
【廻向】		【開示】
以○○天衆地祇三界四恩。	23-4(2)	法涌菩薩之對揚。寄思○○。
以此一善。○○四恩。	25-16(4)	仰願。功德池上。結妙果於○○之蓮。
所修功德。○○十界。	27-7(5)	【開盡】
【廻施】		千花○○之候。百鳥和鳴之時。
法會勝利。普將○○。	24-3(3)	【開敷】
願以此功德。○○諸衆生。	28-8(6)	常樂風吹。忽令○○。
以此勝利。遍擬○○。	29-10(7)	【階】
→ (輪○)		如佛子者。不及古人之喻。猶不可天之○矣。
【芥】		→ (崇○・星○)
【芥城】		
○○縱盡。不退之輪長轉。	26-2(4)	

【會】 便開支提之○。三身歸心。 23-14(3) → (講○・齋○・大○・萬燈○)	○○習人間之息災。唯是充身後之追福而已。 31-4(9) 定知貧憐圓明之覺花。○往還煩惱之火宅。 39-7(13) 【豈若】 九重之居非不貴也。○姑射之幽閑。 41-6(15) 四海之家未作貧也。○真如之寂靜。 41-7(15) 【豈圖】 ○隨有隨無。低頭以纒供給。 23-1(2) ○二月十二日中夜。機緣薪滅。花界駕催。 42-8(16) ○更引遺孤。吞悲而經營今日之事。 44-10(18) ○北芒駕促。營終制於老翁。 50-14(25) 【豈不】 ○哀哉。○痛哉。 34-7(12) 【蓋】 ○慕古人廬墓側之跡所草創也。 26-7(5) ○聞大寶蓮尊。貫四時而不凋。 44-15(19) → (成○・幡○) 【蓋】 ○檀那善女人之願也。 28-7(6) → (寶○)
【解】 【解脱】 意樹送春。○之枝點萼。 30-11(8) 下則○群生輪迴之苦緣。 46-12(20) 【解嘲】 齋然聊露膽於三寶。兼○於衆人。 34-12(12) → (雞○)	【槐】 【槐棘】 伴○以高法棟。擬王丞相之拜先塋。 25-14(4) 【槐門】 家既○。何復待厚祿而猶豫。 49-1(23)
【薤】 【薤鹽】 夫來而不留。○有拂晨之露。 31-1(9) 【壞】 【壞劫】 成劫○。前身後身。 31-13(10) → (不○)	【蓋】 ○聞大寶蓮尊。貫四時而不凋。 44-15(19) → (成○・幡○) 【蓋】 ○檀那善女人之願也。 28-7(6) → (寶○)
【懷】 【懷古】 ○感今。異處同趣。 29-10(7) → (交○・宿○)	【カク】 【隔】 玄風雖遙○。遺韻叩而猶聞。 43-15(18) 光陰○歲。憂喜同門。 51-5(25) 誠乃四恩之不同。雖知凡聖之相○。 52-4(27) → (相○)
【繪】 【繪畫】 今加○。聊以供養。 51-3(25) → (圖○)	【覺】 【覺花】 ○承步。應化之跡長芳。 31-12(10) 定知貧憐圓明之○。豈敢往還煩惱之火宅。 39-7(13) 安樂界中。攀○於彌陀之樹。 50-8(24) 【覺月】 三明告曉。飛○於昏衢者也。 45-1(19) 【覺藥】 往返六趣之衆生。思授○。 29-5(7) 今秋之悲淚。欲開○於千葉之蓮。 51-5(25) 【覺路】 七寶池中。破波旬以登○。 42-13(16) → (圓○・七○・正○・登○・本○・妙○)
【外】 【外人】 養在深窻。○不識。 47-1(21) 【艾】 【艾服】 方今齡近○。不可恃餘年以依違。 48-15(23) 【豈】 況於人倫。○輕桑梓乎 34-16(12) 後生之善提者。我之所爲先。○令墜惡趣乎。 35-4(12) 滅罪登覺之謀。○其不熟。 51-4(25) 他方利生之化相催。○留中有之風。 52-15(27) 【豈唯】 ○果報之殊勝乎。兼復道場之莊嚴也。 23-12(3) ○三州五郡之淺契。內外感之影從。 25-15(4) 【豈敢】	【鶴】 【鶴禁】 蘭殿椒房。○兔園。 32-12(10) 【鶴板】 是以○頻馳。延講席於旒宸之南面。 52-9(27) 【鶴綾】 ○鳳錦。故園之浮埃。誰敢留心。 45-4(19) 【鶴林】

〇〇雲歸。鱗水義絶。	41-14(15)	猶恐九泉之底。永纏〇〇。	30-6(8)
【鶴勒】		【寒風】	
〇〇有一之才。傳義賈於長秋之聽。	29-8(7)	爲禦秋山之〇〇。追贈福田之法衣。	51-2(25)
ガク		【寒木】	
《樂→ラク》		媛〇〇於大智之日。淚變蒼栢之煙。	26-2(4)
【筭】		→ (飢〇・忍〇)	
媛鉢羅之〇。三觀失方。	40-2(14)	【閑】	
香則求難陀此岸之煙。花則攀樹提後園之〇。	50-7(24)	南海亂常之族。逆浪不〇。	30-5(8)
→ (點〇・蓮〇)		【閑敵】	
カツ		擇此地之〇〇。修法華三昧。	24-1(3)
《かつ=且→ショ》		【閑素】	
【割】		何必〇〇之儒者。得書大般若。	22-13(2)
妾五内如〇。一心已迷。	51-9(26)	→ (幽〇)	
カン		【感】	
【甘】		懷古〇今。異處同趣。	29-10(7)
【甘苦】		觸物之〇。莫不催悲。	45-9(19)
春往秋來。所視者珍膳之〇〇。	45-3(19)	【感應】	
【甘露】		祖考〇〇。垂冥助之令然也。	25-8(4)
霑朽壤於〇〇之泉。手播白蓮之種。	26-2(4)	【感涙】	
菩提分種。將灑〇〇於六趣之身田。	45-12(19)	推其樂字之趣。〇〇難禁。	27-6(5)
【官】		是以〇〇暗催。心作此念。	33-7(11)
【官軍】		【漢】	
雖在官軍。雖在逆黨。	30-9(8)	【漢宮】	
→ (春〇千〇・天〇・微〇)		〇〇入内之夜。傍花釐而成歡。	47-5(21)
【肝】		→ (雲〇・羅〇)	
【肝葉】		【緩】	
如遇過去之二親。振〇〇而歡喜。	26-14(5)	【緩頰】	
→ (燕〇・摧〇・心〇)		若萬人〇〇苦心而諫之。我未必從。	35-2(12)
【捍】		【諫】	
【捍命】		若萬人緩頰苦心而〇之。我未必從。	35-2(12)
東山〇〇之徒。陣雲慢起。	30-5(8)	【勸】	
【貫】		【勸心】	
大小乘之並軸。〇春花而爭鮮。	41-11(15)	母曾無怨貌。既有〇〇。	35-1(12)
【貫花】		【勸誘】	
難解難入。白蓮之種〇〇。	30-3(8)	〇〇相從者。纒二三輩。	34-9(12)
故瑩白銀鑄出滿月之容。研黃金寫成〇〇之偈。	45-6(19)	【歡】	
【寒】		【歡喜】	
【寒草】		如遇過去之二親。振肝葉而〇〇。	26-14(5)
此山之叢中。縱有〇〇依造塔之力可暖。	27-5(5)	切利天宮之園。含〇〇之號。	29-9(7)
【寒冰】		衆心〇〇。得未曾有。	33-12(11)
		【歡娛】	
		畿内畿外。皆報千門萬戸之〇〇。	29-12(7)
		【歡情】	
		去冬之〇〇。幾誇家風於一枝之桂。	51-5(25)
		【歡樂】	
		須臾之〇〇。還爲苦緣。	29-3(7)
		→ (-〇)	

【觀】					
爰發菩提心。凝道場。	49-4(23)		我○已滿。任限亦滿。	23-7(2)	
【觀音】			增長福壽。圓滿御。	23-5(2)	
夫遊十方而導衆生。○○之誓自在。	30-8(8)		仰○諸佛知見證明。	23-6(2)	
又不知○○欲度隨類。爲現化身歟。	46-7(20)		神明○賜靈呪。	23-7(2)	
【觀音得大】			仰○玉臺之中。彌添玉德。	24-4(3)	
問前途於何處。○○○狹路而奉迎。	40-3(14)		不忘敬始○善終。	24-10(4)	
【觀念】			我○已滿。衆望亦足。	25-16(4)	
護一乘之法輪。○○不變。	24-2(3)		仰○三寶增益一念。	26-1(4)	
→ (止○・道場○)			○共諸衆生。上征兜率。西遇彌陀。	26-3(4)	
ガン			發未曾有之○。	26-7(5)	
【含】			弟子所○。已同互文。	27-7(5)	
公主若住暫○之花色。常樂風吹忽令開敷。	46-11(20)		亦○上自紫宸。下及黔首。	27-8(5)	
【含哀】			增益我○。助成我○。	27-9(5)	
繙素○○。空聞暮山咽嵐之松響。	40-10(14)		蓋檀那善女人之○也。	28-7(6)	
【岸】			○以此功德。廻施諸衆生。	28-8(6)	
證明恩波之無○。知見聖德之有隣。	30-12(8)		仰○多寶如來。從地涌出。	30-11(8)	
白浪咽石之○。相同鷺池。	32-8(10)		又○燕肝越膽。輪迴之鄉無期。	30-12(8)	
→ (此○・彼○)			伏○諸佛如說隨喜。	31-4(9)	
【眼】			雖在我○。人間催信。	32-1(10)	
但我是罪障之身。血肉之○。	34-4(12)		○我與善知識。共奉造釋迦尊之形像。	33-7(11)	
故宮寄○月光。殊昔秋之色。	41-14(15)		發心作○曰。○我成佛時。名曰釋迦牟尼。	33-13(11)	
先朝之舊賜。非可驚○。	45-4(19)		佛子今○亦復如是。	33-14(11)	
【眼下】			齋然○先參五臺山。欲逢文殊之卽身。	34-3(12)	
噫娑婆遺哀。縱有千行於○○。	45-10(19)		○次詣中天竺。欲禮釋迦之遺跡。	34-3(12)	
弟子涕淚流無從。迷倒雲漢於○○。	52-6(27)		無事不成。無○不遂。	34-6(12)	
【眼前】			佛子自發此○。獨恠此心。	34-8(12)	
尊儀猶如在于○○。顧命亦忝留于耳底。	44-10(18)		有何心有何○乎。	34-13(12)	
→ (驚○・合○・青○・啼○・柳○・兩○・蓮○)			唯○如來永拂魔事。將報佛恩。	35-10(12)	
【旣】			四十年中利生之○不遂。	40-2(14)	
清涼之春花。日遲或賜共○。	47-15(22)		故濟生○遠。已拂煩惱之萍。	41-7(15)	
【旣月】			唯○大悲。照此御○者。	41-9(15)	
南樓○○之人。月與秋期而身何去。	49-1(23)		一准在世之御○。併攀證果之良因。	41-16(15)	
【腐】			佛者生前之御○。以三尊爲賢明。	44-6(18)	
【腐行】			仰○驚頭雲霧。雞足山開。	45-10(19)	
紫磨金之文。○○成字。	32-2(10)		唯○大悲導此中志。	47-10(21)	
【腐塔】			佛○有罪無罪。定救我兒。	48-9(22)	
○○功能。遙分利衆生之月影。	24-5(3)		仰○功德池上。結妙果於開示之蓮。	50-7(24)	
敬奉餽龍駕之不返。兼復供○○之新成。	40-9(14)		除病延命之○。已以不諧。	51-3(25)	
【腐門】			仰○大悲照我幽憤。	51-9(26)	
敬唸○○之師。講演驚峯之偈。	31-4(9)		【願主】		
【顏】			劫石雖磷。○○之印不剝。	26-2(4)	
【顏巷】			【願文】		
匡衡幸出○○之雪窗。謬莅尾州之風俗。	22-12(2)		其由諸詳見寬弘二年十月供養寺之○○矣。	26-8(5)	
【願】			→ (求○・心○・發○・本○)		
其一○曰。就天滿天神廟。會文士獻詩篇。	22-5(1)		キ		
			【希】		

【希代】		【揮淚】	
皆是權化之人。○○之器也。	34-10(12)	右膝著地。左手○○。	40-11(14)
【希有】		【期】	
○○難解之法。可期其佛身。	22-6(1)	欲歸故鄉之○。今不幾。	23-7(2)
【忌】		刻十月定星之○。廻萬代不朽之計。	25-7(4)
【忌景】		況雪鬢齡邁。黃壤○催。	31-2(9)
視聽之悲未半。○○之期既臻。	42-11(16)	然則去留難定。變改難○。	35-9(12)
爰四十九日○○已至。	51-12(26)	有爲之悲難忘。不待稱揚之○。	39-6(13)
【忌辰】		視聽之悲未半。忌景之○既臻。	42-11(16)
今當七七○○。奉治鑄白銀像阿彌陀佛。	46-8(20)	釋尊唱滅之○八十。聖靈纔是四十一。	43-5(17)
及于○○。奉圖繪法華曼荼羅一摸。	48-5(22)	南樓翫月之人。月與秋○而身何去。	49-2(23)
→(七七○·聖○)		飲恨之日漸積。食香之○欲盈。	50-5(24)
【奇】		【期年】	
【奇肱】		盡丹青於一心之中。成粉墨於○○之內。	41-13(15)
因尋○○。而奉造白檀觀世音菩薩一柱。	31-2(9)	→(三○·盡○·無○·臨○)	
【倚】		【貴】	
【倚壁】		【貴賤】	
虛弓○○。向曉月而斷腸。	51-12(26)	長安洛陽。○○上下。	32-5(10)
【奢】		→(富○)	
【奢域】		【黑】	
世尊患風。○○施獻藥之術。	40-1(14)	【黑連河】	
【奢囑】		過於○○○之苦行一年。禪定水靜。	42-9(16)
幽巖定不忘峴亭之月。法音亦傳○○之風。	49-9(23)	【跪】	
【記】		摩訶迦葉。○奉付囑之衣。	45-11(19)
【記里】		綺	
而今佛道○○之車忽摧。向何方而爲指南。	52-10(27)	【綺語】	
【起】		花言○○之遊。何益於神道。	22-6(1)
【起緣】		【綺饌】	
凡厥發因○○。或順或逆。	33-14(11)	爰展一日之錦筵。普施千僧之○○。	30-11(8)
→(五○·漫○)		秋山運心。所設者百羅漢之○○。	41-13(15)
【飢】		【綺窓】	
【飢寒】		便是○○瞑目之時。寧非蓮臺結跏之日。	46-10(20)
餘年之水菽者。汝之所可營。何以及○○。	35-4(12)	【綺羅】	
【鬼】		去年初促二八廻之桃梨。得列八十餘之○○。	47-15(22)
【鬼儲】		【器】	
阿育者阿闍世王之孫也。假神力而賁○○。	27-10(5)	皆是權化之人。希代之○也。。	34-10(12)
→(邪○)		弟子重寄過○。渥澤溢身。	49-2(23)
【喜】		→(法○)	
無怨無怒。無○無辱。	28-2(6)	【機】	
【喜懼】		【機緣】	
閑計寶筭之盈歎。獨歎○○之交懷。	45-3(19)	○○薪滅。花界駕催。	42-8(16)
→(歡○·隨○·憂○)		→(萬○)	
【基】		【歸】	
星階昔位。便是月輪之○。	49-11(23)	此界得益之緣早斷。定○本覺之月。	52-15(27)
【揮】		【歸依】	
【揮涕】		共致○○。令遂供養。	32-5(10)
今弟子○○。欲開九品於西極樂之池。	47-9(21)	爲慈母一月十日。精進○○。	35-6(12)

【歸心】 便開支提之會。三身〇〇。	23-14(3)	【九】 【九億】 道儀照地。〇〇之人皆來。	27-1(5)
【歸眞】 冤靈邪鬼。銷怨氣以〇〇。 → (實〇・不〇)	29-10(7)	【九棘】 三台〇〇。百辟千僚。	32-13(10)
ギ		【九原】 自彼白雞驚睡。〇〇之駕不歸。	50-3(24)
【伎】		【九十】 昔忉利天之安居〇〇日。刻赤梅壇而摸尊容。	33-9(11)
【伎樂】		【九重】 爰移仙居於〇〇之裏。營孝思於萬機之先。	45-2(19)
請僧六十口。〇〇兩三聲。	22-14(2)	我上皇〇〇之居。非不貴也。	41-6(15)
方今聊設〇〇。供以音聲。	32-9(10)	【九泉】 猶恐〇〇之底。永纏寒冰。	30-6(8)
【義】		〇〇別淚。送千秋而無窮。	50-14(25)
甚深之〇。海像吐明月之珠。	32-8(10)	仲冬上旬之初日兮。永告〇〇之別。	52-5(27)
【義資】		【九尊】 仍奉續八葉〇〇曼荼羅一鋪。	50-6(24)
鶴勒有一之才。傳〇〇於長秋聽。	29-8(7)	今拂〇〇方廣之場。	50-8(24)
【疑】		【九品】 〇〇雲聳。今則三界之慈親。	39-7(13)
叡心所指。〇在花時。	40-8(14)	今弟子揮涕。欲開〇〇於西極樂之池。	47-9(21)
佛事廣作。何〇速證之實語。	43-7(17)	西方極樂。定登〇〇之蓮臺。	51-14(26)
何〇哉。何〇哉。	48-9(22)	→ (四十〇・十〇・二十〇)	
〇是靈鷲山之乘五色雲以飛來歟。	25-12(4)	【久】	
【疑網】		【久遠】 〇〇幾〇〇乎。未來幾末來乎。	28-3(6)
八正分源。斷〇〇於愛海。	45-1(19)	【弓】 虛〇倚壁。向曉月而斷腸。	51-12(26)
→ (何〇)		【及】	
【戲】		【及第】 登覺之路欲絀。脫去春官〇〇袍。	51-1(25)
昔幼日童子之〇。聚沙施石。	27-9(5)	→ (普〇・無〇)	
→ (於〇)		【汲】	
キツ		【汲引】 此生永隔〇〇之厚願。何日再瞻慈悲之尊容。	41-14(15)
【乞】		【朽】	
【乞求】		【朽骨】 從爲東岱之暗魂。北芒之〇〇。	31-2(9)
遊岱之魂更還。〇〇夏臘高僧之戒。	51-2(25)	【朽索】 撫民失方。懼〇〇於奔駕。	30-5(8)
キヤク		【朽壤】 霑〇〇於甘露之泉。手播白蓮之種。	26-2(4)
【客】		→ (不〇)	
入唐間待商賈之〇而得渡。	34-3(12)	【求】	
ギャク		【求願】 爲滿〇〇。喻之海中如意之珠。	23-2(2)
【逆】			
凡厥發因起緣。或順或〇。	33-14(11)		
【逆修】			
是卽爲慈母。七七日所〇〇也。	35-6(12)		
【逆黨】			
雖在官軍。雖在〇〇。	30-9(8)		
【逆浪】			
南海亂常之族。〇〇不閑。	30-5(8)		
キュウ			

〔求道〕		〔舊枕〕	
暮年出家。一旦○○。	22-5(1)	鴛鴦衾空。向○○而濕袂。	50-4(24)
〔求法〕		〔舊容〕	
凡入唐○○之人。自宗者弘法大師。	34-9(12)	一咲再顧。既是羅山之○○。	46-2(20)
爲○○不來。爲修行卽來也。	34-14(12)	〔舊勞〕	
〔究〕		雖近習○○之僕妾。不能陪侍。	25-4(4)
〔究竟〕		→ (新○)	
○○當得不壞之身矣。	26-11(5)	キヨ	
〔虬〕		〔去〕	
〔虬箭〕		○而不返。權籬無投暮之花。	31-1(9)
射山計日。○○頻移。	40-4(14)	〔去夏〕	
〔泣〕		○○哀情毒焰。在胷而未滅。	47-4(21)
○而更○。玉卵共破於煙巢。	47-4(21)	〔去日〕	
弟子上○聖明之恩。下○父子之愛。	48-2(22)	坐憂臥憂。空思瑤裙之○○。	45-8(19)
爲思門業。○而不許。	51-1(25)	〔去春〕	
堂上有齡傾之老母。○後事於松門之煙	52-6(27)	○○以還。聖體不豫。	40-1(14)
→ (一○)		〔去冬〕	
〔宮〕		○○以降。聖體不豫。	42-7(16)
少陽之○。龍胎勸延年之術。	32-12(10)	○○之歡情。幾誇家風於一枝之桂。	51-5(25)
〔宮牆〕		〔去年〕	
眞如定是把孔雀之尾掃○○。	40-10(14)	鳳舞鸞歌。雖乖○○之聖感。	40-8(14)
→ (漢○・月○・故○・後○・中○・長秋○・切利天○・寶○)		○○初心。只契延齡之驗。	45-9(19)
〔救〕		○○初促二八廻之桃李。得列八十餘之綺羅。	47-14(22)
苦海將○。遂入佛海之清虛。	42-7(16)	〔去留〕	
〔鳩〕		然則○○難定。變改難期。	35-9(12)
〔鳩鳴〕		→ (過○・脫○・無○)	
沙婆假使出○○之城彈右指。	40-9(14)	〔巨〕	
〔鳩車〕		〔巨唐〕	
弟子自竹馬○○。至而立強仕。	24-9(4)	捨本土朝○○。有何心有何願乎。	34-13(12)
〔舊〕		〔居〕	
蔡子宅中。魚網雖○。	41-10(15)	紫微聖德之○。金輪常照。	29-11(7)
〔舊院〕		我上皇九重之○。非不貴也。	41-6(15)
天官依勅而輸錢帛。○○有議以營佛經。	42-11(16)	→ (安○・寡○・群○・仙○)	
〔舊儀〕		〔炬〕	
設六日之大會。移五時之○○。	33-10(11)	智慧是○。照群迷於昏衢。	30-3(8)
四德○○。變作萬行之備。	49-11(23)	昔一婆聲聞之展齋筵。廣勤三明之○。	32-5(10)
〔舊賜〕		〔擧〕	
銀燭金沙。先朝之○○。非可驚眼。	45-4(19)	〔擧手〕	
〔舊日〕		低頭○○。懺悔過去之罪業。	33-11(11)
尋冲襟於○○。畢繕寫今朝。	41-10(15)	〔擧燭〕	
蘿襟雲納。不改○○之詔名。	40-9(14)	山嵐朝掃庭。溪月夜○○而已。	25-5(4)
〔舊臣〕		〔虛〕	
○○奉令旨。令修如件。	41-16(15)	〔虛弓〕	
仰而戀恩者。寧非丹墀之○○。	42-9(16)	○○倚壁。向曉月而斷腸。	51-12(26)
〔舊寢〕		〔虛心〕	
適於平生之○○。聊開供講之梵筵。	51-13(26)	求密法者至之。至之者作○○之禮。	52-8(27)

【虛名】		便就法性寺。敬奉○○。	46-9(20)
仙殿新成。雖恨長生之○○。	43-7(17)	便於法性寺道場。敬奉○○。	47-8(21)
→ (消○)		便於法性寺。敬以奉○○。	48-6(22)
キヨ		五日十座。○○講演。	49-5(23)
【魚】		知恩追孝之輩。誰不走使之○○者乎。	49-7(23)
金星銀星之左右。饒設塔之○。	26-13(5)	今加繪畫。聊以○○。	51-3(25)
夫非○者。不可以知○樂。	34-11(12)	【羌】	
【魚虫】		【羌笛】	
禽獸○○。何物非流轉之父母。	31-14(10)	洞簫○○之管。曲沸晴天。	32-9(10)
【魚網】		【恭】	
蔡子宅中。○○雖舊。	41-10(15)	【恭敬】	
キョウ		或催功德於人民。或得○○於草木。	32-6(10)
【況】		【笥】	
○雪鬢齡邁。黃壤期催。	31-1(9)	見露盤之耀日。道場觀之○已開。	26-14(5)
既到其土而不易。○見其身而可難。	34-4(12)	去夏哀情毒焰。在○而未滅。	47-4(21)
何○道云俗云。誹謗虛胡者。已千萬人。	34-8(12)	【胸臆】	
雖誠禽獸猶思鄉土。○於人倫豈輕桑梓乎。	34-15(12)	星霜十四迴。○○千萬緒。	31-15(10)
○八萬十二之校量。誰敢知淺深。	41-12(15)	【笥前】	
○於蘭省梨園乎。○於虎閩鳳閣乎。	44-9(18)	眞如新飴。定現萬字於○○。	45-10(19)
○於凡身乎。○於下界乎。	46-1(20)	【胸中】	
○寵深者思又深。榮甚者畏又甚。	49-2(23)	心肝屠而不靜。如吞風胡於○○。	52-6(27)
→ (何○)		【笥】	
【供】		更防淚川。○○溢而難留。	46-15(21)
【供給】		【教】	
豈圖隨有隨無。低頭以纒○○。	23-1(2)	【教化】	
【供講】		三界何子。不蒙○○。	33-13(11)
廼於平生之舊寢。聊開○○之梵筵。	51-13(26)	【教主】	
【供佛】		南無一代○○釋迦尊。	27-8(5)
○○之誠。唯志是盡。	50-6(24)	【教迹】	
○○施僧之資貯。專任東閣之芳意。	52-13(27)	境離器塵。洞留○○。	49-8(23)
【供養】		【教法】	
不能○○此經。亦不能遂任秩。	22-11(2)	徒衆及○○。如今日世尊。	33-14(11)
若人作樂。○○三寶。	23-14(3)	→ (一乘○・權實○・顯○・象○・傳○大師)	
○○之。演說之。	25-9(4)	【強】	
設○○於無羶。期香花於不朽。	26-7(5)	【強仕】	
其由緒詳見寬弘二年十月○○寺之願文矣。	26-8(5)	弟子自竹馬鳩車。至而立○○。	24-9(4)
今日設大會。○○此寶塔。	26-15(5)	【鄉】	
是故聽聞受持者。書寫○○者。	29-1(7)	燕肝越膽。輪迴之○無期。	30-12(8)
共致歸依。令遂○○。	32-5(10)	有爲之○。無邊之界。	31-7(9)
五日十講。○○演說。	35-6(12)	分段生死之○。難緩有涯之冠。	41-6(15)
仍於圓覺道場。奉○○件佛經。	39-2(13)	【鄉土】	
以前○○尊像。演說妙典。	39-15(14)	雖誠禽獸。猶思○○。	34-15(12)
以前佛經。○○演說。	42-5(16)	→ (家○・故○・佗○・桐○)	
奉圓寫件佛經。敬以奉○○矣。	43-7(17)	【境】	
卽於平昔之燕寢。敬以○○演說。	44-7(18)	○離器塵。洞留教迹。	49-8(23)
		【境界】	
		稽首和南。三寶○○。	44-15(19)

→ (詩〇)

【興】

【興隆】

澄清天下。〇〇佛法。 23-5(2)

〇〇之思。猶切當今。 23-11(3)

重爲佛法〇〇。自他利益。 29-7(7)

→ (聲〇)

【鏡】

【鏡匣】

珊瑚床下。〇〇遺染淚之塵。 45-8(19)

【響】

磬聲未斷。應〇添因。 49-12(23)

→ (松〇・虫〇)

【驚】

於是幽明共動。遐迩普〇。 32-4(10)

孟冬上旬之初日兮。忽〇八風之變。 52-5(27)

【驚眼】

先朝之舊賜。非可〇〇。 45-4(19)

【驚睡】

自彼白雞〇〇。九原之駕不歸。 50-3(24)

【驕】

【驕慢】

雖生鐘鼎之門。未見〇〇之色。 50-1(24)

ギョウ

【業】

【業因】

是娑婆世界衆生。徒累火血刀之〇〇焉。 33-5(11)

→ (惡〇・惠〇・黒〇・罪〇・勝〇・善〇・白〇・門〇)

【曉】

洞月〇到。空瞻望於鼎湖之雲。 43-6(17)

三明告〇。飛覺月於昏衢。 45-1(19)

【曉雞】

〇〇一聲。長臨無常之別。 50-2(24)

【曉月】

虛弓倚壁。向〇〇而斷腸。 51-12(26)

【曉夕】

〇〇參詣。孝之至也。 26-8(5)

【曉風】

飾金之鐸。待〇〇而常鳴。 23-13(3)

鶯舌無識。猶奏怨曲於庭樹之〇〇。 41-11(16)

【曉露】

權實教之飛文。垂〇〇而分點。 41-11(15)

【曉浪】

四海皆戀仁恩。最深者渭陽嗚咽之〇〇。 44-4(18)

キョク

【極】

【極樂】

後世亦地下拔苦。往生〇〇之樂。 27-7(5)

目雖暗有意。得念〇〇。 28-1(6)

專念彌陀。永歸〇〇。 32-10(10)

十萬億之國土何言遼。早迎仙躡於〇〇。 44-11(18)

今弟子揮涕。欲開九品於西〇〇之池。 47-9(21)

弟子早引幽靈。偏在〇〇。 48-8(22)

西方〇〇。定登九品之蓮臺。 51-14(26)

大師尊靈。往生〇〇。 52-14(27)

ギョク

【玉】

玉軸星羅。見崑山之積〇。 25-10(4)

早尋成子之石。永贈王母之〇。 43-5(17)

【玉山】

有虞帝舜之德。風悲〇〇之東。 43-4(17)

【玉軸】

〇〇星羅。見崑山之積玉 25-10(4)

【玉體】

玄圃仙遊之際。〇〇永明。 29-11(7)

〇〇萬機。化出哥王之表。 32-12(10)

【玉臺】

〇〇之中。彌添玉德。 24-4(3)

【玉枕】

侵省昏定。所問者〇〇之高卑。 45-3(19)

【玉笛】

月前之秋宴。吹〇〇以自練雅音。 44-9(18)

【玉德】

玉臺之中。彌添〇〇。 24-4(3)

【玉帛】

財幣〇〇。莛莛羅列。 22-15(2)

【玉卵】

泣而更泣。〇〇共破於煙巢。 47-4(21)

→ (瑩〇・積〇・美〇)

キン

【巾】

【巾箱】

於是天使相望雲泥之間。手命欲滿〇〇之裏。 48-2(22)

【巾櫛】

主我〇〇。積以星霜。 50-2(24)

【今】 《・は〈昔時—今時〉を対照するもの》

〇老沙彌。無便營風月之賽。 22-6(1)

・昔玄奘三藏。～〇白衣弟子。 23-3(2)

〇令移舊造普賢菩薩像。 24-1(3)

・昔幼日童子之戲。～〇長年丞相之勤。瑩玉範金。

	27-9(5)	吞悲而經營○○之事。	44-11(18)
• 昔當萬邦之有罪。～○思四生之無安。求哀於十方。		○○善業。上則增加新佛瓔珞之末光。	46-11(20)
	30-7(8)	○○一念。於是而盡。	47-9(21)
在○尋古。世異趣同。	30-10(8)	→ (古○・當○・方○)	
• 昔朱邑之歸邑里也。○弟子之誠子孫也。	31-5(9)	【勻】	
• 昔切利天之安居九十日。～○跋堤河之滅度二千年。		彼金谷醉花之地。花每春○而主不歸。	49-1(23)
	33-9(11)	【近】	
衆生慈父。○已在此。	33-12(11)	【近習】	
• 抑佛昔於過去釋迦牟尼佛所。～佛子○願亦復如是。		雖○○舊勞之僕妾。不能陪侍。	25-4(4)
	33-14(11)	→ (遠○)	
○遇其便。欲遂此志。	34-3(12)	【金】	
• 本是諸天之愛子。～○則三界之慈親。	39-7(13)	金言流布。知提河之有○。	25-10(4)
• 昔是無何在心。～○亦有爲厭世。	39-15(14)	【金河】	
• 昔釋迦善逝。～○國母寶宮。	41-9(15)	阿闍世王之夢。煙暗○○之西。	43-4(17)
○勤信心之惠業者。	42-14(16)	【金言】	
○當七七之御忌。	43-6(17)	○○流布。知提河之有金。	25-10(4)
○當七七忌辰。	46-8(20)	【金絃】	
○四十九日齋會。	47-6(21)	空桑賢輔。久保○○之名。	29-11(7)
• 昔龍女獻珠。～○弟子揮涕。欲開九品於西極樂之池。		【金光明經】	
	47-9(21)	降法雨而洗災患。○○○○之威力最勝。	45-5(19)
不聞于○仁王垂哀憐。	48-5(22)	【金谷】	
○若默而止。其奈後悔何。	49-2(23)	彼○○醉花之地。花每春勻而主不歸。	49-1(23)
○佛九尊方廣方之場。	50-8(24)	【金沙】	
○當七七忌。令修此惠業。	50-13(25)	銀燭○○先朝之舊賜。非可驚眼。	45-4(19)
○加繪畫。聊以供養。	51-3(25)	【金人】	
○佛道記里之車忽權。向何方爲指南。	52-10(27)	弟子欲訪旅魂而未由。故圖○○以爲使。	48-4(22)
• 昔當正法多智行人之間。～○臨末法少智行人之時。		【金星】	
	52-11(27)	○○銀星之左右。飭護塔之魚。	26-13(5)
【今秋】		【金殿】	
• 去冬之歡情。～○○之悲淚。欲開覺藥於千葉之蓮。		○○之上。又照金輪。	24-4(3)
	51-5(25)	【金文】	
【今世】		經是昇霞之後。○○新成。	39-3(13)
更迨○○。受此苦惱。	47-6(21)	【金谷】	
【今朝】		佗法妙覺之果。速證四八相之○○。	29-2(7)
七七御忌。已當○○。	39-2(13)	【金輪】	
• 去年初心。～○○新變。	45-9(19)	忝擗惠業。奉祈○○聖主。	23-5(2)
• 尋冲襟於舊日。畢繕寫於○○。	41-11(15)	金殿之上。又照○○。	24-4(3)
【今冬】		紫微聖德之居。○○常照。	29-11(7)
• 去夏哀情毒焰。～○○啼眼寒。	47-4(21)	○○千幅。道被飛帝之先。	32-11(10)
【今日】		→ (黃○・紫磨○・飾○・範○)	
○○擇曜宿。始法華三昧。	25-7(4)	【金】	
○○設大會。供養寶塔。	26-15(5)	鴛鴦○空。向舊枕而濕袂。	50-4(24)
我等不圖。○○奉見靈山釋迦。	33-12(11)	【禽】	
• 抑佛昔於過去釋迦牟尼佛所。～如○○世尊。	33-14(11)	【禽獸】	
• 皆以○○之善根。將爲來世之張本。	33-14(11)	○○魚虫。何物非流轉之父母。	31-13(10)
• 昨日爲是。○○爲非。	35-9(12)	雖誠○○猶思鄉土。況於人倫豈輕桑梓乎。	34-15(12)
○○之遺恨。只在此事。	39-6(13)	→ (飛○)	

【槿】**【槿籬】**

去而不返。○○無投暮之花。 31-1(9)

【錦】**【錦筵】**

愛展一日之○○。普施千僧之綺饌。 30-10(8)

【錦繡】

紅葉亂飛。暗成千花○○之帳。
→ (鳳○)

ギン**【銀】****【銀燭】**

○○金沙先朝之舊賜。非可驚眼。 45-4(19)

【銀星】

金星○○之左右。飭護塔之魚。
→ (白○)

ク**【苦】**

動五逆四重之辜。免三惡八難之○。 32-14(10)

【苦緣】

須臾之歡樂。還爲○○。 29-3(7)

下則解脫群生輪迴之○○。 46-12(20)

【苦海】

慈悲爲舟。濟庶類於○○。 30-3(8)

無明夢驚。長別○○。 32-11(10)

○○將救。遂入佛海之清虛。 42-7(16)

雖知○○之常理。還迷淚川之難留。 49-15(24)

【苦行】

過於熙連河之○○一年。禪定水靜。 42-9(16)

【苦空】

○○傳音。如聞命命之鳥。 32-10(10)

【苦心】

若萬人緩頰○○而諫之。我未必從。 35-2(12)

【苦惱】

更迫今世。受此○○。 47-6(21)

【苦輪】

大都○○之中。不免生死者也。
→ (甘○・拔○・忘○・憂○・離○)

【軀】**【軀命】**

然猶不顧○○。不著名利。 34-7(12)

【摺】

弟子宿報可思。後生可○。
→ (喜○)

グ**【具】****【具足】**

初謂盡善盡美。○○以快薰修。 23-1(2)

此院堂舍鐘樓。皆悉○○。 23-12(3)

【具縛】

功能出於般若。饒益傳於○○。 28-5(6)

【愚】**【愚者】**

何必質朴之○○。得爲州刺史。 22-13(2)

【愚丹】

○○所思。啓白如此。 27-10(5)

平素不能採蘭以翹誠。○○或欲刻木以捍貌。 48-14(23)

クウ**【空】**

又不知母者在此土而○亡。子者於佗鄉而不歸。 35-8(12)

緇素含哀。○聞暮山咽嵐之松響。 40-10(14)

先於沙羅林之涅槃三日。應化月○。 42-10(16)

柳眼無情。○添啼粧於池堤之暮雨。 42-11(16)

洞月曉到。○瞻望於鼎湖之雲。 43-6(17)

坐憂臥憂。○思瑤裙之去日。 45-8(19)

方今佛云經云。○留何益。 45-9(19)

鴛鴦○。向舊枕而濕袂。 50-4(24)

窓中堆詩書。舒卷罷而塵○積。 51-11(26)

尼連禪河之水音。○咽跋提之淚浪。 52-3(27)

【空桑】

○○賢輔。久保金鉉之名。 29-11(7)

→ (苦○・三○・眞○)

クン**【薰】****【薰修】**

初謂盡善盡美。具足以快○○。 23-1(2)

似對優曇之一現。合掌花而○○。 26-15(5)

一香一色。遍恒沙界以○○。 28-9(6)

併關○○。咸證妙覺。 32-14(10)

グン**【群】****【群緣】**

人間催信。既寄○○。 32-1(10)

【群居】

方今仁山長崩。○○無主之荒砌。 40-3(14)

【群生】

下則解脫○○輪迴之苦緣。 46-12(20)

【群迷】			
智惠是炬。照〇〇於昏衢。	30-3(8)		
【群類】			
兼三界而救〇〇。妙法之功甚深。	30-8(8)		
無始以來。所有〇〇。	32-14(10)		
ゲ			
【偶】			
敬囑隔門之師。講演鷲峯之〇。	31-4(9)		
故瑩白銀鑄出滿月之容。研黃金寫成貫花之〇。	45-6(19)		
→ (半〇・寶〇)			
ケイ			
【兄】			
計其寶筭。釋迦如來一年之〇。	39-5(13)		
【兄弟】			
問此巖頭。亦瘞同胞〇〇之芳骨。	25-4(4)		
佛子有男女〇〇二三人。	35-3(12)		
【形】			
【形骸】			
山川藪澤。何處無生死之〇〇。	31-14(10)		
【形言】			
若一親〇〇變色而留之。我可何逆哉。	35-2(12)		
【形勝】			
方今時時詣墳墓。爲建寺指點〇〇。	25-3(4)		
【係】			
【係首】			
或伏白刃而〇〇。或迷蒼波而亂骸。	30-6(8)		
【契】			
出世〇深。遂赴菩提之道。	41-7(15)		
百年偕老之〇。不異夢路之花。	50-3(24)		
松蘿之〇。於今相違。	51-13(26)		
→ (淺〇)			
【肩】			
青鳥催悲。三泉之〇長鎖。	50-4(24)		
→ (排〇)			
【計】			
刻十月定星之期。廻萬代不朽之〇。	25-7(4)		
非假大日遍照之光。何成黑夜破暗之〇。	50-6(24)		
【計日】			
射山〇〇。虬箭頻移。	40-4(14)		
【桂】			
去冬之歡情。幾誇家風於一枝之〇。	51-5(25)		
【荊】			
【荊谿】			
室中多年少之遺弟。失前途於〇〇之雲。	52-7(27)		
【惠】			
【惠花】			
然後功德成林。普開〇〇於四生之意樹。	45-11(19)		
【惠業】			
忝捧〇〇。奉祈金輪聖主。	23-5(2)		
揔擎此〇〇。奉飭聖靈。	39-6(13)		
四十九之〇〇。國母臨期。	40-5(14)		
今勤信心之〇〇者。唯添法身之莊嚴也。	42-14(16)		
所生〇〇。資御菩提。	43-7(17)		
揔擎〇〇。奉翊山陵。	45-10(19)		
以此〇〇。訪彼幽靈。	50-7(24)		
今當七七忌。令修此〇〇。	50-13(25)		
【惠日】			
天神地祇之不同。共向〇〇。	24-3(3)		
天神地祇。向〇〇而增光。	27-8(5)		
→ (智〇・定〇・福〇)			
【景】			
【景從】			
奉飭聖靈。千官〇〇。	39-7(13)		
【景闌】			
于時芳非候過。清和〇〇。	49-9(23)		
→ (忌〇)			
【敬】			
【敬始】			
不好獨善企兼濟。不忘〇〇願善終。	24-10(4)		
→ (忝〇)			
【溪】			
【溪月】			
山嵐朝掃庭。〇〇夜舉燭而已。	25-5(4)		
【溪鳥】			
法音不聞。只聞〇〇嶺猿。	24-11(4)		
【經】			
不見〇不見佛。不知晝不知夜。	28-2(6)		
云佛云〇。計微劫以度脫。	28-8(6)		
〇者夢後之精勤。以一乘爲輿證。	44-6(18)		
【經營】			
豈圖更引遊孤。吞悲而〇〇今日之事。	44-10(18)		
【經曰】			
〇〇。若聞釋迦牟尼如來名號。雖未發心。			
已是菩提矣	33-7(11)		
【經卷】			
法皇平日讚揚之窓。〇〇之塵漸積。	42-10(16)		
【經說】			
如此〇〇。濟度不遺。	29-12(7)		
【經典】			
方今此寺有佛像焉。有〇〇焉。	26-9(5)		
→ (一乘〇・金光明〇。法華〇)			
【慶】			

爰承累葉之○。浴皇華之恩。	24-12(4)	【結使】	
學顯教者住之。住之者有寶歸之○。	52-8(27)	度塔上之飛禽。避○○之羅。	27-4(5)
→ (有○・餘○)		【潔】	
【響】		【潔信】	
【響聲】		苟有○○。潢汗之水非穢。	22-15(2)
○○未斷。應響添因。	49-12(23)	→ (不○)	
【蕙】		ゲツ	
【蕙心】		【月】	
○○春淺。未及二八之齡。	47-1(21)	臣妾猶期浮沈於仙院之○。	44-3(18)
【谿】		生死海中。慈氏之○未照。	28-3(6)
【谿鳥】		○殘露結之朝。折籬花以供佛界。	31-6(9)
雪盡冰解之日。付○○而傳妙音。	31-6(9)	無相之○早歲。雖顯寂滅之理。	39-6(13)
→ (荊○)		定知真如宮裏。三明之○更朗。	40-5(14)
【響】		先於沙羅林之涅槃三日。應化○空。	42-10(16)
【響咳】		洞○曉到。空瞻望於鼎湖之雲。	43-6(17)
合眼憂悲。彈指○○。	30-7(8)	長秋宮之○非不潔。宿望偏在三明。	46-3(20)
【瓊】		花前辭恩。不見掖庭之○。	47-3(21)
【瓊苗】		南樓斷○之人。○與秋期而身何去。	49-2(23)
悲之又悲。○○同枯於芝畝。	47-4(21)	幽儀定不忘峴亭之○。	49-8(23)
【雞】		一園中之花○。相傳失主。	50-15(25)
【雞足】		此界得益之緣早斷。定歸本覺之○。	52-15(27)
驚頭雲霧。○○山開。	45-11(19)	【月影】	
→ (曉○・白○)		陋塔功能。遙分利衆生之○○。	24-5(3)
ゲキ		夫菩提道樹之○○。遂隱沙羅之愁雲。	52-3(27)
【鷓】		【月宮】	
【鷓首】		○○留影。雖得承天之名。塵翳寄身。	29-4(7)
龍頭○○之舟。棹穿秋水。	32-9(10)	【月光】	
		故宮寄眼○○。殊昔秋之色。	41-14(15)
《けだし=蓋・蓋→ガイ》		【月支】	
		香煙卽是○○之所獻。	44-7(18)
		【月前】	
		○○之秋宴。吹玉笛以自練雅音。	44-9(18)
		【月窻】	
		排○○以仰天人師於其際。	49-4(23)
		【月殿】	
		殊於王舍城之東河。假立佛世尊之○○。	32-6(10)
		【月輪】	
		若有未明之○○。餘習之雲散永令圓滿。	46-11(20)
		星階昔位。便是○○之基。	49-11(23)
		→ (花○・覺○・翫○・曉○・溪○・三五○・秋○・澄○ ・日○・風○・滿○・明○)	
		ケン	
		【見】	
		【見佛】	
		抑亦○○聞法之大緣。	25-15(4)

令衆生得〇〇聞法之便。	33-8(11)	【顯教】	學〇〇者往之。往之者有實歸之慶。	52-8(27)
【見欲】			→ (幽〇)	
雖向衆色。不起〇〇。	28-2(6)	【驗】	栴檀糖之羹。一服無〇。	40-2(14)
→ (照〇・知〇・不〇)			去年初心。只契延齡之〇。	45-9(19)
【卷】		ゲン		
〇風幌以嘯龍衆於其前。	49-4(23)	【言】	佛子一歎一泣。淚與〇落。	35-2(12)
【卷霧】			【言辭】	
朝野〇〇。皆戴三光之精明。	24-3(3)		凡厥視聽所觸。〇〇無及者乎。	52-7(27)
→ (經〇)			→ (一〇・花〇・形〇)	
【兼】		【現】	【現界】	
豈唯果報之殊勝乎。〇復道場之莊嚴也。	23-12(3)		乃至有緣無緣。〇〇佗界。	32-13(10)
整理音樂。〇令舞人盡其妙曲。	23-15(3)		【現世】	
將通音信而無便。〇寫寶偈以代書。	48-5(22)		半是爲菩提。半是爲〇〇。	27-2(5)
【兼濟】			〇〇則天下太平。理世安樂之樂。	27-6(5)
不好獨善企〇〇。不忘敬始願善終。	24-9(4)		【現當】	
【峴】			今慈母〇〇植因結緣也。	35-7(12)
【峴亭】			→ (一〇)	
幽巖定不忘〇〇之月。法音亦可傳響嘯之風。	49-8(23)		【玄】	
【研】			【玄奘三歲】	
故瑩白銀鑄出滿月之容。〇黃金寫成貫花之偈。	45-6(19)		昔〇〇〇〇。從大唐顯慶五年正月。	23-3(2)
【研精】			【玄鬢】	
〇〇黃金。奉書寫妙法蓮華經二部各八卷。	49-3(23)		〇〇翠蛾。莫不洛川之麗質。	46-2(20)
【劔】			【玄風】	
故〇在傍。撫秋水而流淚。	51-12(26)		〇〇雖遙隔。遺韻叩而猶聞。	43-15(18)
→ (故〇・智〇)			【玄圃】	
【賢】			〇〇仙遊之際。玉體永明。	29-11(7)
【賢士】		コ		
彼端木者魯之〇〇也。移家於孔子之墓傍。	25-13(4)		【古】	
【賢輔】			〇之塔瓦文。有萬歲千秋樂未央之七字。	27-6(5)
空桑〇〇久保金鉉之名。	29-11(7)		【古今】	
→ (普〇菩薩)			荒原〇〇之骨。東岱先後之魂。	32-14(10)
【黔】			德化光於〇〇。福惠被於幽顯。	44-2(18)
【黔首】			凡此界〇〇婦人之出家也。	46-5(20)
亦願上自紫宸。下及〇〇。	27-8(5)		【古株】	
【懸】			縱有〇〇。依造塔力可榮。	27-5(5)
【懸光】			【古塚】	
佛日〇〇。真空之理已顯。	31-12(10)		〇〇繁々。幽塚寂々。	24-10(4)
→ (高〇)			【古人】	
【櫛】			蓋墓〇〇廬墓側之跡。所草創也。	26-7(5)
【櫛化】			如佛子者。不及〇〇之喻。	34-10(12)
皆是〇〇之人。希代之器也。	34-9(12)		【古人云】	
【櫛實教】				
〇〇〇之飛文。垂曉露而分點。	41-11(15)			
【顯】				
佛日懸光。真空之理已〇。	31-12(10)			
【顯一】				
開三〇〇之文。春花貫以永點。	42-5(16)			

〇〇〇縱有爲大山者。覆一簣以不止。終及萬仞矣。	34-4(12)	一夕〇〇。竊所庶幾也。	45-3(19)
一又有赴長途者。投咫尺以不留。必屈千里焉。	34-5(12)	【五逆】	
【古木】		勳〇〇四重之辜。免三惡八難之苦。	32-14(10)
剎那之榮花。更變〇〇。	29-3(7)	【五郡】	
→ (尋〇・戀〇)		豈唯三州〇〇之淺契。內外戚之影從。	25-15(4)
【姑】		【五時】	
【姑山】		設六日之大會。移〇〇之舊儀。	33-10(11)
泡山可厭。忽尋〇〇之幽邃。	42-6(16)	【五障】	
【姑射】		又欲其奈此〇〇何。	48-7(22)
九重之居非不貴。豈若〇〇之幽閑。	41-6(15)	【五色雲】	
【姑射山】		疑是靈鷲山之乘〇〇〇以飛來歟。	25-12(4)
〇〇〇之上。送八十年之春風。	39-4(13)	【五尺】	
【虎】		彼大王之力也。〇〇猶假天工。	33-9(11)
【虎闕】		【五盡】	
鳥獸哀聲。況於〇〇鳳閣乎。	44-9(18)	夜漏〇〇。遂謝有涯之生。	50-2(24)
【虎尾】		【五衰】	
如履〇〇。如撫龍鬚。	24-13(4)	天上之樂。終爲〇〇之悲。	46-1(20)
【孤】		欲其奈彼〇〇何。	48-7(22)
【孤魂】		樂盡哀來。天人猶逢〇〇之日。	49-15(24)
以此勝業。奉訪〇〇。	47-8(21)	【五層】	
【故】		悅〇〇之漸成。整八音而期會。	40-7(14)
【故園】		【五臺山】	
〇〇之浮埃。誰敢留心。	45-4(19)	尙然願先參〇〇〇。欲逢文殊之卽身。	34-3(12)
【故宮】		【五內】	
〇〇寄眼月光。殊昔秋之色。	41-14(15)	〇〇無靜日。四運有盡期。	48-15(23)
【故鄉】		妾〇〇如割。一心已迷。	51-9(26)
欲歸〇〇之期。今不幾。	23-7(2)	【五百】	
【故劍】		黃河澄波。再計〇〇之歲。	24-4(3)
〇〇在傍。撫秋水而流淚。	51-12(26)	【五部法】	
【胡】		受〇〇〇。新瀉智水於瓶中。	42-7(16)
【胡馬】		→ (三〇月・三〇七)	
〇〇非北風不斷。越鳥非南枝不巢。	34-15(12)	【後】	
→ (風〇・虛〇)		悲之又悲。莫悲於老〇子。	50-12(25)
【辜】		【後胤】	
勳五逆四重之〇。免三惡八難之苦。	32-14(10)	聚龍象以弘智峯。譏羊太傅之絕〇〇。	25-14(4)
【顧】		【後園】	
常念一家之子孫。附門戶於其〇。	47-2(21)	香則求難陀此岸之煙。花則攀樹提〇〇之萼。	50-7(24)
【顧命】		【後悔】	
尊儀猶如在於眼前。〇〇亦忝留于耳底。	44-10(18)	是而不勤。〇〇不及。	28-4(6)
→ (弘〇・厚〇・再〇)		今若默而止。其奈〇〇何。	49-2(23)
ゴ		【後宮】	
【五】		不知妙音暫來自界。假爲〇〇歟。	46-7(20)
【五蘊】		【後事】	
〇〇六根。雖陰陽之陶冶。	31-13(10)	常念西日影斜。付〇〇於吾子。	50-13(25)
【五起】		堂上有齡傾之老母。泣〇〇於松門之煙。	52-6(27)
		【後身】	
		成劫壞劫。前身〇〇。	31-13(10)

彼即身也。是○○也。	48-9(22)	○○林之中。迎四八相之秋月。	39-4(13)
【後世】		○○之餘。普及遠近。	39-8(13)
○○亦地下拔苦。往生極樂之樂。	27-6(5)	○○之餘。普及一切。	43-8(17)
奉資先公相府之○○。	49-11(23)	然後○○成林。普開惠花於四生之意樹。	45-11(19)
【後生】		所生○○。消滅黑業。	48-7(22)
弟子宿報可思。○○可懼。	28-3(6)	所生○○。無量無邊。	49-11(23)
○○之善提者。我之所為先。	35-4(12)	○○池上。結妙果於開示之蓮。	50-7(24)
訪○○於誰家。寶樹蓮臺加莊嚴而相待。	40-3(14)	○○多少。摠導幽靈。	51-4(25)
【後處】		普及○○。併弘利益。	52-15(27)
○○既俊。佛心唯照。	45-12(19)	【功能】	
→(身○·醉○·先○·霜○·夢○)		磨塔○○。遙分利衆生之月影。	24-5(3)
【寤】		○○出於般若。饒益傳於具縛。	28-5(6)
【寤寐】		彼一句半偈之○○。佛猶難算數。	41-11(15)
○○念佛。唯善是勸。	51-10(26)	→(成○·積○·微○)	
【護】		【弘】	
【護持】		【弘願】	
烏瑟暗加○○。羊柱適畢書寫。	32-2(10)	真救跪於佛法僧前。起悲心發○○。	28-8(6)
【護塔】		【弘徽】	
金星銀星之左右。筋○○之魚。	26-13(5)	○○之秋月。夜永不許獨看。	47-15(22)
【護法】		【弘法大師】	
普賢策六牙而○○也。	49-6(23)	凡入唐求法之人。自宗者○○○○。	34-9(12)
→(誓○)		→(恢○)	
コウ		【交】	
【亢】		【交壞】	
【亢龍】		閑計寶筭之盈微。獨歎喜懼之○○。	45-4(19)
○○雲慘。晏駕霞登。	43-4(17)	【光】	
【孔】		落花飄飄之○。寧如翻袖。	23-15(3)
【孔子】		影臨萬水。○滿三空。	33-4(11)
彼端木者魯之賢士也。移家於○○之墓傍。	25-13(4)	德化○於古今。福惠被於幽顯。	44-2(18)
【孔雀】		摩尼珠○。照三世而彌朗。	44-15(19)
眞如定是把○○之尾掃宮牆。	40-10(14)	燈下告別。長失朝露之○。	47-3(21)
【功】		非假大日遍照之○。何成黑夜破暗之計。	50-5(24)
草創之○。雖在宿昔。	23-11(3)	【光陰】	
兼三界而救群類。妙法之○甚深。	30-8(8)	方今七七聖忌。○○欲盈。	44-6(18)
此貧道之○也。丈六適叶人望。	33-10(11)	○○隔歲。憂喜同門。	51-5(25)
【功德】		【光儀】	
○○無邊。普及一切。	22-7(1)	花香梵唄之莊嚴。亦在南嶽之○○。	52-14(27)
所生○○。以莊嚴三寶大海三所權扉。	23-4(2)	→(威○·金○明經·月○·懸○·三○·增○·大○·浮 ○·放○·末○·妙○法師)	
所得○○。無量無邊。	23-14(3)	【行】	
○○遍于法界。利益及于衆生。	25-15(4)	三五月下。登覺之○暗催。	40-2(14)
入此道場。證明○○。	26-1(4)	至于禱男女。各皆翰誠勸○。	44-2(18)
弟子年來作○○。種種無量。	27-2(5)	【行住】	
所修○○。廻向十界。	27-7(5)	○○坐臥。事三寶。	24-14(4)
夫率都婆之○○。大哉至哉。	28-4(6)	【行年】	
願以此○○。廻施諸衆生。	28-8(6)	老母在堂。○○六十。	34-16(12)
或催○○於人民。或得恭敬於草木。	32-6(10)	【行路】	

問前途於何處。觀音得大狹○○而奉迎。	40-3(14)	況復○○漸淺。可動風前之心。	29-3(7)
→ (厲○·苦○·孝○·修○·千○·智○·半○·萬○·無○·勸○)		【紅葉】	
【劫】		○○亂飛。暗成千花錦繡之帳。	25-10(4)
【劫石】		【苟】	
○○雖磷。願主之印不剝。	26-2(4)	○有潔信。潢汗之水非穢。	22-15(2)
→ (一○·壞○·成○·微塵○·歷○)		○有香緣。知惠之花自開。	22-15(2)
【孝】		【荒】	
倩毗首而加意匠。移○禮尊顏。	25-7(4)	【荒原】	
曉夕參詣。○之至也。	26-8(5)	○○古今之骨。東岱先後之魂。	32-14(10)
【孝行】		○○送終之時。混松風而添哭。	47-5(21)
佛子拋母欲去。則可失○○。	35-1(12)	【荒砌】	
【孝思】		仁山長崩。郡居無主之○○。	40-3(14)
營○○於萬機之先。	45-2(19)	○○尋聲虫響。非前年之聽。	41-15(15)
【孝文皇帝】		【香】	
計其御寓。則過○○○○理世之年。	44-5(18)	飲恨之日漸積。食○之期欲盈。	50-5(24)
→ (至○·追○)		○則求難陀此岸之煙。花則擎樹提後園之萼。	50-7(24)
【更】		合掌爲花。善心爲○。	51-14(26)
○臨夜漏。設萬燈會。	32-9(10)	【香煙】	
○訴遺恨於何處。	41-8(15)	迴可○○之不絕者。無恨石火之早敵矣。	31-6(9)
○防淚川。宵陵溢而難留。	46-15(21)	七匠○○。琉璃之雲成蓋。	33-11(11)
泣而○泣。玉卵共破於煙巢。	47-4(21)	○○卽是月支之所獻也。	44-7(18)
○迨今世。受此苦惱。	47-6(21)	【香緣】	
恨而○恨。莫恨於少先親。	50-12(25)	苟有○○。知惠之花自開。	22-15(2)
遊岱之魂○還。乞求夏菟高僧之戒。	51-2(25)	以此○○。奉饒彼蓮座。	41-14(15)
【厚】		既云○○。何隔阿鼻。	51-14(26)
【厚願】		【香花】	
此生永隔汲引之○○。何日再瞻慈悲之尊容。	41-14(15)	此一乘教。有心展○○之蕊。	22-6(1)
【厚祿】		松筠有心之地。○○不朽之場也。	23-11(3)
家卽槐門。何復待○○而猶豫。	49-1(23)	以○○梵唄。洪鐘浮磬。	25-9(4)
【恒】		設供養於無疆。期○○於不朽。	26-7(5)
【恒沙界】		【香山】	
一香一色。遍○○以薰修。	28-9(6)	或降自雪嶺○○。或至自菴園奈苑。	32-7(10)
【恒轉】		【香爐】	
卽謂法輪以○○爲宗。	49-7(23)	爰雲衲霞袂。或來自靈鷲山之嶺。	27-1(5)
【洪】		→ (一○·花○·海岸○·餘○·匿○)	
【洪鐘】		【候】	
以香花梵唄。○○浮磬。	25-9(4)	千花開盡之○。百鳥和鳴之時。	29-7(7)
【皇】		于時芳菲○過。清和景爾。	49-9(23)
【皇恩】		【降】	
弟子者日本國王之舅也。浴○○而興佛法。	27-10(5)	【降魔】	
【皇華】		法軍○○之兵長去。遺誰人而令背北。	52-10(27)
爰承累葉之慶。浴○○之恩。	24-12(4)	【降臨】	
→ (孝文○帝)		普賢菩薩乘象○○。	30-12(8)
【紅】		處處訪名。普課良家之總卯。	40-7(14)
【紅桃】		【高】	
○○結子。三期一千之秋。	24-4(3)	【高懸】	
		八萬四千之相。秋月滿而○○。	42-5(16)

【高山】			
先照○○。次及幽谷。	33-4(11)		
【高僧】			
忝啞六百○○之龍象。將歸十六大會之煙霞。	32-7(10)		
遊岱之魂更還。乞求夏臘○○之戒。	51-2(25)		
【高卑】			
殷省昏定。所問者玉枕之○○。	45-3(19)		
→ (隋○祖)			
【黃】			
【黃河】			
○○澄波。再計五百之歲。	24-4(3)		
【黃金】			
夫近塔之土。變爲○○。	27-3(5)		
故瑩白銀鑄出滿月之容。研○○寫成貫花之偈。	45-6(19)		
研精○○。奉書寫妙法蓮華經二部各八卷。	49-3(23)		
【黃壤】			
況雪鬢齡邁。○○期催。	31-2(9)		
【漬】			
【漬汗】			
苟有潔信。○○之水非穢。	22-15(2)		
【廣】			
【廣作】			
佛事○○。何疑速證之實語。	43-7(17)		
→ (方○)			
【講】			
【講演】			
敬啞禪門之師。○○驚峯之偈。	31-4(9)		
五日十座。供養○○。	49-5(23)		
【講筵】			
便於此院。敬展○○。	41-13(15)		
便於仙遊道場。敬展○○。	51-4(25)		
【講會】			
仍須明歲已後。移此○○。	49-7(23)		
【講肆】			
便於法性寺道場。敬開○○。	50-6(24)		
【講席】			
兼期春風。敬展○○。	45-7(19)		
是以鶴板頻馳。延○○於旒屐之南面。	52-9(27)		
【講說】			
所以○○此經典者。	35-7(12)		
→ (開○・供○・十○・八○)			
【糞】			
栴檀糞之○。一服無驗。	40-2(14)		
ゴウ			
【合】			
【合眼】			
○○愛悲。彈指警咳。		30-7(8)	
【合掌】			
佛子齋然至心○○。而白佛言。	34-2(12)		
然猶若比弟子之○○。彼一落不再開。	49-10(23)		
○○爲花。善心爲香。	51-14(26)		
【合力】			
漸漸○○。微微成功。	32-1(10)		
→ (和○)			
【號】			
切利天宮之園。含歡喜之○。	29-9(7)		
→ (十○・名○)			
【器】			
【器塵】			
境離○○。洞留教迹。	49-8(23)		
コク			
【告】			
【告別】			
燈下○○。長失朝露之光。	47-3(21)		
【刻】			
【刻心】			
慈悲稟性。佛法○○。	42-6(16)		
【刻木】			
造普賢而爲○○拜貌之志。	25-6(4)		
愚丹或欲○○以拜貌。	48-15(23)		
【哭】			
荒原送終之時。混松風而添○。	47-5(21)		
【尅】			
分段生死之鄉。難緩有涯之○。	41-6(15)		
【國】			
娑婆電泡之○。誰免無常之悲。	41-5(15)		
【國王】			
弟子者日本○○之舅也。	27-10(5)		
【國土】			
十萬億之○○何言遙。早迎仙蹕於極樂。	44-11(18)		
【國母】			
四十九之惠業。○○臨期。	40-5(14)		
今○○寶宮。爲飭上皇之德。留闔浮而設齋。	41-9(15)		
→ (安樂○・日本○)			
【黑】			
【黑業】			
所生功德。消滅○○。	48-7(22)		
【黑夜】			
非假大日遍照之光。何成○○破暗之計。	50-5(24)		
【酷】			
忽遇蘭房之永凋。○嘆善苗之不熟。	40-8(14)		

《ゴク=極→キョク》

ユツ

【忽】

- 出冷泉之寶宮。永遷眞如之華界。 39-2(13)
- 未揚題名。○作灰燼。 39-5(13)
- 遇蘭房之未凋。酷嘆善苗之不熟。 40-7(14)
- 何臨夕陽之西傾。○逢慈雲之東斷。 41-7(15)
- 泡山可厭。○尋姑山之幽邃。 42-6(16)
- 雙林○唱滅度。至悲者椒庭寡居之秋風。 44-4(18)
- 菩提之饒○成。所加只四衆戀慕之新淚。 44-8(18)
- 禍福相改。○赴佗方之遊。 45-7(19)
- 今年五月。○以入滅矣。 46-2(20)
- 公主若住暫舍之花色。常樂風吹○令開敷。 46-11(20)
- 孟冬上旬之初日兮。○驚八風之變。 52-5(27)
- 而今佛道記里之車○摧。向何方而爲指南。 52-10(27)

【骨】

- 荒原古今之○。東岱先後之魂。 32-14(10)
- (朽○・芳○)

コン

【昏】

- 殷省○定。所問者玉枕之高卑。 45-3(19)
- 【昏衢】
- 智惠是炬。照群迷於○○。 30-3(8)
- 三明告曉。飛覺月於○○者也。 45-1(19)

《コン=金→キン》

【恨】

- 止其中間。空欲歸三惡。 28-4(6)
- 迴可香煙之不絕者。無○石火之早滅矣。 31-7(9)
- 仙殿新成。雖○長生之虛名。 43-7(17)
- 本志無遂。朕○云何。 45-12(19)
- 綿綿此○。生生何忘。 47-5(21)
- 獨作燈下伴彩之身。猶添窓中戀古之○。 50-4(24)
- 方今飲○之日漸積。食香之期欲盈。 50-5(24)
- 而更○。莫○於少先親。 50-12(25)
- (遺○)

【岷】

【岷山】

- 玉軸星羅。見○○之積玉。 25-10(4)

【紺】

【紺頂】

- 無去無來。○○之影澄月。 30-3(8)

【紺瑠璃】

- 之紙。象教垂跡。 32-1(10)

【魂】

- 荒原古今之骨。東岱先後之○。 32-14(10)
- 遊俗之○更還。乞求夏臘高僧之戒。 51-2(25)
- (暗○・寃○・孤○・銷○・反○・旅○)

サ

【左】

【左手】

- 右膝著地。○○揮淚。 40-11(14)

【左右】

- 金星銀星之○○。饒護塔之魚。 26-13(5)

【沙】

【沙界】

- 乃至有頂阿鼻。鐵圍○○。 52-15(27)

【沙羅】

- 夫菩提道樹之月影。遂隱○○之愁雲。 52-3(27)

【沙羅林】

- 先於○○○之涅槃三日。應化月空。 42-9(16)
- (金○・恒○界・聚○・老○彌)

【娑】

【娑婆】

- 是○○世界衆生。徒累火血刀之業因焉。 33-5(11)
- 言其尊儀。○○世界十善之主。 39-4(13)
- 假使出鳩鳴之城彈右指。 40-9(14)
- 電泡之國。誰免無常之悲。 41-5(15)
- 噫○○遺哀。縱屑千行於眼下。 45-10(19)
- (婆○)

ザ

【坐】

【坐臥】

- 行住○○。事三寶。 24-14(4)

【坐愛】

- 臥愛。空思瑤裙之去日。 45-8(19)
- (半○)

【座】

- 被如來之衣。著菩薩之○。 26-1(4)
- 無上世尊。高並妙覺之○。 45-11(19)
- (十○・蓮○)

サイ

【才】

- 鶴勒有一之○。傳義實於長秋之聽。 29-8(7)

【才色】

- 彼○○雖非絕代。恩寵亦不愧人。 47-15(22)

【才名】					47-6(21)
〇〇超衆。修學命世。	34-10(12)	【濟】			
→ (無〇・有〇)		【濟生】			
【再】		故〇〇願遠。已拂煩惱之萍。		41-7(15)	
【再顧】		【濟度】			
一咲〇〇。既是羅山之舊容。	46-2(20)	如此經說。〇〇不遺。		29-12(7)	
【災】		→ (拔〇)			
【災患】		【賽】			
降法雨而洗〇〇。金光明經之威力最勝。	45-5(19)	今老沙彌。無便替風月之〇。		22-6(1)	
→ (消〇・息〇)		【灑】			
【最】		將〇甘露於六趣之身田。		45-12(19)	
【最少】		ザイ			
女御贈從四位上藤原朝臣者。弟子〇〇之兒也。	47-1(21)	【在】			
【最勝】		在世			
金光明經之威力〇〇。	45-6(19)	不值〇〇之日。不生正法之時。		33-6(11)	
【催】		佛則〇〇之時。蓮眼早發。		39-3(13)	
況雪鬢齡邁。黃壤期〇。	31-2(9)	一准〇〇之御願。		41-15(15)	
三五月下。登覺之行暗〇。	40-2(14)	【在藩】			
他方利生之化相〇。豈留中有之風。	52-15(27)	〇〇諸王。不改磐石之固。		29-11(7)	
【催信】		【材】			
人間〇〇。既寄群緣。	32-1(10)	〇明六通。文殊能辨瑞於往昔。		28-14(7)	
【催悲】		→ (不〇)			
宵鳥〇〇。三泉之扇長鎖。	50-4(24)	【財】			
【催淚】		佛界責信不責〇。世尊依誠不依物。		47-8(21)	
耳目所觸。莫不〇〇。	41-15(15)	【財幣】			
→ (相〇)		〇〇玉帛。莛莛羅列。		22-15(2)	
【歲】		【罪】			
黃河澄波。再計五百之〇。	24-4(3)	遂議征伐而出師。更愍滅亡而泣〇。		30-6(8)	
思以涉〇。不敢語人。	24-12(4)	昔當萬邦之有〇。歸責於一人。		30-7(8)	
欲報之心。成〇而已。	48-15(23)	【罪業】			
→ (涉〇・早〇・萬〇)		低頭舉手。懺悔過去之〇〇。		33-12(11)	
【摧】		【罪根】			
【摧肝】		加以流轉三有之群類。欲拔〇〇。		29-4(7)	
燕雀巢覆。撫遺卵而〇〇。	50-5(24)	修行是勤。〇〇漸滅。		34-7(12)	
【際】		【罪障】			
玄圃仙遊之〇。玉體永明。	29-11(7)	但我是〇〇之身。血肉之眼。		34-4(12)	
【蔡】		→ (無〇・滅〇・有〇)			
【蔡子】		サク			
〇〇宅中。魚網雖舊。	41-10(15)	【昨】			
【齋】		【昨日】			
爲飭上皇之德。留閣浮而設〇。	41-9(15)	〇〇爲是。今日爲非。		35-9(12)	
【齋菴】		サツ			
昔一婆聲聞之展〇〇。廣勤三明之炬。	32-5(10)	【薩】			
【齋會】		【薩埵】			
唐太宗之設〇〇。迎亡卒於菩提之門。	30-10(8)				
爰設〇〇。彌增善因。	42-12(16)				
今四十九日〇〇。奉圖金剛界成身會受茶羅一鋪。					

如來○○。知見證明。	49-9(23)	青烏催悲。○○之厲長鎖。	50-4(24)
サン		【三尊】	
【三】		佛者生前之御願。以○○爲賓朋。	44-6(18)
【三惡】		【三台】	
恨止其中間。空欲歸○○。	28-4(6)	○○七棘。百辟千僚。	32-13(10)
動五逆四重之辜。免○○八難之苦。	32-14(10)	【三塗】	
【三界】		○○之間。彌溺沸鼎。	30-6(8)
以廻向天衆地祇○○四恩。	23-5(2)	【三寶】	
兼○○而救群類。妙法之功甚深。	30-8(8)	以莊嚴○○大海三所權扉。	23-4(2)
○○何子。不蒙教化。	33-13(11)	若人作樂供養○○。	23-14(3)
九品雲聳。今則○○之慈親。	39-7(13)	行住坐臥。事○○。	24-14(4)
【三期】		仰願○○增益一念。	26-1(4)
紅桃結子。○○一千之秋。	24-4(3)	齋然聊露瞻於○○。兼解嘲於衆人。	34-12(12)
【三殿】		蕩妄想於眞如。捨七寶以敬○○。	44-1(18)
優鉢羅之萼。○○失方。	40-2(14)	稽首和南。○○境界。	44-15(19)
【三空】		稽首禮足。十方○○。	46-15(21)
影臨萬水。光滿○○。	33-4(11)	仰願○○界會。悉知悉見。	52-14(27)
【三五月】		【三昧】	
○○○下。登覺之行暗催。	40-2(14)	至行○○。	24-2(3)
【三五七】		爭於茲山脚。造一堂修○○。	24-12(4)
愛○○○之良因。聖主每度修福於七箇寺。	40-4(14)	貞信公建法性寺修○○。	25-2(4)
【三光】		九條右相府建楞嚴院修○○。	25-2(4)
朝野卷霧。皆戴○○之精明。	24-4(3)	先考建法興院修○○。	25-3(4)
【三日】		【三密】	
先於沙羅林之涅槃○○。應化月空。	42-9(16)	今亦有爲厭世。入○○而出家。	40-1(14)
【三州】		【三明】	
豈唯○○五郡之淺契。内外感之影從。	25-15(4)	昔一婆聲聞之展齋筵。廣勤○○之炬。	32-5(10)
【三十二】		落雲鬢而入道。尋○○於方袍。	39-4(13)
○○○之寶祚誰論短。	44-11(18)	定知眞如宮裏。○○之月更朗。	40-5(14)
【三重】		○○告曉。飛覺月於昏衢。	45-1(19)
屢詣木幡墓所。仰○○瞻四域。	24-10(4)	長秋宮之月非不潔。宿望偏在○○。	46-3(20)
【三身】		昔龍女獻珠。已證○○於南無垢之界。	47-9(21)
便開支提之會。○○歸心。	23-14(3)	【三有】	
【三世】		加以流轉○○之群類。欲拔罪根。	29-4(7)
○○如來。以爲慈母。	23-2(2)	→ (開○・玄奘○藏・二○・法華○昧・無○)	
嘔百餘口之羅漢。仰○○佛之證明。	26-15(5)	【山】	
摩尼珠光。照○○而彌朗。	44-15(19)	驚頭雲霧。雞足○開。	45-11(19)
○○十方。共垂證明。	45-12(19)	【山脚】	
【三千】		爭於茲○○。造一堂修三昧。	24-12(4)
○○大千。無緣之慈普被。	24-8(4)	【山上】	
法音沸天。○○之界盡動。	27-1(5)	涅槃○○。釋尊之日早藏。	28-3(6)
蘭質秋深。初備○○之列。	47-2(21)	【山川】	
【三千界】		○○蔽澤。何處無生死之形骸。	31-14(10)
彼岸引接之因。普濟○○○之塵數。	29-2(7)	【山嵐】	
乃至○○○之中。與我同哀者。	47-10(21)	○○朝掃庭。溪月夜舉燭而已。	25-5(4)
【三泉】		【山陵】	
		擻攀惠業。奉翊○○。	45-10(19)

→ (一〇・玉〇・姑〇・姑射〇・五台〇・香〇・高〇・崑 〇・射〇・秋〇・雪〇・大〇・登〇・東〇・仁〇・暮〇 ・泡〇・寶〇・羅〇・靈〇・靈鷲〇)			
【珊】			
【珊瑚】			
〇〇床下。鏡匣遺染淚之塵。	45-8(19)		
【參】			
【參詣】			
曉夕〇〇。孝之至也。	26-8(5)		
【筭】			
【筭數】			
彼一句半偈之功能。佛猶雖〇〇。	41-11(15)		
→ (寶〇)			
【讚】			
【讚嘆】			
異口同音。〇〇如來之相好。	33-11(11)		
【讚揚】			
法皇平日〇〇之窓。經卷之塵漸積。	42-10(16)		
ザン			
【殘】			
【殘焰】			
請願驚頭之餘風。併滅阿尾之〇〇者。	30-13(8)		
【甄】			
心汚不必清淨。攀緣非無所〇。	27-2(5)		
省躬弥〇。向誰而訴。	33-6(11)		
【憊】			
【憊悔】			
低頭舉手。〇〇過去之罪業。	33-11(11)		
【憊愧】			
衣雖破〇〇之衣是全。食雖乏禪悅之食是豐。	27-15(6)		
シ			
【子】			
悲之又悲。莫悲於老後〇。	50-12(25)		
【子孫】			
雖至孝鍾愛之〇〇。不能浸昏。	25-4(4)		
今弟子之誠〇〇也。不如桑門之侶。	31-5(9)		
→ (愛〇・一〇・結〇・孔〇・蔡〇・篤〇・臣〇・成〇・ 善男〇・童〇・父〇)			
【支】			
【支提】			
便開〇〇之會。三身歸心。	23-14(3)		
→ (月〇)			
【止】			
【止觀】			
構〇〇以為桑門之樞紐。	52-7(27)		
【只】			
佛儀不見。〇見春花秋月。	24-11(4)		
法音不聞。〇聞溪鳥嶺猿。	24-11(4)		
所欠〇一人慈悲之昔容。	44-7(18)		
所加〇四衆戀慕之新淚。	44-8(18)		
去年初心。〇契延齡之驗。	45-9(19)		
【四】			
【四運】			
五內無靜日。〇〇有盡期。	48-15(23)		
四瀛			
碩德被物。頌十善於〇〇。	45-2(19)		
【四恩】			
以廻向天衆地祇三界〇〇。	23-5(2)		
以此一善。廻向〇〇。	25-16(4)		
所修善根。引攝〇〇。	27-7(5)		
是以爲〇〇六道成佛得果故。	31-14(10)		
誠乃〇〇之不同。雖知凡聖之相隔。	52-4(27)		
【四海】			
華夷銷塵。盡感〇〇之靜謐。	24-3(3)		
〇〇之家。未作貧也。	41-6(15)		
〇〇皆戀仁恩。最深者渭陽嗚咽之曉浪。	44-4(18)		
〇〇之中。一山之上。	52-8(27)		
【四枯】			
人中之尊。猶現〇〇之相。	46-1(20)		
【四時】			
蓋聞大寶蓮華。貫〇〇而不凋。	44-15(19)		
【四日】			
八講展筵。〇〇設會。	29-8(7)		
【四種】			
花雨〇〇。彌勒欲決疑於當今。	28-14(7)		
〇〇花雨。蒼蘂之露添灯。	33-11(11)		
凡厥一切衆生。普遊〇〇佛土。	42-14(16)		
恩有〇〇。父之慈。母之悲爲先。	48-13(23)		
【四衆】			
所加只〇〇戀慕之新淚。	44-8(18)		
【四十一】			
釋尊唱滅之期八十。聖靈纔是〇〇〇。	43-6(17)		
【四十九】			
〇〇〇之惠業。國母臨期。	40-5(14)		
【四十年】			
〇〇〇中。利生之願不遂。	40-2(14)		
【四重】			
動五逆〇〇之辜。免三惡八難之苦。	32-14(10)		
【四處】			
於鷲峯等〇〇十六會中所說。	23-2(2)		
【四生】			
今思〇〇之無安。求哀於十方。	30-7(8)		

諸法無相。○○無常。	31-13(10)	【泗】	
凡厥六道親疎。○○大小。	41-15(15)	【泗水】	
功德成林。普開惠花於○○之意樹。	45-11(19)	○○遺風。待七年而餘慶。	50-14(25)
乃至六趣○○。莫不引接。	48-10(22)	【咫】	
【四德】		【咫步】	
○○舊儀。變作萬行之備。	49-11(23)	投○○以不留。必屈千里焉。	34-5(12)
【四八相】		【思】	
佗方妙覺之果。速證○○○之金容。	29-2(7)	興隆之○。猶切當今。	23-11(3)
功德林之中。迎○○○之秋月。	39-4(13)	法涌菩薩之對揚。寄○開示。	31-15(10)
→ (十○·八萬○千)		以先彼後我之○爲○。	32-3(10)
【市】		沉寵深者○又深。榮甚者畏又甚。	49-2(23)
【市中】		【思量】	
○○賣身。雖在我願。	32-1(10)	初獨○○之。後終相談之。	35-1(12)
【此】		→ (孝○·追○·不可○議)	
【此岸】		【指】	
香則求難陀○○之煙。花則擎樹提後園之萼。	50-7(24)	【指點】	
【至】		方今時時詣墳墓。爲建寺○○形勝。	25-3(4)
【至哀】		【指南】	
於戲。此間吾等。縱沉○○之淚泉。	43-8(17)	而今佛道記里之車忽摧。向何方而爲○○。	52-10(27)
【至孝】		→ (彈○·右○)	
雖○○鍾愛之子孫。不能侵昏。	25-4(4)	【施】	
【至心】		【施石】	
何況於○○之人乎。於造塔之人乎。	27-4(5)	昔幼日童子之戲。聚沙○○。	27-9(5)
佛子齋然○○合掌。	34-2(12)	【施僧】	
若比弟子之○○。此遠邇可普供。	49-10(23)	供佛○○之資貯。專任東閣之芳意。	52-13(27)
→ (乃○)		→ (法○)	
【志】		【師】	
不材之所企。造普賢而爲刻木拜貌之○。	25-6(4)	敬咽腐門之○。講講驚峯之偈。	31-4(9)
會無一鉢之儲。唯唱十方之○。	32-4(10)	→ (戒○·弘法大○·出○·大船○·藥○如來)	
今遇其便。欲遂此○。	34-3(12)	【紙】	
從樂盡哀來。○留事變。	40-8(14)	紺瑠璃之○。象教垂跡。	32-1(10)
其趣雖異。其○猶同。	41-9(15)	【脂】	
未以受恩寵爲榮。唯以逃俗塵爲○。	46-4(20)	【脂轄】	
供佛之誠。唯○是盡。	50-7(24)	無二無三之車○○。運載爲宗。	29-1(7)
湯藥之中。此○彌切。	51-1(25)	【紫】	
嗟吁。幽靈知我此○。	51-6(25)	【紫宸】	
→ (本○)		亦願上自○○。下及黔首。	27-8(5)
【芝】		【紫闥】	
【芝畝】		器期青雲。名顯○○。	51-9(26)
悲之又悲。瓊苗同枯於○○。	47-4(21)	【紫微】	
【始】		○○聖德之居。金輪常照。	29-11(7)
○自王侯相將。至于縉素男女。	44-2(18)	【紫磨金】	
何圖樂未央哀先至。福漸○禍早成。。	47-3(21)	○○○之文。厲行成字。	32-2(10)
→ (敬○)		今跋提河之滅度二千年。瑩○○而禮兩足。	33-9(11)
【枝】		【視】	
意樹送春。解脫之○點萼。	30-11(8)	【視聽】	
→ (一○·花○·南○)		○○之悲未半。忌景之期既臻。	42-11(16)

凡厥○○所觸。言辭無及者乎。	52-7(27)	○○所觸。莫不催淚。	41-15(15)
【絲】		○○所觸。何事不悲。	50-5(24)
【絲竹】		【自】	
臺上留○○。音曲盡而風獨悲。	51-12(26)	青苔鋪設。○展七淨瑠璃之茵。	25-10(4)
【詞】		將亦○天飛來歟。	26-13(5)
其○如是者。於本朝有何耻乎。	34-14(12)	居武官而威風遠颯。嗜文道而詞露○鮮。	51-10(26)
【詞露】		【自愛】	
居武官而威風遠颯。嗜文道而○○自鮮。	51-10(26)	努力莫爲人中之雲雨。○○不受天上之快樂。	48-7(22)
【詩】		【自以】	
【詩境】		於是四十九日。○○馳來。	52-12(27)
以其天神爲文道之祖。○○之主也。	22-5(1)	【自界】	
【詩書】		不知妙音暫來○○。假爲後宮歟。	46-7(20)
九歲拂○○。瑩政理於文學。	44-1(18)	【自在】	
窓中堆○○。舒卷罷而塵空積。	51-11(26)	夫遊十方而導衆生。觀音之誓○○。	30-8(8)
【詩篇】		【自身】	
就天滿天神廟。會文士獻○○。	22-5(1)	爲○○滅罪生善。無上菩提也。	27-3(5)
【資】		【自然】	
【資御】		唯隨宿習之所催。任運命之○○而已。	35-8(12)
所生惠業。○○菩提。	43-8(17)	衆生法界。利益○○。	49-12(23)
【資貯】		一心之難忍。猶迷哀慟之○○者也。	52-4(27)
供佛施僧之○○。專任東閣之芳意。	52-13(27)	【自宗】	
【緇】		凡入唐求法之人。○○者弘法大師。	34-9(12)
【緇素】		【自他】	
華夏遠近。○○尊卑。	32-13(10)	重爲佛法興隆。○○利益。	29-7(7)
○○含哀。空聞暮山咽嵐之松響。	40-10(14)	【似】	
始自王侯相將。至于○○男女。	44-2(18)	○對優曇之一現。合掌花而薰修。	26-14(5)
【緇門】		迷惑失據。○入重霧之中。	47-3(21)
留而消魂者。皆是○○之遺弟。	42-8(16)	【時】 《・は時間的な対を有するもの》	
【齒】		可期其佛身。當此○也。	22-7(1)
唯須迎日月於仙家。以祝王母之○	45-4(19)	昔弱冠著緋之○。	24-10(4)
→(蛇○)		爾○不覺淚下。竊作斯念。	24-11(4)
ジ		・千花開盡之侯。百鳥和鳴之○。	29-7(7)
【字】		・不值在世之日。不生正法之○。	33-6(11)
紫磨金之文。腐行成○。	32-2(10)	願我成佛○。名曰釋迦牟尼。	33-13(11)
→(萬○・名○)		佛則在世之○。蓮眼早發。	39-3(13)
【寺】		・坐愛臥愛。空思瑤裙之去日。何朝何夕。	
【寺廟】		再逢翠轂之歸○。	45-8(19)
夫○○者。如來之墳墓也。	25-11(4)	・便是綺窓瞋目之○。寧非蓮臺結跏之日。	46-10(20)
【而】		・漢宮入內之夜。傍花釐而成歡。	
【而立】		荒原送終之○。混松風而添哭。	47-5(21)
弟子自竹馬鳩車。至○○強仕。	24-9(4)	于○芳菲候過。清和景闌。	49-9(23)
【耳】		・昔當正法多智行人之間。～今臨末法少智行人之○。	52-11(27)
目雖暗有○得聞諸法理。	27-15(6)	→(花○・五○・四○・片○)	
【耳底】		【慈】	
尊儀猶如在于眼前。顧命亦忝留于○○。	44-10(18)	三千大千。無緣之○普被。	24-9(4)
【耳目】		父之○。母之悲爲先。	48-13(23)

【慈雲】 何臨夕陽之西傾。忽逢○○之東斷。	41-8(15)	【七珍】 名衣上服。○○百味。	25-9(4)
【慈海】 ○○已竭。共溺戀恩之涕川。	40-4(14)	【七寶】 ○○池中。破波旬以登覺路。	42-13(16)
【慈氏】 生死海中。○○之月未照。	28-3(6)	蕩妄想於眞如。捨○○以敬三寶。	44-1(18)
進不遇釋尊。退不期○○。	28-4(6)	→ (三五〇)	
【慈親】 九品雲聳。今則三界之○○。	39-7(13)	シツ	
【慈堂】 誠勸我佛道。寧非我之○○乎。	35-3(12)	【失】 撫民○方。懼朽索於奔駕。	30-5(8)
【慈悲】 佛界何不垂○○。	27-14(6)	燈下告別。長○朝露之光。	47-3(21)
○○爲舟。濟庶類於苦海。	30-3(8)	一箇中之花月。相傳○主。	50-15(25)
大千世界。遍戴○○之雲。	31-12(10)	今臨末法少智行人之時。爭堪○若斯人之悲。	52-11(27)
何日再瞻○○之尊容。	41-14(15)	【疾】 何其遁世之太○乎。	46-7(20)
○○稟性。佛法刻心。	42-5(16)	【悉】 仰願三寶界會。○知○見。	52-14(27)
殿庭之儀不改。所欠只一人○○之昔容。	44-7(18)	【質】 禪林戴霜。有漏之○已老。	32-3(10)
【慈父】 嗟呼。衆生○○。今已在此。	33-12(11)	【質朴】 何必○○之愚者。得爲州刺史。	22-13(2)
【慈母】 三世如來。以爲○○。	23-3(2)	→ (亂○・麗○)	
是卽爲○○。七七所逆修也。	35-6(12)	【濕】 鴛鴦衾空。向舊枕而○袂。	50-4(24)
爲○○一月十日。精進歸依。	35-6(12)	【楡】 主我巾○。積以星霜。	50-2(24)
令○○現當植困結緣也。	35-7(12)	ジツ	
佛子不知天加○○數年。	35-7(12)	【日】 祈廟社。祈佛法。有○矣。	22-4(4)
→ (大〇)		煖寒木於大智之○。淚變蒼栢之煙。	26-2(4)
シチ		涅槃山上。釋尊之○早歲。	28-3(6)
【七】 【七覺】 菩提樹下。○○之華彌鮮。	40-5(14)	白業年深。丹心○積。	29-6(7)
彼蓬萊洞之花非不芳。素意久期○○。	46-3(20)	雪盡冰解之○。付谿鳥而傳妙音。	31-6(9)
【七七忌】 ○○御○已當今朝。	39-2(13)	不值在世之○。不生正法之時。	33-6(11)
今當○○之御○	43-6(17)	此生冰隔汲引之厚願。何○再瞻慈悲之尊容。	41-14(15)
方今○○聖○。光陰欲盈。	44-6(18)	從少齡之○。及大位之年。	42-6(16)
今當○○○辰。	46-8(20)	夫佛○雖早歲。餘輝明而常在。	43-15(18)
今當○○○。令修此惠業。	50-13(25)	思其昇霞。亦同南岳大師臨終之○。	44-5(18)
【七七日】 是卽爲慈母。○○○所逆修也	35-6(12)	便是綺窓瞑目之時。寧非蓮臺結跏之○。	46-10(20)
【七尺】 北芒新墳。已見○○之花樹。	51-14(26)	清涼之春花。○遲或賜共翫。	47-15(22)
【七淨瑠璃】 青苔鋪設。自展○○○○之茵。	25-10(4)	樂盡哀來。天人猶逢五衰之○。	49-15(24)
【七匝】 ○○香煙。瑠璃之雲成蓋。	33-11(11)	方今歛恨之○漸積。食香之期欲盈。	50-5(24)
		【日月】 唯須迎○○於仙家。以祝王母之齒。	45-4(19)
		【日本】 弟子者○○國王之舅也。	27-10(5)

【日本國】		〇〇香爐。或出從鳳凰谷之底。	27-1(5)
我是〇〇〇。無才無行。一羊僧也。	34-13(12)	【釋】	
→ (愛〇・一〇・舊〇・去〇・今〇・計〇・惠〇・經〇・昨〇・三〇・四〇・秋〇・西〇・靜〇・送〇・大〇・不〇・佛〇・平〇・幼〇・權〇・累〇・六〇)		【釋迦】	
【實】		敬禮〇〇多寶。妙法大乘。	25-16(4)
【實歸】		我等不圖。今日奉見靈山〇〇。	33-12(11)
學顯教者往之。往之者有〇〇之慶。	52-8(27)	願次詣中天竺。欲禮〇〇之遺跡。	34-4(12)
【實語】		大慈大悲。〇〇文殊。	34-8(12)
佛事廣作。何疑早證之〇〇。	43-7(17)	昔〇〇善逝。爲報摩耶之恩昇忉利而說法。	41-8(15)
【實相】		【釋迦樹】	
〇〇者。法身之舍利也。	25-11(4)	縱有枯株依造塔力可榮。何株非〇〇〇。	27-5(5)
→ (權〇教・眞〇)		【釋迦如來】	
シャ		〇〇〇〇。成道二十年之後。	23-1(2)
【社】		計其實筭。〇〇〇〇一年之兄。	39-5(13)
【社稷】		【釋迦尊】	
扶持宗廟。保安〇〇。	24-15(4)	前白靈山淨土〇〇〇言。	24-8(4)
→ (廟〇・靈〇)		南無一代教主〇〇〇。多寶。分身諸善逝。	27-8(5)
【車】		寔知〇〇〇之說法華經也。	28-15(7)
無二無三之〇脂軸。運載爲宗。	29-1(7)	共奉造〇〇〇之形像。	33-8(11)
而今佛道記里之〇忽摧。	52-10(27)	【釋迦牟尼】	
→ (鳩〇)		若聞〇〇〇〇如來名號。	33-7(11)
【舍】		抑佛昔於過去〇〇〇〇佛所。	33-13(11)
【舍利】		願我成佛時。名曰〇〇〇〇。	33-13(11)
實相者。法身之〇〇也。	25-11(4)	〇〇〇〇佛弟子某等。	52-3(27)
→ (王〇・精〇・堂〇)		【釋尊】	
【射】		涅槃山上。〇〇之日早藏。	28-3(6)
【射山】		進不遇〇〇。退不期慈氏。	28-4(6)
〇〇計日。虬箭頻移。	40-4(14)	聖靈遁世之初十九。〇〇蓋乃二十九。	43-5(17)
→ (姑〇)		〇〇唱滅之期八十。聖靈纔是四十一。	43-5(17)
【斜】		生者必滅。〇〇未免梅檀之煙。	49-15(24)
【斜暉】		ジャク	
桃梨無衰色。桑榆非〇〇。	46-7(20)	【若】	
【寫】		其中〇有神明不享之吏。	22-11(2)
【寫成】		〇不奉侍讀於我后。	22-12(2)
研黃金〇〇貫花之偈。	45-7(19)	〇不殖善根於此地。	22-13(2)
→ (繙〇)		〇人作樂。供養三寶。	23-14(3)
ジャ		我〇向後至大位。心事相諧者。	24-11(4)
【邪】		〇不心起一念手成微功。	31-2(9)
【邪鬼】		〇適有天命。得到唐朝。	34-12(12)
冤靈〇〇。銷怨氣以歸眞。	29-10(7)	〇萬人纓頰苦心而諫之。	35-2(11)
シャク		造佛寫經。大略〇斯。	41-5(15)
【錫】		公主〇住暫舍之花色。常樂風吹忽令開敷。	46-10(20)
【錫杖】		〇有未明之月輪。餘習雲散水令圓滿。	46-11(20)
		今〇默而止。其奈後悔何。	49-2(23)
		猶有離〇斯人之歎。	52-11(27)
		爭堪失〇斯人之悲。	52-11(27)
		【若比】	

然猶○○弟子之合掌。彼一落不再開。	49-10(23)	【趣】	
○○弟子之至心。此遠運可普供。	49-10(23)	推其樂字之○。感淚難禁。	27-6(5)
→ (豈○・般○)		在今尋古。世異○同。	30-10(8)
【弱】		造寫之○。大槩如右。	39-15(14)
【弱冠】		其○雖異。其志猶同。	41-9(15)
昔○○著緋之時。從先考大相國。	24-10(4)	今之所講。○異誠同。	45-9(19)
		抑亡者早在未病之前。深談出家之○。	51-1(25)
《ジャク=寂→セキ》		→ (惡○・六○)	
シュ		ジュ	
【手】		【受】	
淡海公○草詔勅。筆削律令。	24-15(4)	【受持】	
齧朽壞於甘露之泉。○播白蓮之種。	26-2(4)	是故聽聞○○者。書寫供養者。	29-1(7)
若不心起一念○成微功。	31-2(9)	【受圖】	
花下之春遊。揮神筆以○諸御製。	44-8(18)	夫圓融院者。當○○所草創。	42-12(16)
○命欲滿巾箱之裏。	48-2(22)	【受病】	
→ (嘉○・舉○・左○)		夏季○○。秋初背世。	50-13(25)
【主】		【壽】	
言其尊儀。娑婆世界十善之○。	39-5(13)	哀樂如夢。未獻是界之○。	45-7(19)
彼金谷醉花之地。花每春勻而○不歸。	49-1(23)	【壽木】	
一園中之花月。相傳失○。	50-15(25)	同浴佛海之無邊。須保○○之不老。	32-13(10)
→ (聖○・無○)		【壽命】	
【朱】		○○長遠。無有橫死。	26-10(5)
【朱邑】		扇梵風而增○○。藥師如來之本願殊妙。	45-5(19)
昔○○之歸邑里也。有懷桐鄉之民。	31-5(9)	【壽量】	
【殊】		百二十之○○。可資妄語於如來。	41-8(15)
【殊勝】		→ (福○)	
豈唯果報之○○乎。	23-12(3)	【樹】	
非唯果報之○○。	26-11(5)	安樂界中。攀覺花於彌陀之○。	50-8(24)
【殊妙】		【樹提】	
藥師如來之本願○○。	45-5(19)	花則擎○○後園之萼。	50-7(24)
→ (文○)		→ (異○・溫○・花○・釋迦○・庭○・鉢羅○・菩提○・菩提道○・寶○)	
【株】		シュウ	
縱有枯○依造塔力可榮。何○非釋迦樹。	27-5(5)	【舟】	
→ (古○)		慈悲爲○。濟庶類於苦海。	30-3(8)
【珠】		曇无比丘之傳法水。遍迴六度之○。	32-6(10)
爲滿求願。喻之海中如意之○。	23-2(2)	龍頭鶴首之○。棹穿秋水。	32-9(10)
甚深之義。海象吐明月之○。	32-8(10)	【秋】	
摩耶入夢。毒龍遺吸○之悲。	40-1(14)	紅桃結子。三期一千之○。	24-5(3)
昔龍女獻○。已證三明於南無垢之界。	47-9(21)	春往○來。所視者珍膳之甘苦。	45-2(19)
→ (寶○・摩尼○)		蘭質○深。初備三千之列。	47-1(21)
【種】		南樓翫月之人。月與○期而身何去。	49-2(23)
齧朽壞於甘露之泉。手播白蓮之○。	26-2(4)	【秋宴】	
雌解雞入。白蓮之○貫花。	30-3(8)	月前之○○。吹玉笛以自操雅音。	44-9(18)
菩提分○。將灑甘露於六趣之身田。	45-12(19)	【秋月】	
→ (分○・六○)			

佛儀不見。只見春花○○。	24-11(4)	願以此功德。廻施諸○○。	28-8(6)
功德林之中。迎四八相之○○。	39-4(13)	然則我等○○。斷惡衆善。	28-10(6)
八萬四千之相。○○滿而高懸。	42-5(16)	往返六趣之○○。思授覺藥。	29-4(7)
弘徽之○○。夜永不許獨看。	47-15(22)	夫遊十方而導○○。觀音之誓自在。	30-7(8)
【秋山】		一切○○。悉潤智慧之雨。	31-12(10)
○○運心。所設者百羅漢之綺饌。	41-13(15)	○○破暗。此焉明矣。	33-5(11)
爲禦○○之寒風。追贈福田之法衣。	51-2(25)	是娑婆世界○○。	33-5(11)
【秋日】		令○○得見佛聞法之便。	33-8(11)
承露之盤。非○○以永映。	23-13(3)	嗟呼。○○慈父。今已在此。	33-12(11)
【秋初】		共諸○○。往生安樂國。	33-15(11)
夏季受病。○○背世。	50-13(25)	凡厥一切○○。普遊四種佛土。	42-14(16)
【秋水】		佗界○○。定飲大悲之乳海。	43-8(17)
龍頭鷁首之舟。棹穿○○。	32-9(10)	○○法界。利益自然。	49-12(23)
故劍在傍。撫○○而流淚。	51-12(26)	【衆望】	
【秋風】		我願已滿。○○亦足。	25-16(4)
雙林忽唱滅度。至悲者椒庭寡居之○○。	44-5(18)	【衆力】	
→(今○・春○・昔○・千○・千萬○・長○)		因茲弟子致一心合○○。	28-6(6)
【修】		→(四○・大○・超○・天○・徒○・利○生)	
【修學】		【愁】	
才名超衆。○○命世。	34-10(12)	【愁雲】	
【修行】		夫菩提道樹之月影。遂隱沙羅之○○。	52-3(27)
○○是勤。罪根漸滅。	34-7(12)	【愁恙】	
爲求法不來。爲○○卽來也。	34-14(12)	或多○○無依怙之人等也。	46-5(20)
【修善】		【愁色】	
斷惡○○。離苦得樂。	28-10(6)	草木○○。況於蘭省梨園乎。	44-9(18)
【修福】		【衆】	
聖主每度。○○於七箇寺。	40-4(14)	【衆沙】	
→(移○・逆○・薰○)		昔幼日童子之戲。○○施石。	27-9(5)
【袖】		【鶯】	
落花飄飄之光。寧如翻○。	23-15(3)	【鶯子】	
林花纔殘。盈○而散。	49-10(23)	○○無雙之智。振英聲於暮春之風。	29-8(7)
【終】		【鶯】	
【終制】		【鶯頭】	
豈圖北芒駕促。營○○於老翁。	50-14(25)	謂扇○○之餘風。併滅阿尾之殘焰者。	30-13(8)
→(善○・送○・臨○)		○○雲霧。鷄足山開。	45-10(19)
【衆】		【鶯峯】	
【衆色】		於○○等四處十六會中所說。	23-2(2)
雖向○○。不起見欲。	28-2(6)	敬咽禪門之師。講演○○之偈。	31-4(9)
【衆心】		如來不住。何山非○○。	40-6(14)
○○歡喜。得未曾有。	33-12(11)	【鶯嶺】	
【衆人】		肖草敷煙之堤。宛如○○。	32-9(10)
齋然聊露瞻於三寶。兼解嘲於○○。	34-12(12)	→(靈○山)	
【衆生】		ジュウ	
一神有慶。○○賴之。	22-7(1)	【十】	
功德遍于法界。利益及于○○。	25-15(4)	【十家】	
願共諸○○。上征兜率。西遇彌陀。	26-3(4)	瑩政理於文學。通百家以重○○。	44-1(18)
悲哉我等○○。進不遇釋尊。	28-3(6)		

<p>【十界】 所修功德。廻向〇〇。 27-7(5)</p> <p>【十九】 聖誕遁世之初〇〇。釋尊蓋乃二十九。 43-5(17)</p> <p>【十講】 五日〇〇。供養演說。 35-6(12)</p> <p>【十號】 今拂九尊方廣之場。新加〇〇圓明之位。 50-8(24)</p> <p>【十座】 五日〇〇。供養講演。 49-5(23)</p> <p>【十四】 星霜〇〇廻。胸臆千萬緒。 31-15(10)</p> <p>【十善】 言其尊儀。娑婆世界〇〇之主。 39-5(13)</p> <p>碩德被物。頒〇〇於四瀛。 45-1(19)</p> <p>【十念】 寸心不亂。〇〇無休。 46-10(20)</p> <p>【十方】 〇〇菩薩。以爲尊師。 23-3(2)</p> <p>今思四生之無安。求哀愁於〇〇。 30-7(8)</p> <p>夫遊〇〇而導衆生。觀音之誓自在。 30-7(8)</p> <p>曾無一鉢之儲。唯唱〇〇之志。 32-4(10)</p> <p>不然者。〇〇佛土所擯棄。 33-5(11)</p> <p>三世〇〇。共垂證明。 45-12(19)</p> <p>稽首禮足。〇〇三寶。 46-15(21)</p> <p>夫此經者。〇〇淨土中唯有之。 49-5(23)</p> <p>【十萬億】 〇〇〇之國土何言遙。 44-11(18)</p> <p>【十六】 於鷲峰等四處〇〇會中所說。 23-2(2)</p> <p>將歸〇〇大會之煙霞。 → (九〇・三〇二・四〇一・四〇九・四〇年・二〇九・八 〇・八萬〇二・百二〇)</p> <p>【重】 【重寄】 弟子〇〇過器。渥澤溢身。 49-2(23)</p> <p>【重臣】 王劭者晉之〇〇也。築寺於祖父之廟北。 25-13(4)</p> <p>【重務】 迷惑失據。似入〇〇之中。 → (九〇・三〇。四〇)</p> <p>【縱】 芥城〇盡。不退之輪長轉。 26-3(4)</p> <p>〇有爲大山者。覆一貫以不止。 34-4(12)</p> <p>〇歸何敢貪職任。爲是斗蔽也。 34-12(12)</p> <p>〇沉至哀之淚泉。佗界衆生定飲大悲之乳海。 43-8(17)</p> <p>噫娑婆遺哀。〇屑千行於眼下。 45-10(19)</p>	<p>シュク</p> <p>【夙】 【夙夜】 院花春暮。只〇〇於嗣陵之松。 43-6(17)</p> <p>〇〇在公。非正不蹈。 51-10(26)</p> <p>【宿】 【宿懷】 携母將留。亦可乖〇〇。 35-1(12)</p> <p>【宿習】 唯隨〇〇之所催。任運命之自然而已。 35-8(12)</p> <p>【宿昔】 草創之功。雖在〇〇。 23-11(3)</p> <p>【宿報】 弟子〇〇可思。後生可懼。 28-2(6)</p> <p>【宿望】 長秋宮之月非不潔。〇〇偏三明。 → (曜〇)</p> <p>シュツ</p> <p>【出】 【出家】 某暮年〇〇。一旦求道。 22-5(1)</p> <p>是故至十三〇〇。及四十不退。 27-15(6)</p> <p>今亦有爲厭世。入三密而〇〇。 40-1(14)</p> <p>凡此界古今婦人之〇〇也。 46-5(20)</p> <p>抑亡者早在未病之前。深談〇〇之趣。 51-1(25)</p> <p>【出師】 遂議征伐而〇〇。更愍滅亡而泣罪。 30-5(8)</p> <p>【出世】 夫佛日之〇〇也。先照高山次及幽谷。 33-4(11)</p> <p>〇〇契深。遂赴菩提之道。 41-7(15)</p> <p>今朝心變。欲開〇〇之門。 45-10(19)</p> <p>→ (鑄〇・涌〇)</p> <p>ジュツ</p> <p>【術】 訓俗少〇。踐薄冰於深淵。 30-4(8)</p> <p>少陽之宮。龍胎勸延年之〇。 32-13(10)</p> <p>世尊患風。耆域施獻藥之〇。 40-1(14)</p> <p>→ (治〇)</p> <p>シュン</p> <p>【春】 院花〇暮。只夙夜於嗣陵之松。 43-6(17)</p> <p>〇往秋來。所視者珍膳之甘苦。 45-2(19)</p> <p>蕙心〇淺。未及二八之齡。 47-1(21)</p>
---	--

彼金谷醉花之地。花每○勻而主不歸。	49-1(23)		
【春花】			
佛畿不見。只見○○秋月。	24-11(4)		
大小乘之並軸。貫○○而爭鮮。	41-11(15)		
開三顯一之文。○○貫以永點。	42-5(16)		
清涼之○○。日遲或賜共翫。	47-15(22)		
【春官】			
登覺之路欲趨。脫去○○及第之袍。	51-1(25)		
【春秋】			
買○○於法肆。以表臣子之誠。	45-5(19)		
公主○○十有五初入內。	46-2(20)		
【春洞】			
遠近遺恨。不見○○連袂之柳腰。	40-10(14)		
【春風】			
姑射山之上。送八十年之○○。	39-4(13)		
傘期○○。敬展講席。	45-7(19)		
【春夢】			
抑朝露易滅。○○非長。	29-2(7)		
【春遊】			
花下之○○。揮神筆以手書御製。	44-8(18)		
→(去○・送○・暮○・每○)			
【悛】			
後慮既○。佛心唯照。	45-12(19)		
【舜】			
【舜帝】			
有虞○○之德。風悲玉山之東。	43-4(17)		
シヨ			
【且】			
○尋上皇之御襟。○奉中宮之令旨。	40-11(14)		
【初】			
○謂盡善盡美。具足以快薰修。	22-15(2)		
今上每春臨幸之地。置路之草○繁。	42-10(16)		
聖靈遁世之○十九。釋尊蓋乃二十九。	43-5(17)		
聖體不豫。○謝蟹釀以逃名。	44-3(18)		
公主春秋十有五○入內。	46-2(20)		
蘭質秋深。○備三千之列。	47-2(21)		
去年○促二八廻之桃李。	47-14(22)		
筆墨○點。丹青未畢。	51-3(25)		
【初心】			
仍長保六年三月一日。結華構償○○。	25-5(4)		
去年○○。只契延齡之驗。	45-9(19)		
【庶】			
【庶幾】			
一夕五起。竊所○○也。	45-3(19)		
【庶類】			
慈悲爲舟。濟○○於苦海。	30-3(8)		
		シヨ	
		【如】	
		○履虎尾。○撫龍鬚。	24-13(4)
		○遇過去之二親。振肝葉而歡喜。	26-14(5)
		此中有○我病氣重者○我貧窮者。	28-9(6)
		○此經說。濟度不遺。	29-12(7)
		論此浮生。○彼花露乎。	31-1(9)
		今弟子之誠子孫也。不○桑門之侶。	31-5(9)
		苦空傳音。○閉命命之鳥。	32-10(10)
		徒衆及教法。○今日世尊。	33-14(11)
		嗟呼。尊儀猶○在于眼前。	44-10(18)
		哀樂○夢。未獻是界之壽。	45-7(19)
		○是之故。有意移修。	49-9(23)
		妾五內○割。一心已迷。	51-9(26)
		心肝屠而不靜。○吞風胡於胸中。	52-6(27)
		【如意】	
		爲滿求願。喻之海中○○之珠。	23-2(2)
		【如來】	
		三世○○。以爲慈母。	23-2(2)
		夫寺廟者。○○之墳墓也。	25-11(4)
		丹丘青塚。忽具○○之眞色。	25-12(4)
		被○○之衣。著菩薩之座。	26-1(4)
		異口同音。讚嘆○○之相好。	33-11(11)
		齋然有心願。○○可證明。	34-2(12)
		佛子心有難忍之事。○○重照見之。	34-16(12)
		唯願○○永拂魔事。將報佛恩。	35-10(12)
		○○不住。何山非驚峯。	40-6(14)
		百二十之壽量。可實妄語於○○。	41-8(15)
		三十二之寶祚誰論短。自象妙相於○○。	44-12(18)
		大長者之出孕。竊欲恨○○。	48-3(22)
		○○薩埵。知見證明。	49-9(23)
		無一於此。誰仰○○。	51-4(25)
		→(釋迦○○・多寶○○・藥師○○)	
		→(眞○)	
		【助】	
		【助成】	
		增益我願。○○我願。	27-9(5)
		→(福○・冥○)	
		【除】	
		【除病】	
		○○延命之願。已以不諧。	51-3(25)
		【舒】	
		【舒卷】	
		窓中堆詩書。○○罷而塵空積。	51-11(26)
		シヨウ	

【少】			【消災】		
恨而更恨。莫恨於○先親。	50-12(25)		華夷○○。幽顯蒙益。		27-8(5)
【少分】			【消滅】		
方寸所憶。何宜○○。	46-15(21)		所生功德。○○黑業。		48-7(22)
【少陽】			【唱】		
○○之宮。龍胎勸延年之術。	32-12(10)		【唱滅】		
→(最○·年○·幼○·老○)			釋尊○○之期八十。聖靈纔是四十一。		43-5(17)
《ショウ=正→セイ》			【涉】		
【床】			【涉歲】		
珊瑚○下。鏡匣遺染淚之塵。	45-8(19)		思以○○。不敢語人。		24-12(4)
【承】			【勝】		
【承天】			【勝業】		
月宮留影。難得○○之名。	29-4(7)		皆以○○。先資神祇。		32-11(10)
【承步】			以此○○。奉訪孤魂。		47-8(21)
覺花○○。應化之跡長芳。	31-12(10)		【勝利】		
【承露】			法會○○。普將廻施。		24-2(3)
○○之盤。非秋日以永映。	23-13(3)		以此○○。遍擬廻施。		29-10(7)
【昇】			欲混○○於怨親。以頭拔濟於平等。		30-9(8)
【昇霞】			→(形○·最○·殊○·獨○)		
經是○○之後。金文新成。	39-3(13)		【掌】		
○○以來。定到無上法王之位。	42-13(16)		【掌花】		
思其○○。亦同南岳大師臨終之日。	44-5(18)		似對優曇之一現。合○○而煎修。		26-14(5)
【松】			→(合○·拙○)		
院花春暮。只夙夜於羶陵之○。	43-6(17)		【椒】		
【松筠】			【椒庭】		
夫雲林院者。○○有心之地。	23-11(3)		至悲者○○寡居之秋風。		44-5(18)
【松煙】			【椒房】		
張芝池畔。○○非深。	41-10(15)		蘭殿○○。鶴禁兔園。		32-12(10)
【松下】			○○花朝。蘭殿雪夜。		45-2(19)
向彼○○。則滅二恩父母之廟壇。	25-3(4)		【象】		
【松響】			自○妙相於如來。恩德之餘。普及遠近。		44-11(18)
緇素含哀。空閉暮山咽嵐之○○。	40-10(14)		【象教】		
【松栢】			紺瑠璃之紙。○○垂跡。		32-1(10)
木幡山淨妙寺者。○○有心之地。	26-6(5)		→(海○·乘○·白○·龍○)		
【松風】			【照】		
荒原送終之時。混○○而添哭。	47-5(21)		生死海中。慈氏之月未○。		28-3(6)
苔牆雲靜。○○只一聲。	50-15(25)		後慮既竣。佛心唯○。		45-12(19)
【松門】			仰願。大悲○我幽憤。		51-9(26)
堂上有齡傾之老母。泣後事於○○之煙。	52-6(27)		【照見】		
【松蘿】			佛子心有難忍之事。如來重○○之。		34-16(12)
○○之契。於今相違。	51-13(26)		【照地】		
【消】			道饑○○。九億之人皆來。		27-1(5)
朝露易○。暮雲難繫。	35-9(12)		【照明】		
【消魂】			何謀能救。憑白毫之○○。		29-5(7)
留而○○者。皆是緇門之遺弟。	42-8(16)		→(常○·遍○)		
			【稱】		
			【稱揚】		

有爲之悲難忘。不待〇〇之期。	39-6(13)	【上品】	彌陀尊之設蓮臺。望〇〇又仰下品矣。	48-8(22)
【誦】		【上服】	寶蓋幢幡。名衣〇〇。	25-9(4)
目雖暗有舌。得〇一乘經。	28-1(6)		→ (山〇・池〇・頂〇・天〇・塔〇・堂〇・無〇)	
〇一乘經。全護寶珠頂上。	42-7(16)	【丈】		
嗟吁。晨昏所〇者提婆品。	46-4(20)	【丈六】	此貧道之功也。〇〇適叶人望。	33-10(11)
【銷】		【仍】		
【銷魂】		〇心中發願之後。新結構多寶塔一基。	23-12(3)	
抑追思往事。觸類〇〇。	44-8(18)	〇自長保六年三月一日。	25-5(4)	
妾追憶平昔。莫不〇〇。	51-11(26)	〇以心中發願之後。新結構多寶塔一基。	26-11(5)	
【銷塵】		〇爲廣集會廣隨喜。	32-6(10)	
華夷〇〇。盡感四海之靜謐。	24-3(3)	〇於圓覺道場。奉供養件佛經。	39-2(13)	
【鍾】		〇奉續八葉九尊曼荼羅一鋪。	50-6(24)	
【鍾愛】		〇奉圖某佛奉寫某經。	51-4(25)	
雖至孝〇〇之子孫。不能侵昏。	25-4(4)			
偏承〇〇。既在朕躬。	45-2(19)	《ジョウ = 定 → テイ》		
弟子有一息女。最所〇〇也。	47-14(22)	【乘】		
【鍾儀】		【乘象】		
彼〇〇之遇繫囚也。尚奏楚樂。	34-14(12)	普賢菩薩。〇〇降臨。	30-12(8)	
【鐘】		【乘杯】		
【鐘鼎】		白足青眼之輩。鑠腹〇〇之人。	32-7(10)	
雖生〇〇之門。未見驕慢之色。	50-1(24)	→ (一〇・大小〇・萬〇)		
→ (洪〇)		【常】		
【證】		【常在】		
【證果】		夫佛日雖早歲。餘輝明而〇〇。	43-15(18)	
一准在世之御願。併攀〇〇之良因。	41-16(15)	【常照】		
【證明】		紫微聖德之居。金輪〇〇。	29-11(7)	
仰願諸佛知見〇〇。	23-6(2)	【常啼大士】		
駕六牙之白象。〇〇無愆。	24-2(3)	〇〇〇〇之本誓。懸心晨昏。	31-15(10)	
入此道場。〇〇功德。	26-1(4)	【常啼菩薩】		
咽百餘口之羅漢。仰三世佛之〇〇。	26-15(5)	還類〇〇〇〇之售身。	23-6(2)	
〇〇恩波之無岸。知見聖德之有隣。	30-12(8)	【常念】		
齋然有心願。如來可〇〇。	34-2(12)	〇〇一家之子孫。附門戶於其願。	47-2(21)	
仰願。諸佛知見〇〇。	44-11(18)	〇〇西日影斜。付後事於吾子。	50-13(25)	
三世十方。共垂〇〇。	45-12(19)	【常鳴】		
如來薩埵。知見〇〇。	49-9(23)	飾金之鐸。待曉風而〇〇。	23-13(3)	
→ (速〇)		【常樂】		
ジョウ		〇〇風吹。忽令開敷。	46-11(20)	
【上】		【常理】		
〇征兜率。西遇彌陀。	26-3(4)	〇〇之中。猶有難忍。	41-6(15)	
〇則增加新佛嬰珞之末光。	46-11(20)	雖知苦海之〇〇。還迷淚川之難留。	50-1(24)	
【上下】		→ (無〇・亂〇)		
長安洛陽。貴賤〇〇。	32-5(10)	【情】		
【上首】		以利他忘己之〇爲〇。	32-3(10)	
鳳銜屢降。加崇階於龍象之〇〇。	52-10(27)			
【上上】				
禪波澄意。欲開〇〇之蓮。	32-10(10)			

大慈在○。撫萬姓於一子。
→ (哀○・歡○・悲○・無○)

【淨】

【淨土】

前白靈山○○釋迦尊言。 24-8(4)
夫此經者。十方○○中唯有之。 49-5(23)
→ (七○琉璃・清○)

【場】

松筠有心之地。香花不朽之○也。 23-11(3)
松栢有心之地。佛法肇興之○也。 26-6(5)
今拂九尊方廣之○。新加十號圓明之位。 50-8(24)
→ (戰○・道○)

シヨク

【色】

故宮寄眼月光。殊昔秋之○。 41-15(15)
翡翠簾前。花枝添戀古之○。 45-8(19)
雖生鐘鼎之門。未見驕慢之○。 50-1(24)
→ (一○・花○・五○雲・才○・衆○・愁○・眞○・衰○
・變○)

【食】

衣雖破憊愧之衣是全。○雖乏禪悅之○是非豐。 27-15(6)
方今飲恨之日漸積。○香之期欲盈。 50-5(24)
→ (寢○)

【植】

【植因】

令慈母現當○○結緣也。 35-7(12)

【飾】

菩提之○。隨分欲訪。 51-13(26)

【飾金】

○○之鐸。待晚風而常鳴。 23-13(3)

【飭】

割薄俸而○神威。只恃熱田權現之垂跡。 23-7(2)

揔擎此惠業。奉○聖靈。 39-7(13)

菩提之○忽成。所加只四衆戀慕之新淚。 44-8(18)

眞如新○。定現萬字於臂前。 45-10(19)

【觸】

【觸物】

○○之感。莫不催悲。 45-8(19)

【觸類】

抑追思往事。○○銷魂。 44-8(18)

ジョク

【辱】

無怨無怒。無喜無○。 28-2(6)

シン

【心】

○汚不必清淨。攀緣非無所慙。 27-2(5)

○在無上道。佛界何不垂慈悲。 27-14(6)

況復紅桃漸淺。可動風前之○。 29-3(7)

若不○起一念。手成微功。 31-2(9)

常啼大士之本誓。懸○晨昏。 31-15(10)

是以感淚暗催。○作此念。 33-7(11)

寄○於無知之域。委身於異類之人。 34-6(12)

佛子自發此願。獨住此○。 34-8(12)

非我者。不可以覺我○。 34-11(12)

有何○有何願乎。 34-13(12)

佛子○有難忍之事。 34-16(12)

嗟呼。我○非我○。 35-9(12)

太上法皇。昔是無何在○。 39-15(14)

秋山運○。所設者百羅漢之綺饌。 41-13(15)

故園之浮埃。誰敢留○。 45-4(19)

從其夢結蘭芬。○祈蓬矢。 48-1(22)

欲報之○。成歲而已。 48-15(23)

爰發菩提○。凝道場觀。 49-4(23)

柔和稟性。婉順在○。 50-1(24)

【心肝】

○○屠而不靜。如吞風胡於胸中。 52-6(27)

【心願】

齋然有○○。如來可證明。 34-2(12)

【心事】

我若向後至大位。○○相諧者。 24-11(4)

【心緒】

欲述○○。舌根結而易亂。 46-15(21)

【心地】

一旦背世之憂。已殘○○之焰。 50-3(24)

【心中】

仍○○發願之後。新結構多寶塔一基。 23-12(3)

仍以○○發願之後。新結構多寶塔一基。 26-11(5)

→ (一○・叡○・勸○・歸○・虛○・苦○・蕙○・刻○・
至○・衆○・初○・信○・寸○・清淨○・專○・善○・
丹○・發○・悲○・佛○・菩提○・有○)

【臣】

【臣子】

買春秋於法肆。以表○○之誠。 45-5(19)

【臣妾】

莫不○○感其思。華夷歸其德。 42-6(16)

○○猶期浮沉於仙院之月。 44-3(18)

→ (舊○・重○・人○)

【身】

○已有若亡。人間既非可求名利。 27-14(6)

仰空也齡遂年暮。○與雲浮。	32-2(10)	→ (一○・善○・天○)	
但我是罪障之○。血肉之眼。	34-4(12)	【眞】	
既到其土而不易。況見其○而可難。	34-4(12)	【眞空】	
寄心於無知之域。委○於異類之人。	34-6(12)	佛日懸光。○○之理已顯。	31-12(10)
嗟呼。我○非我○。	35-9(12)	【眞寶】	
有○暫退陋巷。有禁久在腋庭之故也。	48-1(22)	凡棄思入無爲。○○之報恩。	35-4(12)
弟子重寄過器。渥澤溢○。	49-2(23)	【眞如】	
南樓翫月之人。月與秋期而○何去。	49-2(23)	○○捺落。在善惡之因緣。	31-13(10)
獨作燈下伴影之○。猶添窓中戀古之恨。	50-4(24)	忽出冷泉之寶宮。永遷○○之華界。	39-2(13)
【身後】		定知○○宮裏。三明之月更朗。	40-5(14)
唯是充○○之追福而已。	31-5(9)	○○定是把孔雀之尾掃宮牆。	40-9(14)
【身子】		四海之家未作貧也。豈若○○之寂靜。	41-7(15)
○○說經。頭面禮佛。	33-10(11)	蕩妄想於○○。捨七寶以敬三寶。	44-1(18)
【身田】		○○新筈。定現萬字於胷前。	45-10(19)
○○迎夏。定惠之水浮光。	30-11(8)	【眞色】	
菩提分種。將灑甘露於六趣之○○。	45-12(19)	丹丘背塚。忽具如來之○○。	25-12(4)
→ (化○・後○・三○・自○・前○・卽○・寶○・凡○・		→ (歸○)	
眇○・佛○・分○・變○・法○・老○)		【晨】	
【信】		【晨昏】	
是以勵拙掌而馳筆區。以○爲嘉手。	25-6(4)	雖至孝鍾愛之子孫。不能○○。	25-4(4)
佛界貴○不賈財。世尊依誠不依物。	47-8(21)	常啼大士之本誓。懸心○○。	31-15(10)
是以表○丹青。奉圖繪胎藏金剛兩部曼荼羅各一鋪。	49-3(23)	嗟吁。○○所誦者提婆品。	46-4(20)
天之與善。從茲雖○	51-11(26)	【晨省】	
【信心】		○○昏定。所問者玉枕之高卑。	45-3(19)
今勤○○之惠業者。唯添法身之莊嚴也。	42-14(16)	→ (拂○)	
【信力】		【深】	
仰變身於多寶如來。尋○○於雪山童子。	28-5(6)	【深淵】	
→ (音○・潔○・催○)		訓俗少術。踐薄冰於○○。	30-5(8)
【神】		【深窓】	
是天之工也。是○之福也。	22-4(1)	養在○○。外人不識。	47-1(21)
○之福謙。又亦如何。	51-11(26)	→ (甚○)	
【神威】		【新】	
割薄俸而餽○○。只恃熱田權現之垂跡。	23-7(2)	【新加】	
【神祇】		今拂九尊方廣之場。○○十號圓明之位。	50-8(24)
皆以勝業。先資○○。	32-11(10)	【新舊】	
【神道】		續剃鬢髮以入道。○○皆議追從於禪門之雲。	44-3(18)
花言綺語之遊。何益於○○。	22-6(1)	【新瀉】	
【神筆】		受五部法。○○智水於瓶中。	42-7(16)
花下之春遊。揮○○以手書御製。	44-8(18)	【新成】	
【神變】		經是昇霞之後。金文○○。	39-3(13)
○○放光。暗冥之霧盡散。	28-14(7)	敬奉飭龍駕之不返。兼復供厠塔之○○。	40-9(14)
【神明】		仙殿○○。雖恨長生之虛名。	43-7(17)
欲歸故鄉之期。今不期。○○願賜靈呪。	23-7(2)	【新佛】	
其中若有○○不享之吏。	22-11(2)	上則增加○○璽珞之末光。	46-11(20)
【神力】		【新墳】	
阿育者阿闍世王之孫也。假○○而賈鬼傭。	27-10(5)	北芒○○。已見七尺之花樹。	51-14(26)
		【新變】	

今朝○○。欲開出世之門。	45-9(19)	年三十極○○之位。十一年忝王佐之任。	24-13(4)
【新淚】		【人世】	
菩提之飭忽成。所加只四衆戀慕之○○。	44-8(18)	我母不是○○之母。是善緣之母也。	35-2(12)
【寢】		【人中】	
【寢食】		夫以。○○之尊。猶現四枯之相。	46-1(20)
不聞于今仁王垂哀憐。不知又我老身忘○○。	48-5(22)	努力莫爲○○之雲雨。	48-7(22)
【寢膳】		【人望】	
而上月中旬。○○乖例。	50-2(24)	此貧道之功也。丈六適○○。	33-10(11)
【寢病】		【人民】	
而○○無程。卽世太速。	51-10(26)	或催功德於○○。或得恭敬於草木。	32-6(10)
→(燕○・舊○)		【人命】	
【臻】		嗟吁。○○不定。吾生難知。	49-1(23)
視聽之悲未半。忌景之期既○。	42-11(16)	【人倫】	
【薪】		雖誠禽獸猶思鄉土。況於○○。	34-15(12)
機緣○滅。花界駕催。	42-8(16)	→(醫○・一○・化○・外○・金○・古○・衆○・千萬○ ・善女○・天○・婦○・舞○・萬○・李夫○)	
【親】		【甚】	
恨而更恨。莫恨於少先○。	50-12(25)	【甚深】	
【親舅】		兼三界而救群類。妙法之功○○。	30-8(8)
常恐偏以○○。垂老而輔佐壯年之君。	44-10(18)	○○之義。海象吐明月之珠。	32-8(10)
【親疎】		【陣】	
凡厥六道○○。四生大小。	41-15(15)	【陣雲】	
→(一○・怨○・慈○・二○)		東山捍命之徒。○○漫起。	30-5(8)
ジン		【尋】	
【人】		【尋古】	
思以涉歲。不敢語○。	24-12(4)	在今○○。世異趣同。	30-10(8)
是○一生不爲一切毒藥所中。	26-10(5)	→(道○)	
道儀照地。九億之○皆來。	27-1(5)	【塵】	
何況於至心之○乎。於造塔之○乎。	27-4(5)	法皇平日讚揚之窓。經卷之○漸積。	42-10(16)
然而大光廻映。猶有伏不見之○。	29-6(7)	珊瑚床下。鏡匣遺染淚之○。	45-8(19)
白足青眼之輩。鏤腹乘杯之○。	32-7(10)	方今芸閣○深。竹簡幾千卷。	50-14(25)
寄心於無知之域。委身於異類之○。	34-7(12)	【塵翳】	
誹謗盧胡者。已千萬○。	34-8(12)	○○寄身。恐滯成佛之道。	29-4(7)
凡入唐求法之○。自宗者弘法大師。	34-9(12)	【塵敗】	
皆是權化之○。希代之器也。	34-10(12)	彼岸引接之因。普濟三千界之○○。	29-2(7)
或多愁恙無依怙之○等也。	46-6(20)	→(醫○・鎖○・吹○・俗○・逃○・微○劫)	
命不以○之惡天而長其齡。	47-13(22)	【盡】	
彼才色雖非絕代。恩寵亦不愧○。	47-15(22)	【盡期】	
南樓翫月之○。月與秋期而身何去。	49-2(23)	五內無靜日。四邇有○○。	48-15(23)
法軍降魔之兵長去。遺誰○而令背北。	52-10(27)	【盡善】	
昔當正法多智行○之間。猶有離若斯○之歎。	52-11(27)	初謂○○盡美。具足以快薰修。	23-1(2)
今臨末法少智行之○之時。爭堪失若斯○之悲。	52-11(27)	【盡美】	
【人間】		初謂盡善○○。具足以快薰修。	23-1(2)
身已有若亡。○○既非可求名利。	27-14(6)	→(開○・五○・說○)	
豈敢習○○之息災。唯是充身後之追福而已。	31-4(9)	ス	
○○催信。既寄群類。	32-1(10)	【須】	
【人臣】			

【須彌】			
播于一善之蒂芥。納於百億之〇〇。	31-4(9)		
【須臾】			
〇〇之歡樂。還爲苦緣。	29-3(7)		
スイ			
【水】			
苟有潔信。潢汗之〇非穢。	22-15(2)		
身田迎夏。定惠之〇浮光。	30-11(8)		
精疑之誠。天人湛梅檀之〇。	32-8(10)		
過於熙連河之苦行一年。禪定〇靜。	42-9(16)		
【水音】			
尼連禪河之〇〇。空咽跋提之淚浪。	52-3(27)		
【水菽】			
餘年之〇〇者。汝之可所營。	35-3(12)		
→ (泗〇・秋〇・湛〇・智〇・法〇・萬〇・鱗〇・漏〇)			
【吹】			
【吹塵】			
文官武官。共勵〇〇橫草之忠節。	29-12(7)		
【垂】			
【垂跡】			
割薄俸而飭神威。只恃熱田權現之〇〇。	23-7(2)		
紺瑠璃之紙。象教〇〇。	32-2(10)		
【垂涕】			
時也大衆中。或〇〇曰。	33-12(11)		
【垂柳】			
〇〇婆娑之態。難及轉腰。	23-15(3)		
【垂老】			
常恐偏以親舅。〇〇而輔佐壯年之君。	44-10(18)		
〇〇猶憇。仕而用朝者。亦誰愛之暗通。	48-14(23)		
【翠】			
【翠蛾】			
玄鬢〇〇。莫不洛川之麗質。	46-2(20)		
【翠柳】			
〇〇不濃。何貽霜後之悔。	29-3(7)		
【翠釐】			
何朝何夕。再逢〇〇之歸時。	45-8(19)		
→ (翡翠)			
【衰】			
【衰色】			
桃李無〇〇。桑榆非斜暉。	46-6(20)		
→ (五〇)			
【醉】			
【醉花】			
彼金谷〇〇之地。花每春勻而主不歸。	49-1(23)		
【醉後】			
保寶珠於〇〇。照燃燈於暗中。	29-1(7)		
【遂】			
〇其大成。徙于微官。	22-4(1)		
不能供養此經。亦不能〇任秩。	22-12(2)		
出世契深。〇赴菩提之道。	41-7(15)		
六月廿二日。〇以入滅。	44-4(18)		
夜漏五盡。〇謝有涯之生。	50-2(24)		
入道之夜。〇以掩眼。	51-2(25)		
夫菩提道樹之月影。〇隱沙羅之愁雲。	52-3(27)		
【誰】			
既云率土。〇非王民。	30-9(8)		
省躬彌慙。向〇而訴。	33-7(11)		
訪後生於〇家。寶樹蓮臺加莊嚴而相待。	40-3(14)		
娑婆電泡之國。〇免無常之悲。	41-5(15)		
況八萬十二之校量。〇敢知淺深。	41-12(15)		
三十二之寶祚〇論短。	44-11(18)		
故園之浮埃。〇敢留心。	45-4(19)		
生而在世者。是〇患之所致。	48-14(23)		
仕而用朝者。亦〇愛之暗通。	48-14(23)		
〇不走使之供養者乎。	49-7(23)		
七月半之盂蘭。所望在〇。	50-15(25)		
無一於此。〇仰如來。	51-4(25)		
法軍降魔之兵長去。遣〇人而令背北。	52-10(27)		
ズイ			
【隋】			
【隋高祖】			
況〇〇〇之建仁祠。變戰場於頰梨之閣。	30-9(8)		
【瑞】			
材明六通。文殊能辨〇於往昔。	28-15(7)		
【隨】			
【隨緣】			
卽謂法輪以恒轉爲宗。善根非〇〇不感。	49-7(23)		
【隨喜】			
天神地祇。增威光以〇〇。	29-10(7)		
伏願。諸佛如說〇〇。	31-4(9)		
仍爲廣集會廣〇〇。	32-6(10)		
【隨分】			
菩提之飾。〇〇欲訪。	51-13(26)		
【隨無】			
豈圖隨有〇〇。低頭以纒供給。	23-1(2)		
【隨有】			
豈圖〇〇隨無。低頭以纒供給。	23-1(2)		
【隨類】			
又不知觀音欲度〇〇。爲現化身歟。	46-7(20)		
スウ			
【崇】			

<p>【崇階】 鳳銜屢降。加〇〇於龍象之上首。 52-10(27)</p> <p>【樞】 【樞鍵】 構止觀以爲桑門之〇〇。 52-8(27)</p> <p>《すなわち=乃→ダイ》</p> <p>スン</p> <p>【寸】 【寸心】 〇〇不亂。十念無休。 46-10(20) → (方〇)</p> <p>セ</p> <p>【世】 在今尋古。〇異趣同。 30-10(8) 夫天不爲〇之貪生而輟其死。 47-13(22) 生而在〇者。是誰惠之所致。 48-14(23) 夏季受病。秋初背〇。 50-13(25)</p> <p>【世界】 大千〇〇。遍徹慈悲之雲。 31-12(10) 是娑婆〇〇衆生。徒累火血刀之業因爲。 33-5(11)</p> <p>【世尊】 殊於王舍城之東河。假立佛〇〇之月殿。 32-6(10) 徒衆及教法。如今日〇〇。 33-14(11) 〇〇患風。香城施獻藥之術。 40-1(14) 無上〇〇。高並妙覺之座。 45-11(19) 佛界貴信不貴財。〇〇依誠不依物。 47-8(21) → (厭〇・今〇・現〇・在〇・三〇・出〇・人〇・卽〇・遁〇・背〇・命〇・來〇・理〇)</p> <p>ゼ</p> <p>【是】 昨日爲〇。今日爲非。 35-9(12)</p> <p>【是界】 哀樂如夢。未獻〇〇之壽。 45-7(19) → (便〇)</p> <p>セイ</p> <p>【正】 【正覺】 於此造塔。爲祖考先靈成等〇〇也。 27-3(5)</p> <p>【正法】 不值在世之日。不生〇〇之時。 33-6(11) 昔當〇〇多智行人之間。 52-11(27)</p>	<p>→ (八〇)</p> <p>【生】 夫天不爲世之貪〇而輟其死。 47-13(22)</p> <p>【生死】 〇〇海中。慈氏之月未照。 28-3(6) 山川蔽澤。何處無〇〇之形骸。 31-14(10) 誠是〇〇海中大船師。煩惱病中大醫王也。 33-6(11) 分段〇〇之鄉。難緩有涯之尅。 41-5(15) 大都苦輪之中。不免〇〇者也。 46-2(20) 與我同哀者。併超〇〇之流。 47-10(21)</p> <p>【生者】 〇〇必滅。釋尊未免梅檀之煙。 49-15(24)</p> <p>【生生】 綿綿此恨。〇〇何忘。 47-5(21)</p> <p>【生前】 佛者〇〇之御願。以三尊爲資朋。 44-6(18)</p> <p>【生善】 爲自身滅罪〇〇。無上菩提也。 27-3(5) → (一〇・改〇・群〇・往〇・後〇・濟〇・四〇・衆〇・前〇・長〇・浮〇・平〇・利〇)</p> <p>【成】 【成蓋】 七匝香煙。瑠璃之雲〇〇。 33-11(11)</p> <p>【成功】 漸漸合力。微微〇〇。 32-1(10)</p> <p>【成劫】 〇〇壞劫。前身後身。 31-13(10)</p> <p>【成子】 早尋〇〇之石。永贈王母之玉。 43-5(17)</p> <p>【成聚】 道場之體漸具其下。〇〇成邑。 26-9(5)</p> <p>【成道】 釋迦如來。〇〇二十年之後。 23-1(2)</p> <p>【成佛】 塵翳寄身。恐滯〇〇之道。 29-4(7) 是以爲四恩六道〇〇得果故。 31-14(10) 願我〇〇時。名曰釋迦牟尼。 33-13(11) 教聞之信之者。無一不〇〇。 49-6(23)</p> <p>【成邑】 道場之體漸具其下。成聚〇〇。 26-9(5) → (寫〇・助〇・新〇・大〇)</p> <p>【西】 阿闍世王之夢。煙暗金河之〇。 43-4(17) 上征兜率。〇遇彌陀。 26-3(4)</p> <p>【西極樂】 今弟子揮涕。欲開九品於〇〇〇之池。 47-9(21)</p> <p>【西傾】</p>
---	---

何臨夕陽之〇〇。忽逢慈雲之東斷。	41-7(15)	【旌德】	
【西日】		匪石之所思。書妙法而代立碑〇〇之文。	25-6(4)
常念〇〇影斜。付後事於吾子。	50-13(25)	【清】	
【西方】		【清虛】	
不越南部。便覩〇〇。	28-10(6)	苦海將救。遂入佛海之〇〇。	42-7(16)
定知不經中有。直至〇〇。	46-10(20)	【清淨】	
〇〇極樂。定登九品之蓮臺。	51-14(26)	心污不必〇〇。攀緣非無所慙。	27-2(5)
【西面】		【清淨心】	
公主臨終之間。〇〇憑几。	46-9(20)	以〇〇〇造作佛塔。	26-10(5)
→ (平〇)		【清涼】	
【青】		〇〇之春花。日遲或賜共翫。	47-15(22)
【青鳥】		【清和】	
〇〇催悲。三泉之扇長鎖。	50-3(24)	于時芳菲候過。〇〇景闌。	49-9(23)
【青雲】		→ (澄〇)	
白雲〇〇之低昂。迎遊塔之鳥。	26-13(5)	【棲】	
器期〇〇。名顯紫闈。	51-9(26)	【棲息】	
【青眼】		當受圖所草創。類脫履而〇〇。	42-12(16)
白足〇〇之躡。鑠腹乘杯之人。	32-7(10)	【聖】	
【青草】		【聖忌】	
〇〇敷煙之堤。宛如鷺嶺。	32-8(10)	方今七七〇〇。光陰欲盈。	44-6(18)
【青苔】		【聖主】	
〇〇鋪設。自展七淨瑠璃之茵。	25-9(4)	〇〇每度。修福於七箇寺。	40-4(14)
【青塚】		【聖體】	
丹丘〇〇。忽具如來之眞色。	25-12(4)	去春以還。〇〇不豫。	40-1(14)
→ (丹〇)		去冬以降。〇〇不豫。	42-7(16)
【政】		於是今年五月。〇〇不豫。	44-3(18)
【政理】		【聖朝】	
瑩〇〇於文學。通百家以重十家。	44-1(18)	以此善根。奉祈〇〇。	32-11(10)
【星】		【聖德】	
【星階】		紫微〇〇之居。金輪常照。	29-11(7)
〇〇昔位。便是月輪之基。	49-11(23)	證明恩波之無岸。知見〇〇之有隣。	30-12(8)
【星霜】		【聖明】	
〇〇十四迴。胸臆千萬語。	31-15(10)	弟子上位〇〇之恩。下泣父子之愛。	48-2(22)
主我巾櫛。積以〇〇。	50-2(24)	【聖慮】	
【星羅】		鳳舞鸞歌。雖乖去年之〇〇。	40-8(14)
玉軸〇〇。見崑山之積玉。	25-10(4)	【聖靈】	
→ (金〇・銀〇・定〇)		〇〇寃靈之相異。盡住法雲。	24-3(3)
【省】		我〇〇陛下。拋羅圖而逃塵。	39-3(13)
【省躬】		揔擎此惠業。奉飭〇〇。	39-7(13)
〇〇弥慙。向誰而訴。	33-6(11)	〇〇陛下。早尋成子之石。永贈王母之玉。	43-5(17)
→ (晏〇・蘭〇)		〇〇遁世之初十九。釋尊蓋乃二十九。	43-5(17)
【陶】		釋尊唱滅之期八十。〇〇纔是四十一。	43-5(17)
母儀之〇。蛇齒獻駐老之方。	32-12(10)	我〇〇陛下。七歲卽帝位。	43-15(18)
→ (荒〇)		→ (凡〇)	
【賊】		【誠】	
今冬啼眼寒。冰承〇而無乾。	47-5(21)	精款之〇。天人湛栴檀之水。	32-8(10)
【旌】		至于籀素男女。各皆輸〇勵行。	44-2(18)

買春秋於法肆。以表臣子之○。 45-5(19)
 今之所講。趣異○同。 45-9(19)
 佛界貴信不貴財。世尊依○不依物。 47-8(21)
 ○是自然之理。有涯之悲也。 47-13(22)
 平素不能採蘭以翹○。 48-14(23)
 供佛之○。唯志是盡。 50-7(24)
 ○乃四恩之不同。雖知凡聖之相隔。
 → (致○)
 【精】
 【精款】
 ○○之誠。天人湛梅檀之水。 32-8(10)
 【精勤】
 經者夢後之○○。以一乘爲輿。 44-6(18)
 【精舍】
 先公相府建立○○矣。 49-8(23)
 【精進】
 爲慈母一月十日。○○歸依。 35-6(12)
 【精明】
 朝野卷霧。皆戴三光之○○。 24-4(3)
 【精靈】
 ○○冤魂。浴法雨而離垢。
 → (研○)
 【哲】
 夫遊十方而導衆生。觀音之○自在。 30-8(8)
 【哲護】
 復○○左府殿下。息災延命。千秋萬歲。 23-5(2)
 → (本○)
 【嘶】
 胡馬非北風不○。越鳥非南枝不巢。 34-15(12)
 【整】
 【整理】
 是故別命伶倫。○○音樂。 23-15(3)
 【靜】
 【靜日】
 五內無○○。四運有盡期。 48-15(23)
 【靜謐】
 華夷鎖塵。盡感四海之○○。
 → (寂○・不○)
 【聲】
 荒砌尋○虫響。非前年之聽。 41-15(15)
 【聲聲】
 ○○調樂。欲備天衆之降臨。 40-7(14)
 【聲名】
 往年爲榮分。爲○○。 22-4(1)
 → (哀○・一○・英○・越○・音○・響○・婆○聞・風○)

セキ

【夕】

何朝何○。再逢翠翟之歸時。 45-8(19)

【夕陽】

何臨○○之西傾。忽逢慈雲之東斷。 41-7(15)

→ (-○・暁○)

【石】

夫近塔之○。變爲美玉。 27-3(5)

早尋成子之○。永贈王母之玉。 43-5(17)

【石火】

迴可香煙之不絕者。無恨○○之早燬矣。 31-7(9)

→ (咽○・劫○・施○・磐○)

【赤】

【赤梅檀】

昔切利天之安居九十日。刻○○而摸尊容。 33-9(11)

→ (方○)

【昔】 《・はく昔時一今時》を対照するもの》

・○玄奘三藏～今白衣弟子。 23-3(2)

○弱冠著緋之時。從先考大相國。 24-10(4)

・○幼日童子之戲。～今長年丞相之勤。 27-9(5)

・○當萬邦之有罪。～今思四生之無安。 30-7(8)

・○朱邑之歸邑里也。～今弟子之誠子孫也。 31-5(9)

○一婆疊聞之展齋筵。廣勤三明之炬。 32-5(10)

・○切利天之安居九十日。～今跋提河之減度二千年。 33-8(11)

・抑佛○於過去釋迦牟尼佛所。～如今日世尊。 33-13(11)

・太上法皇。○是無何在心。～今亦有爲厭世。 39-15(14)

・○釋迦善逝。～今國母寶宮。 41-8(15)

又上皇○有奉寫一切經之觀念。 41-10(15)

・○龍女獻珠。～今弟子揮涕。 47-9(21)

○李夫人之反魂。尚可勞方士。 48-3(22)

・○當正法多智行人之間。～今臨末法少智行人之時。 52-11(27)

【昔位】

星階○○。便是月輪之基。 49-11(23)

【昔秋】

故宮寄眼月光。殊○○之色。 41-15(15)

【昔容】

殿庭之儀不改。所欠只一人慈悲之○○。 44-8(18)

→ (往○・宿○・平○)

【寂】

【寂寂】

古塚衆々。幽燧○○。 24-10(4)

【寂靜】

四海之家未作貧也。豈若眞如之○○。 41-7(15)

【寂滅】

圓融亭午。○○平西。	33-4(11)	昔釋迦善逝。爲報摩耶之恩昇忉利而○○。	41-9(15)
無相之月早藏。雖顯○○之理。	39-6(13)	→(經○・講○)	
【跡】		【竊】	
蓋慕古人廬墓側之○。所草創也。	26-8(5)	○以不得意人。所陳宜然。	34-11(12)
覺花承步。應化之○長芳。	31-12(10)	一夕五起。○所庶幾也。	45-3(19)
→(遺○・垂○)		大長者之出孕。○欲恨如來。	48-3(22)
【碩】		ゼツ	
【碩德】		【舌】	
○○被物。頒十善於四瀛。	45-1(19)	目雖暗有○。得誦一乘經。	28-1(6)
【積】		【舌根】	
【積玉】		欲述心緒。○○結而易亂。	46-15(21)
玉軸星羅。見崑山之○○。	25-10(4)	→(鶯○)	
【積功】		セン	
其○○累德。致誠專心者。	34-5(12)	【千】	
【穢】		【千花】	
向彼松下。則○二恩父母之廟壇。	25-3(4)	紅葉亂飛。暗成○○錦繡之帳。	25-10(4)
セツ		○○開盡之候。百鳥和鳴之時。	29-7(7)
【刹】		【千官】	
【刹那】		○○景從。本是諸天之愛子。	39-7(13)
○○之榮花。更變枯木。	29-3(7)	【千行】	
【拙】		噫沙婆遺哀。縱肩○○於眼下。	45-10(19)
【拙掌】		【千秋】	
是以勵○○而馳筆區。以信爲嘉手。	25-6(4)	息災延命。○○萬歲。	23-6(2)
亦穿○○而奉寫墨字妙法蓮華經一部。	31-3(9)	有萬歲○○樂未央之七字。	27-6(5)
【肩】		九泉別淚。送○○而無窮。	50-14(25)
噫娑婆遺哀。縱○千行於眼下。	45-10(19)	【千僧】	
【雪】		爰展一日之錦筵。普施○○之綺饌。	30-10(8)
○盡冰解之日。付谿鳥而傳妙音。	31-6(9)	【千比丘】	
【雪山】		蘿逕分味。所助者○○○之霞浪。	41-13(15)
醍醐味澀。豈求○○之中。	28-15(7)	【千幅】	
【雪山童子】		金輪○○。道被飛帝之先。	32-11(10)
仰變身於多寶如來。尋信力於○○○○。	28-5(6)	【千萬億】	
【雪窓】		○○○之悲情。更訴遺恨於何處。	41-8(15)
匡衡幸出顏巷之○○。	22-12(2)	【千萬秋】	
【雪鬢】		哀哉片時不見。麟腸宛如○○○。	48-4(22)
況○○齡邁。黃髮期催。	31-1(9)	【千萬人】	
【雪夜】		誹謗虛胡者。已○○○。	34-8(12)
椒房花朝。蘭殿○○。	45-2(19)	【千萬緒】	
【雪嶺】		星霜十四迴。胸臆○○○。	31-15(10)
或降自○○香山。或至自菴園奈苑。	32-7(10)	【千門】	
【説】		皆報○○萬戶之歡娛。	29-12(7)
【説盡】		【千葉】	
雖歷一劫。不可○○。	47-6(21)	今秋之悲淚。欲開覺藥於○○之蓮。	51-5(25)
【説法】		【千里】	
況亦○○之後。更臨夜漏。	32-9(10)	投咫尺以不留。必屈○○焉。	34-5(12)
抑○○有隣。何野非鹿苑。	40-6(14)		

【千億】		〇〇〇之變。一服無驗。	40-2(14)
三台九棘。百辟〇〇。	32-13(10)	【梅檀風】	
→ (一〇・三〇・三〇界・大〇・二〇年・八萬四〇)		〇〇〇吹。自出雲臺之下。	28-15(7)
【仙】		→ (赤梅檀)	
【仙院】		【專】	
臣妾猶期浮沉於〇〇之月。	44-3(18)	【專心】	
【仙家】		其積功累德。致誠〇〇者。	34-6(12)
唯須迎日月於〇〇。以祝王母之齒。	45-4(19)	【專任】	
【仙居】		供佛施僧之資貯。〇〇東閣之芳意。	52-13(27)
爰移〇〇於九重之裏。	45-2(19)	【專念】	
【仙殿】		〇〇彌陀。永歸極樂。	32-10(10)
〇〇新成。雖恨長生之虛名。	43-7(17)	【淺】	
【仙蹕】		【淺契】	
十萬億之國土何言遙。早迎〇〇於極樂。	44-11(18)	豈唯三州五郡之〇〇。內外威之影從。	25-15(4)
【仙遊】		【箭】	
玄圃〇〇之際。玉體永明。	29-11(7)	過塔下之走獸。免煩惱之〇。	27-4(5)
便於〇〇道場。敬展講筵。	51-4(25)	→ (虬〇)	
【先】		【賤】	
金輪千幅。道被飛帝之〇。	32-12(10)	今上陛下之姊。於天下不亦〇。	46-6(20)
恨而更恨。莫恨於少〇親。	50-12(25)	→ (貴〇)	
【先筮】		【戰】	
伴槐棘以高法棟。擬王丞相之拜〇〇。	25-14(4)	【戰場】	
【先後】		況隋高祖之建仁祠。變〇〇於頗梨之閣。	30-9(8)
荒原古今之骨。東岱〇〇之魂。	32-14(10)	【錢】	
雖知老少之不定。猶迷〇〇之相違。	50-12(25)	【錢帛】	
【先靈】		天官依勅而輸〇〇。舊院有議以替佛經。	42-11(16)
於此造塔。為祖考〇〇成等正覺也。	27-3(5)	→ (半〇)	
【淺】		【唇】	
【淺淺】		【唇荷】	
財幣玉帛。〇〇羅列。	22-15(2)	四種花雨。〇〇之露添灯。	33-11(11)
【泉】		【鮮】	
霑朽壞於甘露之〇。手播白蓮之種。	26-2(4)	菩提樹下。七覺之華彌〇。	40-6(14)
→ (九〇・三〇・百〇・涙〇)		大小乘之並軸。貫春花而爭〇。	41-11(15)
【染】		居武官而威風遠弱。嗜文道而詞露自〇。	51-10(26)
【染淚】		【瞻】	
珊瑚床下。鏡匣遺〇〇之塵。	45-8(19)	【瞻望】	
【穿】		洞月曉到。空〇〇於鼎湖之雲。	43-6(17)
【穿雲】		ゼン	
若是從地涌出歟。〇〇而出歟。	26-12(5)	【全】	
【扇】		衣雖破愧之衣是〇。食雖乏禪悅之食是豐。	27-15(6)
〇梵風而增壽命。藥師如來之本願殊妙。	45-5(19)	【前】	
居武官而威風遠〇。嗜文道而詞露自鮮。	51-10(26)	【前身】	
【梅】		成劫壞劫。〇〇後身。	31-13(10)
【梅檀】		【前生】	
精歎之誠。天人湛〇〇之水。	32-8(10)	追悔〇〇。造何惡業。	47-6(21)
生者必滅。釋尊未免〇〇之煙。	49-15(24)	【前途】	
【梅檀糞】			

問○○於何處。觀音得大狹行路而奉迎。	40-2(14)	○○合力。微微成功。	32-1(10)
室中多年少之遺弟。失○○於荊谿之雲。	52-7(27)	【禪】	
【前年】		【禪悅】	
荒砌尋聲虫響。非○○之聽。	41-15(15)	衣雖破憊愧之衣是全。食雖乏○○之食是豐。	27-15(6)
→(花○·眼○·腎○·月○·生○·風○·簾○)		【禪定】	
【善】		過於熙連河之苦行一年。○○水靜。	42-9(16)
【善惡】		【禪波】	
眞如棕落。在○○之因緣。	31-13(10)	○○澄意。欲開上上之蓮。	32-10(10)
【善因】		【禪門】	
爰設齋會。彌增○○。	42-12(16)	續剃鬢髮以入道。新舊皆議追從於○○之雲。	44-4(18)
【善緣】		【禪侶】	
我母不是人世之母。是○○之母也。	35-2(12)	有經典焉。有○○焉。	26-9(5)
【善業】		【禪林】	
今日○○。上則增加新佛嬰珞之末光。	46-11(20)	○○戴霜。有漏之質已老。	32-2(10)
【善根】		→(尼連○河)	
若不殖○○於此地。何必閑素之儒者。	22-13(2)	【繕】	
造塔○○。流傳貝葉。	23-12(3)	【繕寫】	
此外傍親列祖之○○德本。	25-3(4)	故今圖繪尊像。○○寶典。	30-8(8)
所修○○。引攝四恩。	27-7(5)	尋冲襟於舊日。畢○○於今朝。	41-10(15)
以此○○。奉祈聖朝。	32-11(10)	ソ	
皆以今日之○○。將爲來世之張本。	33-14(11)	【祖】	
法輪以恒轉爲宗。○○非隨緣不感。	49-7(23)	【祖考】	
【善終】		○○感應。垂冥助之令然也。	25-8(4)
不好獨善企兼濟。不忘敬始願○○。	24-10(4)	弟子爲奉贄○○宗族之幽儀。	26-6(5)
【善女】		於此造塔。爲○○先靈成等正覺也。	27-3(5)
善男○○。或尊或卑。	52-9(27)	【素】	
【善女人】		○思進燕寝。不欲混俗塵。	47-14(22)
若善男子○○○等。以清淨心造作佛塔。	26-10(5)	【素意】	
蓋檀邦○○○之願也。	28-7(6)	彼蓬萊洞之花非不芳。○○久期七覺。	46-3(20)
【善心】		→(緇○·平○)	
合掌爲花。○○爲香。	51-14(26)	【楚】	
【善神】		【楚樂】	
天神地祇。及茲山幽靈○○。	26-1(4)	彼半鍾儀之遇繫囚也。尚奏○○。	34-14(12)
【善逝】		ソウ	
南無一代教主釋迦尊。多寶。分身諸○○。	27-9(5)	【早】	
昔釋迦○○。爲報摩耶之恩昇忉利而說法。	41-8(15)	迴可香煙之不絕者。無恨石火之○敵矣。	31-7(9)
【善男】		佛則在世之時。蓮眼○發。	39-3(13)
○○善女。或尊或卑。	52-8(27)	○尋成子之石。永贈王母之玉。	43-5(17)
【善男子】		十萬億之國土何言遙。○迎仙蹕於極樂。	44-11(18)
若○○○善女人等。以清淨心造作佛塔。	26-10(5)	何圖樂未央哀先至。福漸始禍○成。	47-3(21)
【善知識】		弟子○引幽靈。偏在極樂。	48-8(22)
願我與○○○。共奉造釋迦尊之形像。	33-7(11)	抑亡者○在未病之前。	50-15(25)
【善苗】		【早歲】	
忽遇蘭房之水凋。酷嘆○○之不熟。	40-8(14)	涅槃山上。釋尊之日○○。	28-3(6)
→(一○·修○·十○·盡○·生○·獨○)		無相之月○○。雖顯寂滅之理。	39-6(13)
【漸】			
【漸漸】			

夫佛日雖○○。餘輝明而常在。	43-15(18)	痛矣一夕○○。老淚已且四十餘日。	48-4(22)
【壯】		→ (王丞○·四八○·實○·妙○·無○)	
【壯年】		【草】	
常恐偏以親舅。垂老而輔佐○○之君。	44-10(18)	縱有寒○依造塔之力可暖。何○非妙法蓮。	27-5(5)
【走】		今上每春臨幸之地。盤路之○初繁。	42-10(16)
【走獸】		【草創】	
過塔下之○○。免煩惱之箭。	27-4(5)	○○之功。雖在宿昔。	23-11(3)
【宗】		蓋慕古人廬墓側之跡。所○○也。	26-8(5)
無二無三之車脂軸。運載爲○。	29-1(7)	夫圓融院者。當受圖所○○。	42-12(16)
卽謂法輪以恒轉爲○。善根非隨緣不感。	49-7(23)	【草木】	
【宗族】		或催功德於人民。或得恭敬於○○。	32-6(10)
弟子爲奉貢祖考○○之幽儀。	26-6(5)	○○愁色。況於蘭省梨園乎。	44-9(18)
【宗廟】		滿園之○○。期榮枯於彼恩。	47-2(21)
扶持○○。保安社稷。	24-15(4)	→ (橫○·寒○·背○)	
→ (自○)		【送】	
【相】		【送日】	
八萬四千之○。秋月滿而高懸。	42-5(16)	麻浪○○之中。復施何力。	32-4(10)
人中之尊。猶現四枯之○。	46-1(20)	【送終】	
【相異】		荒原○○之時。混松風而添哭。	47-5(21)
聖靈寃靈之○○。盡住法雲。	24-3(3)	【送春】	
【相違】		意樹○○。解脫之枝點萼。	30-11(8)
雖知老少之不定。猶迷先後之○○。	50-12(25)	【桑】	
松羅之契。於今○○。	51-13(26)	【桑梓】	
【相改】		況於人倫。豈輕○○乎。	34-16(12)
禍福○○。忽赴佗方之遊。	45-7(19)	【桑門】	
【相隔】		今弟子之誠子孫也。不如○○之侶。	31-5(9)
誠乃四恩之不同。雖知凡聖之○○。	52-4(27)	構止觀以爲○○之樞鍵。	52-7(27)
【相迎】		【桑榆】	
可以憐愍。可以○○。	34-8(12)	桃梨無衰色。○○非斜暉。	46-6(20)
【相好】		→ (空○)	
異口同音。讚嘆如來之○○。	33-11(11)	【掃】	
【相催】		【掃庭】	
他方利生之化○○。豈留中有之風。	52-15(27)	山嵐朝○○。溪月夜舉燭而已。	25-5(4)
【相從】		【巢】	
勸誘○○者。纔二三輩。	34-9(12)	胡馬非北風不嘶。越鳥非南枝不○。	34-15(12)
【相將】		燕雀○覆。撫遺卵而摧肝。	50-4(24)
始自王侯○○。至于緇素男女。	44-2(18)	→ (煙○)	
【相談】		【窓】	
初獨思量之。後終○○之。	35-1(12)	法皇平日讚揚之○。經卷之塵漸積。	42-10(16)
【相傳】		【窓中】	
一箇中之花月。○○失主。	50-15(25)	獨作燈下伴影之身。猶添○○戀古之恨。	50-4(24)
【相同】		○○堆詩書。舒卷罷而塵空積。	51-11(26)
白浪咽石之岸。○○鷺池。	32-8(10)	→ (綺○·月窓·深窓·雪窓)	
【相望】		【莊】	
天使○○於路。醫人多盡其方。	42-8(16)	【莊嚴】	
於是天使○○雲泥之間。	48-2(22)	○○熱田之靈社。流布般若之教文。	22-14(2)
【相離】		以○○三寶大海三所耀暉。	23-4(2)

豈唯果報之殊勝乎。兼復道場之〇〇也。	23-12(3)	【増益】	
非唯果報之殊勝。兼爲佛庭之〇〇。	26-11(5)	仰願三寶〇〇一念。	26-1(4)
訪後生於誰家。寶樹蓮臺加〇〇而相待。	40-3(14)	〇〇我願。助成我願。	27-9(5)
堂構漸久。〇〇未訖。	41-12(15)	【増加】	
今勤信心之惠業者。唯添法身之〇〇也。	42-14(16)	上則〇〇新佛瓔珞之末光。	46-11(20)
花香梵唄之〇〇。亦在南嶽之光儀。	52-14(27)	【増果】	
【莊鳥】		幡影乍翻。遂電〇〇。	49-12(23)
〇〇之得富貴也。不變越聲。	34-15(12)	【増光】	
【喪】		天神地祇。向惠日而〇〇。	27-8(5)
再見母面。終遭母〇。	35-8(12)	【増長】	
【総】		〇〇福壽。圓滿御願。	23-5(2)
【総卯】		ソク	
處處訪名。普課良家之〇〇。	40-7(14)	【即】	
【蒼】		【即身】	
【蒼波】		裔然願先參五臺山。欲逢文殊之〇〇。	34-3(12)
或伏白刃而係首。或迷〇〇而亂俄。	30-6(8)	彼〇〇也。是後身也。	48-9(22)
【蒼栢】		【即世】	
嗟呼。煖寒木於大智之日。淚變〇〇之煙。	26-2(4)	去七月終〇〇矣。	48-3(22)
【霜】		而寢病無程。〇〇太速。	51-10(26)
【霜後】		【息】	
翠柳不濃。何貽〇〇之悔。	29-3(7)	【息災】	
→(星〇・戴〇)		〇〇延命。千秋萬歲。	23-6(2)
【叢】		豈敢習人間之〇〇。唯是充身後之追福而已。	31-5(9)
【叢中】		【息女】	
此山之〇〇。縱有寒草依造塔之力可暖。	27-5(5)	弟子有一〇〇。最所鍾愛也。	47-14(22)
【雙】		→(棲〇)	
【雙林】		【速】	
〇〇忽唱滅度。至悲者椒庭寡居之秋風。	44-4(18)	而寢病無程。即世太〇。	51-11(26)
→(無〇)		【速證】	
【叢】		佗方妙覺之果。〇〇四八相之金容。	29-2(7)
【叢澤】		佛事廣作。何疑〇〇之實語。	43-7(17)
山河〇〇。何處無生死之形骸。	31-14(10)	ゾク	
→(斗〇)		【俗】	
ゾウ		訓〇少術。踐薄冰於深淵。	30-4(8)
【造】		佛子自發此願。獨恠此心。何況道云〇云。	34-8(12)
【造作】		【俗塵】	
若善男子善女人等。以清淨心〇〇佛塔。	26-10(5)	未以受恩寵爲榮。唯以逃〇〇爲志。	46-4(20)
【造次】		素思進燕寝。不欲混〇〇。	47-14(22)
〇〇顛沛。必一乘。	24-14(4)	→(風〇)	
晏昏所誦者堤婆品。〇〇所念者彌陀尊。	46-4(20)	【族】	
【造塔】		南海亂常之〇。逆浪不閑。	30-5(8)
〇〇善根。流傳貝葉。	23-12(3)	→(宗〇)	
何況於至心之人乎。於〇〇之人乎。	27-4(5)	ソツ	
此山之林中。縱有枯株依〇〇力可榮。	27-5(5)	【率】	
此山之叢中。縱有寒草依〇〇力可暖。	27-5(5)		
【増】			

<p>【率都婆】 夫○○之功德。大哉至哉。 28-4(6)</p> <p>【率土】 既云○○。誰非王民。 30-9(8)</p> <p>【率由】 事不獲已。○○舊儀。 22-14(2) → (兜○天)</p> <p>《そもそも = 抑→ヨク》</p> <p>ソン</p> <p>【尊】 夫以。人中之○。猶現四枯之相。 46-1(20)</p> <p>【尊儀】 言其○○。娑婆世界十善之主。 39-4(13) 嗟呼。○○猶如在于眼前。 44-9(18)</p> <p>【尊師】 十方菩薩。以為○○。 23-3(2)</p> <p>【尊像】 故今圖繪○○。善寫寶典。 30-8(8) 以前供養○○。演說妙展。 39-15(14)</p> <p>【尊卑】 華夏遠近。緇素○○。 32-13(10)</p> <p>【尊容】 昔切利天之安居九十日。刻赤栴檀而摸○○。 33-9(11) 此生永隔汲引之厚願。何日再瞻慈悲之○○。 41-14(15)</p> <p>【尊靈】 是則○○存日所奉造也。 52-12(27) 大師○○。往生極樂。 52-14(17) → (九○・三○・釋迦○・釋○・世○・彌陀○)</p> <p>タ</p> <p>【太】 而寢病無程。卽世○速。 51-10(26)</p> <p>【太平】 現世則天下○○。理世安樂之樂。 27-6(5) → (唐○宗・羊○傳)</p> <p>【他】 【他方】 ○○利生之化相催。豈留中有之風。 52-15(27) → (自○・利○)</p> <p>【多】 【多寶】 敬禮釋迦○○。妙法大乘。 25-16(4) 南無一代教主釋迦尊。○○。分身諸普逝。 27-9(5) 【多寶如來】</p>	<p>仰變身於○○○○。尋信力於雪山童子。 28-5(6) 仰願○○○○。從地涌出。 30-11(8)</p> <p>【多寶塔】 仍心中發願之後。新結構○○○一基。 23-13(3)</p> <p>【佗】 【佗界】 乃至有緣無緣。現界○○。 32-13(10) ○○衆生。定飲大悲之乳海。 43-8(17)</p> <p>【佗郷】 又不母者在此土而空亡。子者於○○而不歸。 35-8(12)</p> <p>【佗方】 ○○妙覺之果。速證四八相之金容。 29-2(7) 禍福相改。忽赴○○之遊。 45-7(19)</p> <p>ダ</p> <p>【蛇】 【蛇齒】 母儀之砌。○○獻駐老之方。 32-12(10)</p> <p>タイ</p> <p>【岱】 遊○之魂更還。乞求夏臘高僧之戒。 51-1(25) → (東○・遊○)</p> <p>【苔】 【苔壘】 ○○雲靜。松風只一聲。 50-15(25) → (背○)</p> <p>【退】 【退亦住】 一乘轉輪。非無○○○之輩。 29-6(7) → (不○)</p> <p>【對】 【對揚】 法涌菩薩之○○。寄思開示。 31-15(10)</p> <p>【蒂】 【蒂芥】 播于一善之○○。納於百億之須彌。 31-4(9)</p> <p>【戴】 【戴籍】 禪林○○。有漏之質已老。 32-2(10)</p> <p>ダイ</p> <p>【大】 【大位】 我若向後至○○。心事相諧者。 24-11(4) 從少齡之日。及○○之年。 42-6(16) 【大醫王】</p>
---	---

誠是生死海中 <u>大船師</u> 。煩惱病中○○○也。	33-6(11)	本朝久停○○之使而不遣。	34-2(12)
【大緣】		【乃至】	
抑亦見佛聞法之○○。功德遍于法界。	25-15(4)	○○自有頂天。及阿鼻地。	29-12(7)
【大王】		○○有緣無緣。現界佗界。	32-13(10)
彼○○之力也。五尺猶假天工。	33-9(11)	○○三千界之中。與我同哀者。	47-10(21)
【大會】		○○六趣四生。莫不引接。	48-9(22)
忝咽六百高僧之龍象。將歸十六○○之煙霞。	32-7(10)	○○阿鼻。聞此餘香。	50-8(24)
設六日之○○。移五時之舊儀。	33-10(11)	○○有頂阿鼻。鐵圍沙界。普及功德。	52-15(27)
【大光】		【酒】	
然而○○廻映。猶有伏不見之人。	29-6(7)	○於平生之舊寢。聊開供講之梵筵。	51-13(26)
【大山】		【醒】	
縱有爲○○者。覆一簣以不止。	34-5(12)	【醒醐味】	
【大慈】		○○○灑。豈求雪山之中。	28-15(7)
○○大悲。釋迦文殊。	34-7(12)	タク	
○○在情。撫萬姓於一子。	45-1(19)	【宅】	
【大日】		蔡子○中。魚網雖舊。	41-10(15)
非假○○遍照之光。何成黑夜破暗之計。	50-5(24)	→(火○)	
【大衆】		【卓】	
時也○○中。或垂涕曰。	33-12(11)	【卓躒】	
【大小】		萬歲藤之榮。所以○○萬姓。	24-15(4)
凡厥六道親疎。四生○○。	41-15(15)	【鐸】	
【大小乘】		飾金之○。待曉風而常鳴。	23-13(3)
○○○之並軸。貫春花而爭鮮。	41-11(15)	→(寶○)	
【大成】		《ただ=唯→イ》	
遂其○○。徙于微官。	22-4(1)	ダツ	
【大千】		【脱】	
○○世界。遍敷慈悲之雲。	31-12(10)	【脱去】	
【大船師】		登覺之路欲越。○○春官及第之袍。	51-1(25)
誠是生死海中○○○。煩惱病中大醫王也。	33-6(11)	【脱履】	
【大智】		拋羅圖而逃塵。比萬乘於○○。	39-3(13)
嗟呼。櫻寒木於○○之日。淚變蒼栢之煙。	26-2(4)	昔是無何在心。辭萬乘而○○。	39-15(14)
【大長者】		【脱履】	
○○○之出孕。竊欲恨如來。	48-3(22)	富受圖所草創。類○○而棲息。	42-12(16)
【大都】		→(解○・度○)	
○○苦輪之中。不先生死者也。	46-1(20)	《たとえ=縱→ジュウ》	
【大悲】		《だれ=誰→スイ》	
大慈○○。釋迦文殊。	34-8(12)	タン	
唯願○○。照此御願者。	41-9(15)	【丹】	
佗界衆生。定飲○○之乳海。	43-8(17)	【丹丘】	
唯願○○導此中志。	47-10(21)	○○冢塚。忽具如來之眞色。	25-11(4)
仰願。○○照我幽憤。	51-9(26)		
【大寶蓮】			
蓋開○○○華。貫四時而不凋。	44-15(19)		
→(弘法○師・常啼○士・傳教○師・南岳○師)			
【乃】			
○知八正分源。斷疑網於愛海。	44-15(19)		
【乃貢】			

【丹心】			
碎○○而營佛事。還類常啼菩薩之售身。	23-6(2)		
白業年深。○○日積。	29-6(7)		
【丹青】			
盡○○於一心之中。成粉墨於期年之內。	41-12(15)		
是以表信○○。奉圖繪胎藏金剛兩部曼荼羅各一鋪。	49-3(23)		
筆墨初點。○○未畢。	51-3(25)		
【丹墀】			
仰而戀恩者。寧非○○之舊臣。	42-9(16)		
→ (愚○)			
【湛】			
【湛水】			
佛心○○。智惠之海無涯。	28-14(7)		
【嘆】			
忽遇蘭房之永凋。酷○善苗之不熟。	40-8(14)		
→ (讚○)			
【歎】			
閑計寶筭之盈數。獨○喜懼之交壞。	45-3(19)		
昔當正法多智行人之間。猶有離若斯人之○。	52-11(27)		
【端】			
【端木】			
彼○○者魯之賢士也。移家於孔子之墓傍。	25-13(4)		
【瞻】			
翫然聊露○於三寶。兼解嘲於衆人。	34-11(12)		
→ (越○)			
ダン			
【暖】			
此山之叢中。縱有寒草依造塔力可○。	27-5(5)		
【緩】			
○寒木於大智之日。淚變蒼栢之煙。	26-2(4)		
【彈】			
娑婆假使出鳩鳴之城○右指。	40-9(14)		
【彈指】			
合眼憂悲。○○嚔咳。	30-7(8)		
【檀】			
【檀邦】			
蓋○○善女人之願也。	28-7(6)		
→ (梅○)			
【斷】			
此界得益之緣早○。定歸本覺之月。	52-15(27)		
【斷惡】			
○○修善。離暗得樂。	28-10(6)		
【斷腸】			
虛弓倚壁。向曉月而○○。	51-12(26)		
→ (東○)			
チ			
【地】			
夫雲林院者。松筠有心之○。	23-11(3)		
仰願。多寶如來從○涌出。	30-11(8)		
今上每春臨幸之○。釐路之草初繁。	42-10(16)		
彼金谷醉花之○。花每春勻而主不歸。	49-1(23)		
【地下】			
後世亦○○拔苦。往生極樂之樂。	27-7(5)		
【地祇】			
以廻向天衆○○三界四恩。	23-5(2)		
天神○○之不同。共向惠日。	24-3(3)		
天神○○。及茲幽靈善神。	26-1(4)		
天神○○。向惠日而增光。	27-7(5)		
天神○○。增威光以隨喜。	29-10(7)		
→ (阿鼻○・照○・心○・天○)			
【池】			
欲開九品於西極樂之○。	47-9(21)		
【池上】			
仰願。功德○○。結妙果於開示之蓮。	50-7(24)		
【池堤】			
柳眼無情。空添啼粧於○○之暮雨。	42-11(16)		
【池畔】			
張芝○○。松煙非深。	41-10(15)		
→ (法龍○・鷲○)			
【知】			
【知恩】			
○○追孝之輩。誰不走使之供養者乎。	49-6(23)		
【知見】			
仰願。諸佛○○證明。	23-6(2)		
證明恩波之無岸。○○聖德之有隣。	30-12(8)		
仰願。諸佛○○證明。	44-11(18)		
如來薩埵。○○證明。	49-9(23)		
→ (善○識・定○・無○)			
【治】			
【治術】			
國雖衰。少○○。	22-14(2)		
【致】			
【致誠】			
其積功累德。○○專心者。	34-6(12)		
【智】			
鶖子無雙之○。振英聲於暮春之風。	29-8(7)		
【智惠】			
苟有香緣。○○之花自開。	22-15(2)		
佛心湛水。○○之海無涯。	28-14(7)		
○○是炬。照群迷於昏衢。	30-3(8)		
一切衆生。悉潤○○之雨。	31-12(10)		

【智劍】 非揮○○。何剪稠林。 30-11(8)	【冲遊】 佛法之○○。不可得而稱者也。 24-9(4)
【智行】 昔當正法多○○人之間。 52-11(27)	【虫】 【虫響】 荒砌尋聲○○。非前年之聽。 41-15(15)
今臨末法少○○人之時。 52-11(27)	→ (魚○)
【智水】 受五部法。新瀉○○於瓶中。 42-7(16)	【忠】 【忠節】 文官武官。共勸吹塵橫草之○○。 29-12(7)
【智峯】 聚龍象以弘○○。譏羊太傅之絕胤。 25-14(4)	【稠】 【稠林】 非揮智劍。何剪○○。 30-11(8)
→ (大○)	有習怨盡。應謝○○。 32-11(10)
【馳】 【馳來】 於是四十九日。自以○○。 52-12(27)	【駐】 【駐老】 母儀之砌。蛇齒獻○○之方。 32-12(10)
チク	【繁】 【繁囚】 彼鍾儀之遇○○也。尚奏楚樂。 34-14(12)
【竹】 【竹簡】 方今芸閣塵深。○○幾千卷。 50-14(25)	【鑄】 【鑄出】 故瑩白銀○○滿月之容。 45-6(19)
【竹馬】 弟子自○○鳩車。至而立強仕。 24-9(4)	チヨ
→ (絲○)	【著】 【著緋】 昔弱冠○○之時。從先考大相國。 24-10(4)
【逐】 【逐電】 幡影乍翻。○○增果。 49-12(23)	【儲】 曾無一鉢之○。唯唱十方之志。 32-4(10)
【逐年】 抑空也齡○○暮。身與雲浮。 32-2(10)	チヨウ
チュウ	【長】 【長安】 ○○洛陽。氣賤上下。 32-4(10)
【中】 【中間】 恨止其○○。空欲歸三惡。 28-4(6)	【長遠】 壽命○○。無有橫死。 26-10(5)
【中宮】 且尋上皇之叡襟。且奉○○之令旨。 40-11(14)	【長秋】 鶴勒有一之才。傳義寶於○○之聽。 29-8(7)
【中志】 今日一念。於是而盡。唯願大悲導此○○。 47-10(21)	【長秋宮】 ○○○之月非不潔。宿望偏在三明。 46-3(20)
【中天竺】 願次詣○○○。欲禮釋迦之遺跡。 34-4(12)	【長生】 仙殿新成。雖恨○○之虛名。 43-7(17)
【中夜】 豈圖二月十二日○○。機緣薪滅。 42-8(16)	【長轉】 芥城縱盡。不退之輪○○。 26-3(4)
【中有】 定知不經○○。直至西方。 46-10(20)	【長途】 又有赴○○者。投咫尺以不留。必屈千里焉。 34-5(12)
他方利生之化相催。豈留○○之風。 52-15(27)	【長年】
→ (暗○・海○・胸○・市○・心○・人○・窓○・叢○・病○・瓶○・林○)	
【冲】 【冲襟】 尋○○於舊日。畢繕寫於今朝。 41-10(15)	

今〇〇丞相之勤。璧玉範金。 → (增〇・大〇者)	27-9(5)	〇〇天下。興隆佛法。 【澄波】	23-5(2)
【凋】		黄河〇〇。再計五百之歲。	24-4(3)
忽遇蘭房之永〇。酷嘆善苗之不熟。 → (不〇)	40-8(14)	【寵】	
【帳】		況〇深者思又深。榮甚者畏又甚。 → (恩〇)	49-2(23)
紅葉亂飛。暗成千花錦繡之〇。	25-10(4)	【聽】	
【張】		鶴勒有一之才。傳義實於長秋之〇。	29-8(7)
【張芝】		荒砌尋聲虫響。非前年之〇。	41-15(15)
〇〇池畔。松煙非深。	41-10(15)	【聽聞】	
【張本】		是故〇〇受持者。書寫供養者。	29-1(7)
皆以今日之善根。將爲來世之〇〇。 → (辨〇)	33-14(11)	→ (視〇)	
【頂】		チン	
【頂上】		【枕】	
誦一乘經。全護寶珠於〇〇。 → (紺〇・有〇・有〇天)	42-7(16)	鴛鴦食空。向舊〇而濕袂。 → (舊〇・玉〇)	50-4(24)
【鳥】		【珍】	
白雲青雲之低昂。迎遊塔之〇	26-13(5)	【珍膳】	
蓮華世界之〇。嚀妙法之音。	29-9(7)	春往秋來。所視者〇〇之甘苦。	45-3(19)
苦空傳音。如聞命命之〇。	32-10(10)	→ (七〇)	
【鳥獸】		ツイ	
〇〇哀聲。況於虎闕鳳闕乎。 → (越〇・溪〇・谿〇・百〇)	44-9(18)	【追】	
【朝】		【追憶】	
山嵐〇掃庭。溪月夜舉燭而已。	25-5(4)	妾〇〇平昔。莫不銷魂。	51-11(26)
月殘露結之〇。折籬花以供佛界。	31-6(9)	【追悔】	
椒房花〇。蘭殿雪夜。	45-2(19)	〇〇前生。造何惡業。	47-6(21)
何〇何夕。再逢翠螿之歸時。	45-8(19)	【追孝】	
一事一言。于〇于暮。	50-2(24)	知恩〇〇之輩。誰不走使之供養者乎。	49-7(23)
【朝野】		【追思】	
〇〇卷霧。皆戴三光野精明。	24-3(3)	抑〇〇往事。觸類銷魂。	44-8(18)
【朝露】		〇〇往事。良可化人。	46-7(20)
抑〇〇易滅。春夢非長。	29-2(7)	【追從】	
〇〇易消。暮雲難繫。	35-9(12)	新舊皆議〇〇於禪門之雲。	44-3(18)
燈下告別。長失〇〇之光。 → (花〇・今〇・聖〇・唐〇・本〇・用〇)	47-3(21)	【追尋】	
【超】		〇〇往事。不忘者有。	30-4(8)
【超衆】		【追福】	
才名〇〇。修學命世。	34-10(12)	唯是充身後之〇〇而已。	31-5(9)
【登】		ツウ	
【登興】		【痛】	
松栢有心之地。佛法〇〇之場也。	26-6(5)	豈不哀哉。豈不〇哉。	34-7(12)
【澄】		〇矣一夕相離。老淚已且四十餘日。	48-4(22)
【澄月】		テイ	
無去無來。紺頂之影〇〇。	30-4(8)	【低】	
【澄清】			

【低頭】			
豈圖隨有隨無。○○以纒供給。	23-1(2)		
○○舉手。懺悔過去之罪業。	33-11(11)		
【低昂】			
白雲青雲之○○。迎遊塔之鳥。	26-13(5)		
【定】			
然則去留難○。變改難期。	35-9(12)		
眞如○是把孔雀之尾掃宮牆。	40-10(14)		
昇霞以來。○到無上法王之位。	42-13(16)		
佗界衆生。○飲大悲之乳海。	43-8(17)		
眞如新飭。○現萬字於胸前。	45-10(19)		
佛願有罪無罪。○救我兒。	48-9(22)		
西方極樂。○登九品之蓮臺。	51-14(26)		
此界得益之緣早斷。○歸本覺之月。	52-15(27)		
【定惠】			
身田迎夏。○○之水浮光。	30-11(8)		
【定星】			
刻十月○○之期。廻萬代不朽之計。	25-7(4)		
【定知】			
○○表我朝無人也。	34-10(12)		
○○貪憐圓明之覺花。	39-7(13)		
○○眞如宮裏。三明之月更朗。	40-5(14)		
○○不經中有。直至西方。	46-10(20)		
→ (禪○・不○)			
【底】			
錫杖香爐。或出從鳳凰谷之○。	27-1(5)		
猶恐九泉之○。永纏寒冰。	30-6(8)		
→ (耳○)			
【亭】			
【亭午】			
圓融○○。寂滅平西。	33-4(11)		
→ (峴○)			
【剃】			
續○鬢髮以入道。新菑皆議追從於禪門之雲。	44-3(18)		
【帝】			
【帝位】			
我聖靈陛下。七歲即○○。	44-1(18)		
【帝範】			
筆削律令。興佛法詳○○。	25-1(4)		
→ (孝文皇○・舜○・飛○)			
【庭】			
【庭樹】			
鶯舌無職。猶奏怨曲於○○之曉風。	42-11(16)		
→ (掖○・腋○・椒○・掃○・殿○・佛○)			
【涕】			
【涕川】			
慈海已竭。共溺戀恩之○○。	40-4(14)		
【涕淚】			
弟子○○流而無從。迷倒雲漢於眼下。	52-5(27)		
(押○・垂○)			
【鼎】			
【鼎湖】			
○○隔雲。漏水屢滴。	40-4(14)		
洞月曉到。空瞻望於○○之雲。	43-6(17)		
→ (鐘○・沸○)			
【啼】			
【啼眼】			
今冬○○寒。冰承眦而無乾。	47-5(21)		
【啼粧】			
柳眼無情。空添○○於池堤之暮雨。	42-11(16)		
→ (常○菩薩・常○大士)			
【堤】			
青草敷煙之○。宛如鷺嶺。	32-8(10)		
→ (池堤)			
【提】			
【提河】			
金言流布。知○○之有金。	25-10(4)		
→ (樹○・跋○・跋○河・善○・善○樹・善○心・善○道 樹)			
テキ			
【滴】			
鼎湖隔雲。漏水屢○。	40-4(14)		
デキ			
【溺】			
慈海已竭。共○戀恩之涕川。	40-4(14)		
テツ			
【鐵】			
【鐵圍】			
乃至有頂阿鼻。○○沙界。	52-15(27)		
テン			
【天】			
是○之工也。是神之福也。	22-4(1)		
佛子不知○加慈母數年。	35-7(12)		
不及古人之喻。猶不可○之階矣。	34-10(12)		
夫○不爲世之貪生而輟其死。	47-13(22)		
○之與善。從茲難信。	51-11(26)		
【天下】			
澄清○○。興隆佛法。	23-5(2)		
天上○○。妙覺之理獨圓。	24-8(4)		
○○安穩。萬民快樂。	25-16(4)		

現世則○○太平。理世安樂之樂。	27-6(5)	【轉】	
今上陛下之姉。於○○不亦賤。	46-6(20)	【轉輪】	
受其法施。植其良因者。大半於○○矣。	52-9(27)	一乘○○。非無退亦住之輩。	29-6(7)
【天官】		→ (宛○・恒○・長○・流○)	
○○依勅而輸錢帛。舊院有議以營佛經。	42-11(16)	【顯】	
【天工】		【顯沛】	
彼大王之力也。五尺猶假○○。	33-9(11)	造次○○。必一乘。	24-14(4)
【天使】		【嶺】	
○○相望於路。醫人多盡其方。	42-8(16)	爰雲衲霞袂。或來自靈鷲山之○。	27-1(5)
於是○○相望雲泥之間。	48-2(22)		
【天衆】		デン	
以廻向○○地祇三界四恩。	23-5(2)	【傳】	
聲聲調樂。欲備○○之降臨。	40-7(14)	傳教大師	
【天上】		自宗者弘法大師。天台者○○○○。	34-9(12)
爲除憂苦。喻之○○莫著之藥。	23-2(2)	【傳聞】	
○○天下。妙覺之理獨圓。	24-8(4)	○○。大般若者。釋迦如來成道二十年之後。	23-1(2)
○○之樂。終爲五衰之悲。	46-1(20)	→ (相○・流○)	
努力莫爲人中之雲雨。自愛不受○○之快樂。	48-7(22)	【殿】	
【天人】		【殿庭】	
精歎之誠。○○湛梅檀之水。	32-8(10)	○○之儀不改。所欠只一人慈悲之昔容。	44-7(18)
花雨不知○○之所供獻。	44-7(18)	→ (金○・月○・仙○・蘭○)	
樂盡哀來。○○猶逢五衰之日。	49-15(24)	【電】	
【天人師】		【電泡】	
排月窓以仰○○○於其際。	49-4(23)	娑婆○○之國。誰免無常之悲。	41-5(15)
【天神】		→ (逐○)	
以其○○爲文道之祖。詩境之主也。	22-5(1)	ト	
○○地祇之不同。共向惠日。	24-3(3)	【斗】	
○○地祇。及茲山幽靈善神。	26-1(4)	【斗蔽】	
○○地祇。向惠日而增光。	27-7(5)	爲是○○也。爲是菩提也。	34-12(12)
○○地祇。增威光以隨喜。	29-10(7)	【兎】	
【天台】		【兎園】	
自宗者弘法大師。○○者傳教大師。	34-9(12)	蘭殿椒房。鶴禁○○。	32-12(10)
【天地】		【徒】	
可謂○○和合。風雨不違。	25-8(4)	東山捍命之○。陣雲漫起。	30-5(8)
【天命】		○爲東岱之暗魂。北芒之朽骨。	31-2(9)
若適有○○。得到唐朝。	34-13(12)	是娑婆世界衆生。○累火血刀之業因焉。	33-5(11)
→ (承○・中○竺・切利○・沸○・有頂○)		【徒衆】	
【展】		○○及教法。如今日世尊。	33-13(11)
【展筵】		【屠】	
八講○○。四日設會。	29-8(7)	心肝○而不靜。如吞風胡於胸中。	52-6(27)
【添】		【渡】	
【添灯】		【渡海】	
四種花雨。舊荷之露○○。	33-11(11)	齋然天祿以降。有心○○。	34-2(12)
【點】		○○登山。忍寒忘苦。	34-7(12)
【點莓】		【登】	
意樹送春。解脫之枝○○。	30-11(8)	【登覺】	
→ (指○・分○)			

三五月下。○○之行暗催。	40-2(14)	殊於王舍城之○○。假立佛世尊之月殿。	32-6(10)
○○之路欲越。脫去春官及第之袍。	51-1(25)	【東閣】	
滅罪○○之謀。豈其不熟。	51-4(25)	供佛施僧之資貯。專任○○之芳意。	52-13(27)
【登山】		【東山】	
登海○○。忍寒忘苦。	34-7(12)	○○捍命之徒。陣雲漫起。	30-5(8)
【圖】		【東岱】	
我等不○○。今日奉見靈山釋迦。	33-12(11)	徒爲○○之暗魂。北芒之朽骨。	31-2(9)
故○金人以爲使。將通音信而無便。	48-4(22)	荒原古今之骨。○○先後之魂。	32-14(10)
【圖繪】		【東斷】	
故今○○尊像。繕寫寶典。	30-8(8)	何臨夕陽之西傾。忽逢慈雲之○○。	41-8(15)
所以○○此佛像者。	35-6(12)	【逃】	
奉○○法華曼荼羅一摸。	48-5(22)	【逃塵】	
奉○○胎藏金剛兩部曼荼羅各一鋪。	49-3(23)	拋羅圖而○○。比萬乘於脫履。	39-3(13)
菩提之飾。隨分欲訪。奉○○云々。	51-13(26)	【逃名】	
→(何○・豈○・受○・羅○)		聖體不豫。初謝璽劍以○○。	44-3(18)
下		【唐】	
【土】		【唐太宗】	
近塔之○。變爲黃金。	27-3(5)	○○○之設齋會。迎亡卒於菩提之門。	30-10(8)
又不知母者在此○而空亡。	35-8(12)	【唐朝】	
→(郷○・國○・淨○・率○・佛○・本○)		若適有天命。得到○○。	34-13(12)
【努】		自○○還吾土。再見母面。	35-7(12)
【努力】		→(巨○・入○)	
所生功德。消滅黑業。○○莫爲人中之雲雨。	48-7(22)	【桃】	
【度】		【桃梨】	
【度脫】		○○無衰色。桑榆非斜暉。	46-6(20)
云佛云經。計微塵劫以○○。	28-9(6)	去年初促二八迴之○○。得列八十餘之綺羅。	47-14(22)
→(濟○・每○・滅○・六○)		→(紅○)	
【怒】		【桐】	
無怨無○。無喜無辱。	28-2(6)	【桐鄉】	
トウ		昔朱邑之歸邑里也。有懷○○之民。	31-5(9)
【刀】		【兜】	
是娑婆世界衆生。徒累火血○之業因焉。	33-5(11)	【兜率】	
【切】		上征○○。西遇彌陀。	26-3(4)
【切利】		【陶】	
昔釋迦普逝。爲報摩耶之恩昇○○而說法。	41-9(15)	【陶冶】	
【切利天】		五蘊六根。雖陰陽之○○。	31-13(10)
昔○○之安居九十日。刻赤梅檀而摸尊容。	33-8(11)	【塔】	
【切利天宮】		夫近○之石。變爲美玉。	27-3(5)
○○○○之園。含歡喜之號。	29-9(7)	近○之土。變爲黃金。	27-3(5)
【投】		古之○瓦文。有萬歲千秋樂未央之七字。	27-6(5)
【投茲】		【塔下】	
去而不返。槿離無○○之花。	31-1(9)	過○○之走獸。免煩惱之箭。	27-4(5)
【東】		【塔上】	
有虞舜帝之德。風悲玉山之○。	43-4(17)	度○○之飛禽。避結使之羅。	27-3(5)
【東河】		【塔婆】	
		其所無者。○○而已。	23-12(3)
		唯其所無者。○○而已。	26-10(5)

→ (𦵱○・譏○・造○・多寶○・寶○・遊○)		此院○○鐘樓。皆悉具足。	23-11(3)
【棹】		【堂上】	
龍頭釣首之舟。○穿秋水。	32-9(10)	○○有齡傾之老母。泣後事於松門之煙。	52-6(27)
【湯】		→ (慈○)	
【湯藥】		【童】	
○○之中。此志彌切。	51-1(25)	【童子】	
【當】		昔幼日○○之戲。聚沙施石。	27-9(5)
【當今】		→ (雪山○○)	
興隆之思。猶切○○。	23-11(3)	【道】	
花雨四種。彌韌欲決疑於○○。	28-14(7)	塵翳奇身。恐滯成佛之○。	29-4(7)
→ (現○)		金輪千幅。○被飛帝之先。	32-11(10)
【蠟】		何況○云俗云。誹謗虛胡者。已千萬人。	34-8(12)
【蠟幡】		出世契深。遂赴菩提之○。	41-7(15)
寶蓋○○。名衣上服。	25-9(4)	【道儀】	
【恣】		○○照地。九億之人皆來。	27-1(5)
垂老猶○。仕而用朝者。亦誰愛之暗通。	48-14(23)	【道具】	
【蕩】		法器○○。各各并張。	22-15(2)
○妄想於眞如。捨七寶以敬三寶。	44-1(18)	【道場】	
【燈】		豈唯果報之殊勝乎。兼復○○之莊嚴也。	23-12(3)
【燈下】		入此○○。證明功德。	26-1(4)
○○告別。長失朝露之光。	47-3(21)	○○之體漸具其下。成聚成邑。	26-9(5)
獨作○○伴影之身。猶添窓中戀古之恨。	50-4(24)	目雖暗有足。得至○○。	28-1(6)
→ (添○・燃○・萬○會)		貞元之歲。無畏○○。	31-3(9)
ドウ		仍於圓覺○○。奉供養佛經。	39-2(13)
【同】		便於法性寺○○。敬奉供養。	47-8(21)
懷古感今。異處○趣。	29-10(7)	便於法性寺○○。敬開講肆。	50-6(24)
在今尋古。世異趣○。	30-10(8)	便於仙遊○○。敬展講筵。	51-4(25)
○應方赤。共期圓明。	31-7(9)	【道場觀】	
其趣雖異。其志猶○。	41-9(15)	發菩提心。凝○○○。	24-14(4)
今之所講。趣異誠○。	45-9(19)	見露盤之耀日。○○○之胷已開。	26-13(5)
【同音】		爰發菩提心。凝○○○。	49-4(23)
異口○○。讚嘆如來之相好。	33-11(11)	→ (求○・神○・成○・入○・貧○・佛○・文○・菩提○ 樹・六○)	
【同胞】		トク	
問此巖頭。亦瘞○○兄弟之芳骨。	25-4(4)	【得】	
【同門】		【得益】	
光陰隔歲。憂喜○○。	51-5(25)	此界○○之緣早斷。定歸本覺之月。	52-14(27)
→ (相○・不○)		【得果】	
【洞】		是以爲四恩六道成佛○○故。	31-14(10)
境離罽塵。○留教迹。	49-8(23)	【得樂】	
○月曉到。空瞻望於鼎湖之雲。	43-6(17)	斷惡修善。離苦○○。	28-10(6)
【洞簫】		→ (觀音○大)	
○○羌笛之管。曲涕晴天。	32-9(10)	【徳】	
→ (春○・蓬萊○)		爲飭上皇之○。留闕浮而設齋。	41-9(15)
【堂】		莫不臣妾感其恩。華夷歸其○。	42-6(16)
老母在○。行年六十。	34-16(12)	有虞舜帝之○。風悲玉山之東。	43-4(17)
【堂舍】			

【德化】		
〇〇光於古今。福惠被於幽顯。	44-2(18)	
【德澤】		
弟子雖思温樹之不語。難忍〇〇之有餘。	48-1(22)	
【德本】		
此外傍親列祖之善根〇〇。	25-3(4)	
→ (恩〇・玉〇・功〇・四〇・旌〇・聖〇・碩〇・累〇)		
ドク		
【毒】		
【毒焰】		
去夏哀情〇〇。在宵而未滅。	47-4(21)	
【毒藥】		
是人一生不爲一切〇〇所中。	26-10(5)	
【毒龍】		
摩耶入夢。〇〇遺吸珠之悲。	40-1(14)	
【獨】		
閑計寶筭之盈數。〇歎喜懼之交懷。	45-3(19)	
〇作燈下半影之身。猶添窓中戀古之恨。	50-4(24)	
臺上留絲竹。音曲盡而風〇悲。	51-12(26)	
【獨圓】		
天上天下。妙覺之理〇〇。	24-8(4)	
【獨勝】		
山城〇〇。有便於弘一乘。	25-11(4)	
【獨善】		
不好〇〇企兼濟。不忘敬始願善終。	24-9(4)	
トン		
【遁】		
【遁世】		
聖靈〇〇之初十九。釋尊蓋乃二十九。	43-5(17)	
何其〇〇之太疾乎。	46-7(20)	
ドン		
【吞】		
【吞悲】		
豈圖更引遺孤。〇〇而經營今日之事。	44-10(18)	
【食】		
縱歸何敢〇職任。爲是斗數也。	34-12(12)	
【食欲】		
國雖衰。少治術。少〇〇。	22-14(2)	
【食憐】		
定知〇〇圓明之覺花。豈敢往還煩惱之火宅。	39-7(13)	
【曇】		
【曇無比丘】		
〇〇〇〇之傳法水。遍廻六度之舟。	32-5(10)	
→ (優〇・優〇花)		

ナ

【奈】		
【奈苑】		
或降自雪嶺香山。或至自菴園〇〇。	32-7(10)	
【奈何】		
哀哉哀哉。〇〇〇〇。	43-6(17)	
又欲其〇此五障〇。欲其〇彼五衰〇。	48-7(22)	
今若默而止。其〇後悔〇。	49-2(23)	
【捺】		
【捺落】		
眞如〇〇。在善惡之因緣。	31-13(10)	

ナイ

【内】		
【内典】		
〇〇云。若人作樂。供養三寶。所得功德。無量無邊。不可思議。	23-14(3)	
→ (五〇・入〇)		
〈なお=猶→ユウ〉		

ナン

【南】		
【南海】		
〇〇亂常之族。逆浪不閑。	30-5(8)	
【南岳大師】		
思其昇霞。亦同〇〇〇〇臨終之日。	44-5(18)	
【南嶽】		
花香梵唄之莊嚴。亦在〇〇之光儀。	52-14(27)	
【南枝】		
胡馬非北風不嘶。越鳥非〇〇不巢。	34-15(12)	
【南部】		
不越〇〇。便睹西方。	28-10(6)	
【南無垢】		
已證三明於〇〇〇之界。	47-9(21)	
【南面】		
是以鶴板頻馳。延講席於旒辰之〇〇。	52-9(27)	
【南樓】		
〇〇甌月之人。月與秋期而身何去。	49-1(23)	
→ (指〇)		
【難】		
【難解】		
希有〇〇之法。可期其佛身。	22-6(1)	
〇〇難入之門排扇。開悟不測。	29-1(7)	

〇〇難入。白蓮之種貫花。	30-3(8)	續剃髮以〇〇。新舊皆識追從於禪門之雲。	44-3(18)
【難繫】		去月十九日。～終以〇〇焉。	46-5(20)
朝露易消。暮雲〇〇。	35-9(12)	〇〇之後。遂以掩眼。	51-2(25)
【難陀】		【入内】	
香則求〇〇此岸之煙。花則擎樹提後園之萼。	50-7(24)	公主春秋十有五初〇〇。	46-2(20)
【難入】		漢宮〇〇之夜。傍花鬢而成歡。	47-4(21)
難解〇〇之門排扇。開悟不測。	29-1(7)	【入滅】	
難解〇〇。白蓮之種貫花。	30-3(8)	六月廿二日。遂以〇〇。	44-4(18)
【難忍】		今年五月忽以〇〇矣。	46-2(20)
弟子雖思温樹之不語。〇〇德澤之有餘。	48-1(22)	→(難〇)	
一心之〇〇。猶迷哀慟之自然者也。	52-4(27)	【柔】	
→(八〇)		【柔和】	
ニ		〇〇凜性。婉順在心。	50-1(24)
【二】		【乳】	
【二恩】		【乳海】	
向彼松下。則破〇〇父母之廟壇。	25-4(4)	佗界衆生。定飲大悲之〇〇。	43-8(17)
幼少失兩眼。十餘隔〇〇。	27-14(6)	ニヨ	
【二三】		《如→ジョ》	
勸誘相從者。纒〇〇輩。	34-9(12)	ニン	
【二十九】		《人→ジン》	
聖靈遁世之初十九。釋尊蓋乃〇〇。	43-5(17)	【仁】	
【二十年】		【仁王】	
釋迦如來。成道〇〇〇之後。	23-1(2)	不聞于今〇〇垂哀憐。不知又我老身忘寢食。	48-5(22)
【二親】		【仁恩】	
如遇過去之〇〇。振肝葉而歡喜。	26-14(5)	四海皆戀〇〇。最深者渭陽嗚咽之曉浪。	44-4(18)
【二千年】		【仁山】	
今跋提河之滅度〇〇〇。瑩紫磨金而禮兩足。	33-9(11)	方今〇〇長崩。群居無主之荒砌。	40-3(14)
【二八】		【仁祠】	
蕙心春淺。未及〇〇之齡。	47-1(21)	況隋高祖之建〇〇。變戰場於頰梨之關。	30-9(8)
去年初促〇〇廻之桃梁。得列八十餘之綺羅。	47-14(22)	【任】	
→(三十〇・八萬十〇・百〇十・無〇)		年三十極人臣之位。十一年忝王佐之〇。	24-13(4)
【尼】		【任限】	
【尼連禪河】		我願已滿。〇〇亦滿。	23-7(2)
〇〇〇〇之水音。空咽跋提之淚浪。	52-3(27)	【任秩】	
→(釋迦牟〇・摩〇珠)		不能供養此經。亦不能遂〇〇。	22-12(2)
《ニチ=日→ジツ》		→(尊〇)	
ニュウ		【忍】	
【入】		一心之難〇。猶迷哀慟之自然者也。	52-4(27)
【入唐】		【忍寒】	
〇〇間待商賈之客而得渡。	34-3(12)	渡海登山。〇〇忘苦。	34-7(12)
凡〇〇求法之人。自宗者弘法大師。	34-9(12)	【忍辱】	
【入道】			
落雲鬢而〇〇。尋三明於方袍。	39-4(13)		

大師織〇〇以爲薛衣之領袖。 → (難〇)	52-7(27)	ハ	
ネ		【波】	
【涅】		【波旬】	
[涅槃]		七寶池中。破〇〇以登覺路。	42-13(16)
〇〇山上。釋尊之日早歲。	28-3(6)	→ (恩〇・禪〇・蒼〇・澄〇)	
先於沙羅林之〇〇三日。應化月空。	42-9(16)	【破】	
ネイ		【破暗】	
【寧】		衆生〇〇。此焉明矣。	33-5(11)
[寧非]		非假大日遍照之光。何成黑夜〇〇之計。	50-5(24)
誠勸我之佛道。〇〇我之慈堂乎。	35-3(12)	【頗】	
仰而戀恩者。〇〇丹墀之舊臣。	42-9(16)	【頗梨】	
便是綺窓瞑目之時。〇〇蓮臺結跏之日。	46-10(20)	況隋高祖之建仁祠。變戰場於〇〇之閣。	30-10(8)
ネン		【翫】	
【年】		【翫陵】	
白業〇深。丹心日積。	29-6(7)	院花春暮。只夙夜於〇〇之松。	43-6(17)
從少齡之日。及大位之〇。	42-6(16)	バ	
計其御寓。則過孝文帝理世之〇。	44-5(18)	【婆】	
【年少】		[娑婆]	
室內多〇〇之遺弟。失前途於荆谿之雲。	52-6(27)	垂柳〇〇之態。難及轉腰。	23-15(3)
→ (一〇・延〇・往〇・期〇・去〇・行〇・四十〇・前〇 ・壯〇・逐〇・長〇・二十〇・八十〇・百〇・暮〇・餘 〇・累〇)		【娑婆聞】	
【念】		昔一〇〇〇之展齋筵。廣勤三明之炬。	32-5(10)
爾時不覺淚下。竊作斯〇。	24-11(4)	→ (娑〇・率都〇・塔〇)	
目雖暗有意。得〇極樂。	28-1(6)	ハイ	
是以感淚暗催。心作此〇。	33-7(11)	【背】	
晨昏所誦者提婆品。造次所〇者彌陀尊。	46-4(20)	【背世】	
常〇西日影斜。付後事於吾子。	50-13(25)	一旦〇〇之憂。已殘心地之焰。	50-3(24)
【念佛】		夏期受病。秋初〇〇。	50-13(25)
寤寐〇〇。唯善是勸。	51-10(26)	【拜】	
→ (一〇・叡〇・觀〇・十〇・常〇・專〇)		【拜貌】	
【燃】		不材之所企。造普賢而爲刻木〇〇之志。	25-6(4)
【燃燈】		愚丹或欲刻木以〇〇。	48-15(23)
保寶珠於醉後。照〇〇於暗中。	29-1(7)	【排】	
ノウ		〇月窻以仰天人師於其際。	49-4(23)
【能】		【排高】	
【能事】		難解難入之門〇〇。開悟不測。	29-1(7)
令衆生得見佛開法之便。一二年來〇〇畢矣。	33-8(11)	【輩】	
【能仁】		一乘轉輪。非無退亦往之〇。	29-6(7)
斯乃所以〇〇秘一音而待時。	49-6(23)	欲海愛河。流轉之〇不定。	30-13(8)
→ (功〇)		白足青眼之〇。鑠腹乘杯之人。	32-7(10)
		勸誘相從者。纒二三〇。	34-9(12)
		知恩追孝之〇。誰不走使之供養者乎。	49-7(23)
		バイ	
		【貝】	

【貝葉】				
造塔善根。流傳○○。	23-12(3)			
【陪】				
【陪侍】				
雖近習舊勞之僕妾。不能○○。	25-5(4)			
【賈】				
【賈身】				
市中○○。雖在我願。	32-1(10)			
ハク				
【白】				
【白雲】				
○○青雲之低昂。迎遊塔之鳥。	26-13(5)			
【白牛】				
何善能通。仰○○之引導。	29-5(7)			
【白業】				
○○年深。丹心日積。	29-6(7)			
【白銀】				
故瑩○○鑄出滿月之容。研黃金寫成貫花之偈。	45-6(19)			
【白雞】				
自彼○○驚睡。九原之駕不歸	50-3(24)			
【白毫】				
何謀能救。憑○○之照明。	29-5(7)			
【白象】				
駕六牙之○○。證明無愆。	24-2(3)			
【白刃】				
或伏○○而係首。或迷蒼波而亂骸。	30-6(8)			
【白足】				
○○青眼之輩。鏤腹乘杯之人。	32-7(10)			
【白蓮】				
嚙朽壞於甘露之泉。手播○○之種。	26-2(4)			
難解難入。○○之種貫花。	30-3(8)			
【白浪】				
○○咽石之岸。相同驚池。	32-8(10)			
【薄】				
【薄氷】				
訓俗少術。踐○○於深淵。	30-4(8)			
【薄棒】				
割○○而飭神威。只恃熱田權現之垂跡。	23-6(2)			
バク				
【莫】				
當國之事。○先於大般若會。	22-12(2)			
悲之又悲。○悲於老後子。	50-12(25)			
恨而更恨。○恨於少先親。	50-12(25)			
【莫奢】				
爲除憂苦。譬之天上○○之藥。	23-2(2)			
【莫不】				
耳目所觸。○○催淚。	41-15(15)			
○○臣妾感其恩。華夷歸其德。	42-6(16)			
各皆輸誠勵行。○○染風浴恩。	44-2(18)			
觸物之感。○○催悲。	45-9(19)			
玄鬢翠蛾。○○洛川之麗質。	46-3(20)			
乃至六趣四生。○○引接。	48-10(22)			
妾追憶平昔。○○銷魂。	51-11(26)			
ハチ				
【八】				
【八音】				
悅五層之漸成。整○○而期會。	40-7(14)			
【八講】				
○○展筵。四日設會。	29-8(7)			
【八十】				
釋尊唱滅之期○○。聖靈纔是四十一。	43-5(17)			
【八十年】				
姑射山之上。送○○○之春風。	39-4(13)			
【八十餘】				
去年初促二八廻之桃李。得列○○○之綺羅。	47-14(22)			
【八正】				
乃知○○分源。斷疑網於愛海。	44-15(19)			
【八難】				
動五逆四重之辜。免三惡○○之苦。	32-14(10)			
【八風】				
孟冬上旬之初日兮。忽驚○○之變。	52-5(27)			
【八萬四千】				
○○○○之相。秋月滿而高懸。	42-5(16)			
【八萬十二】				
沉○○○○之校量。誰敢知深淺。	41-12(15)			
【八葉】				
仍奉續○○九尊曼荼羅一鋪。	50-6(24)			
→ (四○相・二○)				
【鉢】				
【鉢羅樹】				
何疑○○○下。開葉臂而轉妙輪。	42-13(16)			
→ (一○・優○羅)				
ハツ				
【發】				
【發因】				
凡厥○○起緣。或順或逆。	33-14(11)			
【發願】				
仍心中○○之後。新結構多寶塔一基。	23-13(3)			
【發心】				
雖未○○。已是菩薩矣。	33-7(11)			

○○作願曰。願我成佛時。	33-13(10)	【般若】	功能出於○○。饒益傳於具縛。	28-5(6)
【發露】		【煩】		
意藥○○。無上之果欲求。	32-3(10)	【煩惱】		
バツ		過塔下之走獸。免○○之箭。	27-4(5)	
【拔】		誠是生死海中大船師。○○病中大醫王也。	33-6(11)	
【拔苦】		定知貪憐圓明之覺花。豈敢往還○○之火宅。	39-7(13)	
後世亦地下○○。往生極樂之樂。	27-7(5)	故濟生願遠。已拂○○之萍。	41-7(15)	
【拔濟】		【煩】		
欲混勝利於怨親。以煩○○於平等。	30-9(8)	頌德被物。○十善於四瀆。	45-1(19)	
【跋】		【幡】		
【跋提】		【幡影】		
尼連禪河之水音。空咽○○之淚浪。	52-3(27)	○○乍翻。逐電增果。	49-12(23)	
【跋提河】		【幡蓋】		
今○○○之滅度二千年。瑩紫磨金而禮兩足。	33-9(11)	簾帷不改。○○惟新。	51-13(26)	
ハン		→(幡幡)		
【凡】		【攀】		
○十三基中。奉寫法華廿八品。諸眞言等。	28-7(6)	一准在世之御願。併○證果之良因。	41-16(15)	
○入唐求法之人。自宗者弘大師。	34-9(12)	【攀緣】		
○棄恩入無爲。眞實之報恩。	35-4(12)	心汚不必清淨。○○非無所慙。	27-2(5)	
【凡厥】		【範】		
○○發因起緣。或順或逆。	33-14(11)	【範金】		
○○六道親疎。四生大小。	41-15(15)	今長年丞相之勤。瑩玉○○。	27-9(5)	
○○一切衆生。普遊四種佛土。	42-14(16)	→(帝○)		
○○在位二十六年間。德化光於古今。	44-1(18)	バン		
○○視聽所觸。言辭無及者乎。	52-7(27)	【盤】		
【凡身】		承露之○。非秋日以永映。	23-13(3)	
況於○○乎。況於下界乎。	46-1(20)	→(露○)		
【凡聖】		【磐】		
誠乃四恩之不同。雖知○○之相隔。	52-4(27)	【磐石】		
【反】		在藩諸王。不改○○之固。	29-11(7)	
【反魂】		ヒ		
昔李夫人之○○。尚可勞方士。	48-3(22)	【比】		
【半】		拋羅圖而逃塵。○萬乘於脱屣。	39-3(13)	
【半行】		→(若○・千○丘・曇无○丘)		
○○半坐。累日累年。	24-1(3)	【彼】		
【半偈】		【彼岸】		
彼一句○○之功能。佛猶難筭數。	41-11(15)	○○引接之因。普濟三千界之塵數。	29-2(7)	
【半坐】		【非】		
半行○○。累日累年。	24-1(3)	昨日爲是。今日爲○。	35-9(12)	
半錢		【飛】		
○○所施。一粒所捨。	32-1(10)	【飛禽】		
【伴】		度塔上之○○。避結使之羅。	27-4(5)	
【伴影】		【飛帝】		
獨作燈下○○之身。猶添窓中戀古之恨。	50-4(24)	金輪千幅。道被○○之先。	32-11(10)	
【般】				

【飛文】 權實教之〇〇。垂曉露而分點。	41-11(15)	【微】	
【飛來】 疑是靈鷲山之乘五色雲以〇〇歟。	25-12(4)	【微官】 遂其大成。徙于〇〇。	22-4(1)
將亦自天〇〇歟。	26-13(5)	【微功】 若不心起一念。手成〇〇。	31-2(9)
【匪】		【微塵劫】 云佛云經。計〇〇〇以度脫。	28-8(6)
【匪石】 〇〇之所思。書妙法而代立碑旌德之文。	25-6(4)	【微微】 漸漸合力。〇〇成功。	32-1(10)
【悲】 〇哉我等衆生。進不遇釋尊。	28-3(6)	《彌→ミ》	
雖顯寂滅之理。有爲之〇難忘。	39-6(13)	ヒツ	
摩耶入夢。毒龍避吸珠之〇。	40-1(14)	【必】	
娑婆電泡之國。誰免無常之〇。	41-5(15)	【必滅】 生者〇〇。釋尊未免柩棺之煙。	49-15(24)
視聽之〇未半。忌景之期既臻。	42-11(16)	→ (何〇)	
有虞舜帝之德。風〇玉山之東。	43-4(17)	【筆】	
雙林忽唱滅度。至〇者椒庭寡居之秋風。	44-5(18)	【筆區】 是以勦拙掌而馳〇〇。以信爲嘉手。	25-6(4)
觸物之感。莫不催〇。	45-9(19)	【筆削】 淡海公手草詔勅。〇〇律令。	25-1(4)
天上之樂。終爲五衰之〇。	46-1(20)	【筆墨】 〇〇初點。丹青未畢。	51-3(25)
〇之又〇。瓊苗同枯於芝畝。	47-4(21)	→ (神〇)	
誠是自然之理。有涯之〇也。	47-14(22)	ヒャク	
父之慈。母之〇爲先。	48-13(23)	【百】	
宵鳥催〇。三泉之扇長鎖。	50-4(24)	【百億】 播于一善之薺芥。納於〇〇之須彌。	31-4(9)
〇之又〇。莫〇於老後子。	50-12(25)	【百家】 瑩政理於文學。通〇〇以重十家。	44-1(18)
臺上留絲竹。音曲盡而風獨〇。	51-12(26)	【百口】 正驚羅漢之僧。〇〇應請。	23-14(3)
今臨末法少智行人之時。爭堪失若斯人之〇。	52-11(27)	【百泉】 萬籟〇〇。皆唱妙法之梵音。	25-12(4)
【悲情】 千萬億之〇〇。更訴遺恨於何處。	41-8(15)	【百鳥】 千花開盡之候。〇〇和鳴之時。	29-7(7)
【悲心】 眞救跪於佛法僧前。起〇〇發弘願。	28-8(6)	【百二十】 〇〇〇之壽量。可責妄語於如來。	41-8(15)
【悲淚】 今秋之〇〇。欲開覺藥於千葉之蓮。	51-5(25)	【百年】 〇〇偕老之契。不異夢路之花。	50-3(24)
→ (最〇・慈〇・大〇・吞〇・愛〇)		【百辟】 三台九棘。〇〇千僚。	32-13(10)
【翳】		【百味】 名衣上服。七珍〇〇。	25-9(4)
【翳翠】 〇〇簾前。花枝添戀古之色。	45-7(19)		
【誹】			
【誹謗】 〇〇盧胡者。已千萬人。	34-8(12)		
ビ			
【毗】			
【毗首】 侍〇〇而加意匠。移孝禮尊顏。	25-7(4)		
【美】			
【美玉】 夫近塔之石。變爲〇〇。	27-3(5)		
→ (盡〇)			

【百餘口】			
嘔○○賢聖衆。以香花梵唄。	25-9(4)		
○○○之羅漢。仰三世佛之證明。	26-15(5)		
【百羅漢】			
秋山運心。所設者○○○之綺饌。	41-13(15)		
→ (五〇・六〇)			
ヒョウ			
【冰】			
雪盡〇解之日。付谿鳥而傳妙音。	31-6(9)		
今冬啼眼寒。〇承眦而無乾	47-5(21)		
→ (寒〇・薄氷)			
【表】			
玉體萬機。化出哥王之〇。	32-12(10)		
【萍】			
故濟生願遠。已拂煩惱之〇。	41-7(15)		
【愚】			
【愚几】			
公主臨終之間。西面〇〇。	46-9(20)		
【飄】			
【飄飄】			
落花〇〇之光。寧如翻袖。	23-15(3)		
ビョウ			
【眇】			
【眇身】			
猥以〇〇。嗣膺寶曆。	30-4(8)		
【病】			
此中有如我〇重者。如我貧窮者。	28-9(6)		
夏季受〇。秋初背世。	50-13(25)		
抑亡者早在未〇之前。深談出家之趣。	50-15(25)		
【病中】			
誠是生死海中大船師。煩惱〇〇大醫王也。	33-6(11)		
→ (臥〇・受〇・除〇・寢〇)			
【廟】			
【廟社】			
祈〇〇。祈佛法。	22-4(1)		
【廟壇】			
向彼松下。則誦二恩父母之〇〇。	25-4(4)		
【廟北】			
王劭者晉之重臣也。築寺於祖父之〇〇。	25-14(4)		
→ (寺〇・宗〇)			
ヒン			
【貧】			
【貧窮】			
此中有如我病重者。如我〇〇者。	28-9(6)		
【貧道】			
此〇〇之功也。丈六適叶人望。	33-10(11)		
【資】			
【資朋】			
佛者生前之御願。以三尊爲〇〇。	44-6(18)		
→ (義〇)			
【摺】			
【摺棄】			
不然者。十方佛土所〇〇。	33-5(11)		
ビン			
【鬢】			
【鬢髮】			
續剃〇〇以入道。新舊皆識追從於禪門之雲。	44-3(18)		
→ (雲〇・玄〇・雪〇)			
フ			
【不】			
【不異】			
百年偕老之契。〇〇夢路之花。	50-3(24)		
【不可思議】			
無量無邊。〇〇〇〇。	23-14(3)		
【不改】			
簾帷〇〇。幡盖惟新。	51-13(26)		
【不壞】			
究竟當得〇〇之身矣。	26-11(5)		
【不歸】			
彼金谷醉花之地。花每春勻而主〇〇。	49-1(23)		
自彼白鷄鷺睡。九原之駕〇〇。	50-3(24)		
【不朽】			
松筠有心之地。香花〇〇之場也。	23-11(3)		
刻十月定星之期。廻萬代〇〇之計。	25-7(4)		
設供養於無疆。期香花於〇〇。	26-7(5)		
【不潔】			
長秋宮之月非〇〇。宿望偏在三明。	46-3(20)		
【不語】			
弟子雖思温樹之〇〇。難忍德澤之有餘。	48-1(22)		
【不幸】			
嗟呼。眼暗一〇〇也。	28-1(6)		
【不材】			
〇〇之所企。造普賢而爲刻木拜貌之志。	25-5(4)		
【不日】			
〇〇而成。若是從地涌出歟。	26-12(5)		
【不住】			
如來〇〇。何山非驚峯。	40-6(14)		
【不熟】			
忽遇蘭房之永凋。酷嘆善苗之〇〇。	40-8(14)		

【不靜】		○之慈。母之悲爲先。	48-13(23)
心肝屠而○○。如吞風胡於胸中。	52-6(27)	【父子】	
【不痊】		弟子上泣聖明之恩。下泣○○之愛。	48-3(22)
累日有恙。萬方○○。	48-2(22)	【父母】	
【不退】		向彼松下。則破二恩○○之廟壇。	25-4 (4)
芥城縱盡。○○之輪長轉。	26-3(4)	禽獸魚虫。何物非流轉之○○。	31-14(10)
是故至十三出家。及四十○○。	27-15(6)	→ (慈○)	
【不凋】		【付】	
蓋聞大寶蓮尊。貫四時而○○。	44-15(19)	【付囑】	
【不定】		摩訶迦葉。跪奉○○之衣。	45-11(19)
欲海愛河。流轉之輩○○。	30-13(8)	【扶】	
嗟吁。人命○○。吾生難知	49-1(23)	【扶持】	
雖知老少之○○。猶迷先後之相違。	50-12(25)	○○宗廟。保安社禩。	24-15(4)
【不同】		【浮】	
誠乃四恩之○○。雖知凡聖之相隔。	52-4(27)	【浮埃】	
【不返】		故園之○○。誰敢留心。	45-9(19)
去而○○。槿籬無投暮之花。	31-1(9)	【浮馨】	
【不豫】		以香花梵唄。洪鐘○○。	25-9(4)
去春以還。聖體○○。	40-1(14)	【浮光】	
去冬以降。聖體○○。	42-8(16)	身田迎夏。定惠之水○○。	30-11(8)
於是今年五月。聖體○○。	44-3(18)	【浮生】	
【不亂】		論此○○。如彼花露乎。	31-1(9)
寸心○○。十念無休。	46-10(20)	【浮沉】	
【不留】		初謝靈劍以逃名。臣妾猶期○○於仙院之月。	44-3(18)
夫來而○○。薤露有拂晨之露。	31-1(9)	【婦】	
【不老】		【婦人】	
同浴佛海之無邊。須保壽木之○○。	32-13(10)	凡此界古今○○之出家也。	46-5(20)
→ (豈○・莫○)		→ (寡○)	
【夫】		【富】	
○雲林院者。松筠有心之地。	23-11(3)	【富貴】	
○寺廟者。如來之墳墓也。	25-10(4)	莊寫之得○○也。不變越聲。	34-15(12)
○近塔之石。變爲美玉。	27-3(5)	【普】	
○率都婆之功德。大哉至哉。	28-4(6)	法會勝利。○將廻施。	24-2(3)
○遊十方。而導衆生。	30-7(8)	三千大千無緣之慈○被。	24-9(4)
○來而不留。薤露有拂晨之露。	31-1(9)	彼岸引接之因。○濟三千界之塵敷。	29-2(7)
○佛日之出世也。先照高山。	33-4(11)	爰展一日之錦筵。○施千僧之綺饌。	30-10(8)
○非魚者。不可以知魚樂。	34-11(12)	於是幽明共動。遐邇○驚。	32-4(10)
○圓融院者。當受圖所草創。	42-12(16)	凡厥一切衆生。○遊四種佛土。	42-14(16)
○佛日雖早藏。餘輝明而常在。	43-15(18)	然後功德成林。○開惠花於四生之意樹。	45-11(19)
○天不爲与世貪生而輟其死。	47-13(22)	若比弟子之至心。此遠運可○供。	49-10(23)
○此經者。十方淨土中唯有之。	49-5(23)	【普及】	
○菩提道樹之月影。遂隱沙羅之愁雲。	52-3(27)	功德無邊。○○一切。	22-7(1)
【夫以】		功德之餘。○○遠近。	39-8(13)
○○。覺花承步。應化之跡長芳。	31-12(10)	功德之餘。○○一切。	43-8(17)
○○。人中之尊。猶現四枯之相。	46-1(20)	恩德之餘。○○遠近。	44-12(18)
→ (李○人)		○○功德。併弘利益。	52-15(27)
【父】		【普賢菩薩】	

〇〇〇〇。乘象降臨。	30-12(8)	松〇・梅檀〇・八〇・防〇・北〇・梵〇・餘〇)
【敷】		
【敷煙】		
青草〇〇之堤。宛如鸞嶺。	32-8(10)	
→ (開〇)		
ブ		
【撫】		
大慈在情。〇萬姓於一子。	45-1(19)	
胡劍在傍。〇秋水而流淚。	51-12(26)	
【撫民】		
〇〇失方。懼朽索於奔鶴。	30-5(8)	
【舞】		
【舞人】		
是故別命伶倫。整理音樂。兼令〇〇盡其妙曲。	23-15(3)	
フウ		
【風】		
梅檀〇吹。自出雲臺之下。	28-15(7)	
鶯子無雙之智。振英聲於暮春之〇。	29-8(7)	
世尊患〇。香城施獻藥之術。	40-1(14)	
有虞舜帝之德。〇悲玉山之東。	43-4(17)	
各皆輸誠勸行。莫不染〇浴恩。	44-2(18)	
若住暫舍之花色。常樂〇吹忽令開敷。	46-11(20)	
法音亦可傳香岫之〇。	49-9(23)	
臺上留絲竹。音曲盡而〇獨悲。	51-12(26)	
他方利生之化相催。豈留中有之〇。	52-15(27)	
【風雨】		
可謂天地和合。〇〇不違。	25-8(4)	
【風月】		
今老沙彌。無便營〇〇之賽。	22-6(1)	
【風胡】		
心肝屠而不靜。如吞〇〇於胸中。	52-6(27)	
【風幌】		
卷〇〇以咽龍象衆於其前。	49-4(23)	
【風壁】		
乃至鷲王威力。遠任遍法界之〇〇。	24-5(3)	
【風前】		
況復紅桃漸淺。可動〇〇之心。	29-3(7)	
【風俗】		
匡衡幸出顏巷之雪窗。謬莅尾州之〇〇。	22-12(2)	
【風聞】		
〇〇。造塔善根。流傳貝葉。	23-12(3)	
〇〇。天上天下。妙覺之理獨圓。	24-8(4)	
〇〇。若善男子善女人等。以清淨心造作佛塔。	26-10(5)	
〇〇。佛心湛水。智惠之海無涯。	28-14(7)	
→ (威〇・遺〇・家〇・寒〇・曉〇・玄〇・秋〇・春〇・		
フク		
【伏】		
【伏惟】		
〇〇。追尋往事。不忘者有。	30-4(8)	
〇〇。太上法皇。昔是無何在。心。	39-15(14)	
〇〇。太上法皇。慈悲凜性。	42-5(16)	
〇〇。我聖靈陛下。七歲即帝位。	43-15(18)	
〇〇。先太皇太后。大慈在情。	45-1(19)	
〇〇。女御贈從四位上藤原朝臣者。	46-15(21)	
〇〇。亡室藤原氏。柔和凜性。	50-1(24)	
〇〇。亡息兵部郎中澄明。夏季受病。	50-13(25)	
【福】		
何圖樂未央哀先至。〇漸始禍早成。	47-2(21)	
【福惠】		
德化光於古今。〇〇被於幽顯。	44-2(18)	
【福礙】		
增長〇〇。圓滿御願。	23-5(2)	
【福助】		
〇〇過去。恢弘方來。	24-12(4)	
【福田】		
爲禦秋山之寒風。追贈〇〇之法衣。	51-2(25)	
→ (修〇・追〇)		
【覆】		
燕雀巢〇。撫遺卵而摧肝。	50-4(24)	
フツ		
【拂】		
唯願。如來永〇魔事將報佛恩。	35-10(12)	
【拂侵】		
夫來而不留。薤鹽有〇〇之露。	31-1(9)	
【拂】		
【沸鼎】		
三塗之間。彌滿〇〇。	30-6(8)	
【沸天】		
法音〇〇。三千之界盡動。	27-1(5)	
ブツ		
【佛】		
不見經不見〇。不知晝不知夜。	28-2(6)	
云〇云經。計微塵劫以度脫。	28-8(6)	
〇者生前之御願。以三尊爲資朋。	44-6(18)	
【佛恩】		
唯願。如來永佛魔事將報〇〇。	35-10(12)	
【佛果】		
法華經之說〇〇。令我女不異龍女焉。	48-8(22)	

【佛界】			
心在無上道。○○何不垂慈悲。	27-14(6)		
月殘露結之朝。折籬花以供○○。	31-6(9)		
○○貴信不貴財。世尊依誠不依物。	47-8(21)		
【佛海】			
同浴○○之無邊。須保壽木之不老。	32-13(10)		
苦海將救。遂入○○之清虛。	42-7(16)		
【佛儀】			
○○不見。只見春花秋月。	24-11(4)		
【佛事】			
碎丹心而營○○。還類常啼菩薩之售身。	23-6(2)		
○○廣作。何疑速證之實語。	43-7(17)		
【佛日】			
○○懸光。真空之理已顯。	31-12(10)		
夫○○之出世也。先照高山。	33-4(11)		
夫○○雖早歲。餘輝明而常在。	43-15(18)		
【佛心】			
○○湛水。智惠之海無涯。	28-14(7)		
後慮既後。○○唯照。	45-12(19)		
【佛身】			
希有難解之法。可期其○○。	22-7(1)		
【佛世尊】			
殊於王舍城之東河。假立○○○之月殿。	32-6(10)		
【佛庭】			
非唯果報之殊勝。兼為○○之莊嚴。	26-11(5)		
【佛土】			
不然者。十方○○所擯棄。	33-5(11)		
凡厥一切衆生。普遊四種○○。	42-14(16)		
【佛道】			
誠勸我之○○。寧非我之慈堂乎。	35-3(12)		
今○○記里之車忽摧。向何方而為指南。	52-10(27)		
【佛法】			
祈願社。祈○○。	22-4(1)		
澄清天下。興隆○○。	23-5(2)		
○○之冲邁。不可得而稱者也。	24-9(4)		
筆削律令。興○○詳帝範。	25-1(4)		
松柏有心之地。○○肇興之場也。	26-6(5)		
弟子者日本國王之舅也。浴皇恩而興○○。	27-10(5)		
重為○○興隆。自他利益。	29-6(7)		
慈悲凜性。○○刻心。	42-6(16)		
【佛法僧】			
大江朝臣匡衡稽首禮足。白○○○言。	22-10(2)		
眞救跪於○○○前。起悲心發弘願。	28-8(6)		
聞○○○之名字哉。誠是生死海中大船師。	33-5(11)		
フン			
【墳】			
【墳墓】			
方今時時詣○○。為建寺指點形勝。	25-3(4)		
夫寺廟者。如來之○○也。	25-11(4)		
衆衆○○之緣邊。新建寺院。	26-7(5)		
→ (新○)			
【粉】			
【粉墨】			
盡丹青於一心之中。成○○於期年之內。	41-12(15)		
ブン			
【分】			
【分種】			
菩提○○。將灑甘露於六趣之身田。	45-12(19)		
【分身】			
南無一代教主釋迦尊。多寶。○○諸善逝。	27-9(5)		
【分段】			
○○生死之鄉。難緩有涯之尅。	41-5(15)		
【分點】			
權實教之飛文。垂曉露而○○。	41-11(15)		
【分味】			
蘿逕○○。所助者千比丘之霞淪。	41-13(15)		
→ (榮○・少○・隨○)			
【文】			
紫磨金之○。鴈行成字。	32-2(10)		
開三顯一之○。春花貫以永點。	42-5(16)		
【文學】			
瑩政理於○○。通百家以重十家。	44-1(18)		
【文士】			
就天滿天神廟。會○○獻詩篇。	22-5(1)		
【文殊】			
材明六通。○○能辨瑞於往昔。	28-14(7)		
齋然願先參五臺山。欲逢○○之卽身。	34-3(12)		
大慈大悲。釋迦○○。	34-8(12)		
【文道】			
以其天神為○○之祖詩境之主也。	22-5(1)		
居武官而威風遠扇。嗜○○而詞露自鮮。	51-10(26)		
→ (願○・金○・飛○)			
【聞】			
【聞法】			
抑亦見佛○○之大緣。	25-15(4)		
令衆生得見佛○○之便。	33-8(11)		
→ (聽○・傳○・婆聲○・風○)			
へい			
【平】			
【平日】			
法皇○○讚揚之窓。經卷之塵漸積。	42-10(16)		

【平生】 適於○○之舊寢。聊開供講之梵筵。	51-13(26)	弟子早引幽靈。○在極樂。	48-8(22)
【平西】 圓融亭午。寂滅○○。	33-4(11)	【遍】 一香一色。○恒沙界以薰修。	28-9(6)
【平昔】 卽於○○之燕寢。敬以供養演說。	44-6(18)	大千世界。○戴慈悲之雲。	31-12(10)
【平素】 ○○不能採蘭以翹誠。愚丹或欲刻木以拜貌。	48-14(23)	曇无比丘之傳法水。○廻六度之舟。	32-5(10)
妾追憶○○。莫不鎖魂。	51-11(26)	【遍照】 非假大日○○之光。何成黑夜破暗之計。	50-5(24)
【平等】 欲混勝利於怨親。以頒拔濟於○○。	30-9(8)	【遍法界】 乃至鷄王威力。遠任○○○之風聲。	24-5(3)
→ (太○)		【變】 四德舊儀。○作萬行之備。	49-12(23)
【兵】 法軍降魔之○長去。遵誰人而令背北。	52-10(27)	孟冬上旬之初日兮。忽驚八風之○。	52-5(27)
【瓶】 【瓶中】 受五部法。新瀉智水於○○。	42-7(16)	【變改】 然則去留難定。○○難期。	35-9(12)
【薛】 【薛衣】 大師纔忍辱以爲○○之領袖。	52-7(27)	【變色】 若一親形言○○而留之。	35-2(12)
【薛服】 ○○防風之外。更企何謀。	32-3(10)	【變身】 仰○○於多寶如來。尋信力於雪山童子。	28-5(6)
ベイ		→ (神○・新○)	
【袂】 鴛鴦衾空。向舊枕而濕○。	50-4(24)	ベン	
→ (霞○・連○)		【弁】 【弁張】 法器道具。各各○○。	22-15(2)
ヘキ		【便】 今老沙彌。無○營風月之賽。	22-6(1)
【壁】 虛弓倚○。向曉月而斷腸。	51-12(26)	○開支提之會。三身歸心。	23-13(3)
ベツ		不越南部。○觀西方。	28-10(6)
【別】 無明夢驚。長○苦海。	32-11(10)	令衆生得見佛聞法之○。	33-8(11)
曉雞一聲。長臨無常之○。	50-3(24)	今遇其○。欲遂此志。	34-3(12)
仲冬上旬之初日兮。永告九泉之○。	52-5(27)	○於常住寺。五日十講。供養演說。	35-5(12)
【別淚】 九泉○○。送千秋而無窮。	50-14(25)	○於此院。敬展講筵。	41-13(15)
→ (告○)		○於法性寺道場。敬奉供養。	47-8(21)
ヘン		將通音信而無○。兼寫寶偈以代書。	48-5(22)
【片】 【片時】 哀哉○○不見。醇腸宛如千萬秋。	48-3(22)	○於仙遊道場。敬展講筵。	51-4(25)
【偏】 ○承鍾愛。旣在朕躬。	45-2(19)	【便是】 ○○綺窓瞑目之時。寧非蓮臺結跏之日。	46-10(20)
		星階昔位。○○月輪之基。	49-11(23)
		→ (無○)	
		ホ	
		【保】 【保安】 扶持宗廟。○○社祿。	24-15(4)
		【輔】 【輔佐】 常恐偏以親舅。垂老而○○壯年之君。	44-10(18)

→ (賢○)		盖慕古人廬○○之跡所草創也。	26-8(5)
【鋪】		【墓傍】	
【鋪設】		彼端木者魯之賢士也。移家於孔子之○○。	25-13(4)
背苔○○。自展七淨瑠璃之茵。	25-9(4)	→ (墳○)	
ホ		【暮】	
【母】		抑空也齡遂年○。身與雲浮。	32-2(10)
佛子拋○欲去。則可失孝行。	34-16(12)	院花春○。只夙夜於霸陵之松。	43-6(17)
携○將留。亦可乖宿懷。	35-1(12)	一事一言。于朝于○。	50-2(24)
○曾無怨貌。卽有勸心。	35-1(12)	【暮雨】	
我○不是人世之○。是善緣之○也。	35-2(12)	柳眼無情。空添啼粧於池堤之○○。	42-11(16)
再見○面。終遇○喪。	35-8(12)	【暮雲】	
又不知○者在此土而空亡。	35-8(12)	朝露易消。○○難繫。	35-9(12)
父之慈。○之悲爲先。	48-13(23)	【暮山】	
【母儀】		緇素含哀。空聞○○咽嵐之松響。	40-10(14)
○○之砌。蛇齒獻駐老之方。	32-12(10)	【暮春】	
→ (王○・國○・慈○・父○・老○)		鷺子無雙之智。振英聲於○○之風。	29-8(7)
【善】		【暮年】	
【菩薩】		○○出家。一旦求道。	22-5(1)
十方○○。以爲尊師。	23-3(2)	【暮齡】	
被如來之衣。著○○之座。	26-1(4)	或及○○爲寡婦。或多愁恙無依怙之人等也。	46-5(20)
雖未發心。已是○○矣。	33-7(11)	→ (投○)	
→ (常啼○○・普賢○○・法涌○○)		ホウ	
【菩薩戒】		【方】	
設萬燈會。修○○○。	32-10(10)	母儀之砌。蛇齒獻駐老之○。	32-12(10)
【菩提】		優鉢羅之萼。三殿失○。	40-2(14)
半是爲○○。半是爲現世。	27-2(5)	天使相望於路。醫人多盡其○。	42-8(16)
爲自身滅罪生善。無上○○也。	27-3(5)	【方今】	
唐太宗之設齋會。迎亡卒於○○之門。	30-10(8)	○○時時詣墳墓。爲建寺指點形勝。	25-3(4)
爲是斗蔽也。爲是○○也。	34-12(12)	○○此寺有佛像焉。有經典焉。	26-8(5)
後生之○○者。我之所爲先。	35-4(12)	○○仁山長崩。群居無主之荒砌。	40-3(14)
出世契深。遂赴○○之道。	41-7(15)	○○七七聖忌。光陰欲盈。	44-6(18)
所生惠業。資御○○。	43-8(17)	○○佛云經云。空留何益。	45-9(19)
○○之筇忽成。所加只四衆戀慕之新淚。	44-8(18)	○○齡近艾服。不可恃餘年以依違。	48-15(23)
○○分種。將灑甘露於六趣之身田。	45-12(19)	○○欽恨之日漸積。食香之期欲盈。	50-5(24)
併超生死之流。令到○○之岸。	47-10(21)	○○芸閣廬深。竹簡幾千卷。	50-14(25)
○○之飾。隨分欲訪。	51-13(26)	【方廣】	
【菩提樹】		今拂九尊○○之場。新加十號圓明之位。	50-8(24)
○○○下。七覺之華彌鮮。	40-5(14)	【方士】	
【菩提心】		昔李夫人之反魂。尚可勞○○。	48-3(22)
發○○○。凝道場觀。	24-14(4)	【方寸】	
聞寶鐸之鳴風。○○○之淚先落。	26-14(5)	○○所憶。何宜少分。	46-15(21)
爰發○○○。凝道場觀。	49-4(23)	【方赤】	
【菩提道樹】		同應○○。共期圓明。	31-7(9)
夫○○○○之月影。遂隱沙羅之愁雲。	52-3(27)	【方袍】	
【墓】		落雲鬢而入道。尋三明於○○。	39-4(13)
【墓側】		【方來】	

福助過去。恢弘○○。	24-12(4)	實相者。○○之舍利也。	25-11(4)
→ (十○·西○·他○·佗○·萬○)		今勤信心之惠業者。唯添○○之莊嚴也。	42-14(16)
【芳】		【法水】	
覺花承步。應化之跡長○。	31-12(10)	曇无比丘之傳○○。遍迴六度之舟。	32-5(10)
彼蓬萊洞之花非不○。素意久期七覺。	46-3(20)	【法棟】	
【芳意】		譏羊太傅之絕後胤。伴槐棘以高○○。	25-14(4)
供佛施僧之資貯。專任東閣之○○。	52-14(27)	【法龍池】	
【芳骨】		將若○○○之驚六種動以涌出賦。	25-12(4)
問此巖頭。亦瘞同胞兄弟之○○。	25-4(4)	【法侶】	
【芳菲】		故以此佛經。屬我○○。	31-6(9)
于時○○候過。清和景闌。	49-9(23)	【法輪】	
【放】		護一乘之○○。觀念不變。	24-2(3)
【放光】		即謂○○以恒轉為宗。善根非隨緣不感。	49-7(23)
神變○○。暗冥之霧盡散。	28-14(7)	→ (求○·教○·五部○·護○·正○·說○·佛○·聞○	
【法】		·遍○界·末○·密○·妙光○師·妙○)	
希有難解之○。可期其佛身。	22-7(1)	【泡】	
【法衣】		【泡山】	
為禦秋山之寒風。追贈福田之○○。	51-2(25)	然猶○○可厭。忽尋姑山之幽邃。	42-6(16)
【法雨】		→ (電○)	
精靈宛魂。浴○○而離垢。	27-8(5)	【崩】	
降○○而洗災患。金光明經之威力最勝。	45-5(19)	方今仁山長○。群居無主之荒砌。	40-3(14)
【法雲】		【報】	
聖靈宛靈之相異。盡住○○。	24-3(3)	唯願。如來永拂魔事將○佛恩。	35-10(12)
【法音】		○是一心。雖歷劫雖改生何忘	48-13(23)
○○不聞。只聞溪鳥嶺猿。	24-11(4)	欲○之心。成歲而已。	48-15(23)
道儀照地。九億之人皆來。	27-1(5)	【報恩】	
幽儀定不忘峴亭之月。○○亦可傳峴嶺之風。	49-9(23)	凡棄恩入無為。真實之○○。	35-4(12)
【法華經】		→ (宿○)	
寔知釋迦尊之說○○○也。	28-15(7)	【鳳】	
【法華三昧】		○舞鸞歌。雖乖去年之聖感。	40-8(14)
擇此地之閑敞。修○○○○。	24-1(3)	【鳳凰谷】	
今日擇曜宿。始○○○○。	25-7(4)	錫杖香爐。或出從○○○之底。	27-1(5)
修○○○○。設供養於無疆。	26-7(5)	【鳳閣】	
【法界】		鳥獸哀聲。況於虎閣○○乎。	44-9(18)
功德遍于○○。利益及于衆生。	25-15(4)	【鳳窗】	
衆生○○。利益自然。	49-12(23)	○○屢降。加崇階於龍像之上首。	52-9(27)
【法器】		【鳳錦】	
○○道具。各各弁張。	22-15(2)	鶴綾○○故國之浮埃。誰敢留心。	45-4(19)
【法軍】		→ (鸞○)	
○○降魔之兵長去。遭誰人而令背北。	52-10(27)	【蓬】	
【法施】		【蓬矢】	
受其○○。植其良因者。	52-9(27)	從其夢結蘭芬。心祈○○。	48-1(22)
【法障】		【蓬萊洞】	
買春秋於○○。以表臣子之誠。	45-5(19)	彼○○○之花非不芳。素意久期七覺。	46-3(20)
【法涌菩薩】		【寶】	
○○○○之對揚。寄思開示。	31-15(10)	【寶蓋】	
【法身】		○○幢幡。名衣上服。	25-9(4)

【寶宮】			
忽出冷泉之〇〇。永遷眞如之華界。	39-2(13)		
今國母〇〇。爲飭上皇之德留閻浮而設齋。	41-9(15)		
【寶偈】			
將通音信而無便。兼寫〇〇以代書。	48-5(22)		
【寶山】			
先與諸藥。令到〇〇。	28-9(6)		
【寶筭】			
計其〇〇。釋迦如來一年之兄。	39-5(13)		
閑計〇〇之盈數。獨歎喜懼之交懷。	45-3(19)		
【寶珠】			
保〇〇於醉後。照燃燈於暗中。	29-1(7)		
誦一乘經。全護〇〇於頂上。	42-7(16)		
【寶樹】			
訪後生於誰家。〇〇蓮臺加莊嚴而相待。	40-3(14)		
【寶祚】			
三十二之〇〇誰論短。自象妙相於如來。	44-11(18)		
【寶鐸】			
聞〇〇之鳴風。菩提心之淚先落。	26-14(5)		
【寶典】			
故今圖繪尊像。繕寫〇〇。	30-8(8)		
【寶塔】			
然而殊向醍醐之寺。重拂〇〇之下。	40-6(14)		
【寶曆】			
猥以抄身。嗣膺〇〇。	30-4(8)		
→ (三〇・七〇・多〇・大〇運)			
ボウ			
【亡】			
身已有若〇。人間既非可求名利。	27-14(6)		
又不知母者在此土而空〇。	35-8(12)		
【亡室】			
伏惟。〇〇藤原氏。柔和稟性。	50-1(24)		
【亡者】			
抑〇〇早在未病之前。深談出家之趣。	50-15(25)		
【亡卒】			
唐太宗之設齋會。迎〇〇於菩提之門。	30-10(8)		
→ (滅〇)			
【防】			
【防風】			
薛服〇〇之外。更企何謀。	32-3(10)		
【忘】			
【忘苦】			
渡海登山。忍寒〇〇。	34-7(12)		
【謀】			
薛服防風之外。更企何〇。	32-4(10)		
滅罪登覺之〇。豈其不熟。	51-4(25)		
		ホク	
		【北】	
		【北風】	
		胡馬非〇〇不嘶。越鳥非南枝不巢。	34-15(12)
		【北芒】	
		徒爲東岱之暗魂。〇〇之朽骨。	31-2(9)
		豈圖〇〇羈促。營終制於老翁。	50-14(25)
		〇〇新墳。已見七尺之花樹。	51-14(26)
		→ (廟〇)	
		ホン	
		【本】	
		【本覺】	
		此界得益之緣早斷。定歸〇〇之月。	52-15(27)
		【本願】	
		扇梵風而增壽命。藥師如來之〇〇殊妙。	45-5(19)
		【本志】	
		〇〇無遂。朕恨云何。	45-12(19)
		【本誓】	
		常啼大士之〇〇。懸心殺昏。	31-15(10)
		【本朝】	
		〇〇久停乃貢之使而不遣。	34-2(12)
		其詞如是者。於〇〇有何耻乎。	34-14(12)
		【本土】	
		捨〇〇朝臣唐。有何心有何願乎。	34-13(12)
		→ (張〇・德〇・日〇・日〇國)	
		【奔】	
		【奔駕】	
		撫民失方。懼朽索於〇〇。	30-5(8)
		ボン	
		《凡→ハン》	
		【梵】	
		【梵筵】	
		灑於平生之舊葢。聊開供講之〇〇。	51-13(26)
		【梵音】	
		萬籟百泉。皆唱妙法之〇〇。	25-12(4)
		【梵唄】	
		以香花〇〇。洪鐘浮磬。	25-9(4)
		花香〇〇之莊嚴。亦在南嶽之光儀。	52-14(27)
		【梵風】	
		扇〇〇而增壽命。藥師如來之本願殊妙。	45-5(19)
		マ	

【麻】		【萬行】	
【麻淪】		四德舊儀。變作○○之備。	49-12(23)
○○送日之中。復施何力。	32-4(10)	【萬歲】	
【摩】		息災延命。千秋○○。	23-6(2)
【摩訶】		古之塔瓦文。有○○千秋樂未央之七字。	27-6(5)
○○迦葉。跪奉付囑之衣。	45-11(19)	【萬歲藤】	
【摩尼珠】		○○○之榮。所以卓躐萬姓。	24-15(4)
○○○光。照三世而彌朗。	44-15(19)	【萬字】	
【摩耶】		眞如新筍。定現○○於胷前。	45-10(19)
○○入夢。毒龍遺吸珠之悲。	40-1(14)	【萬乘】	
昔釋迦普逝。爲報○○之恩昇忉利而說法。	41-8(15)	拋羅圖而逃塵。比○○於脫屣。	39-3(13)
【魔】		昔是無何在心。辭○○而脫屣。	39-15(14)
【魔事】		【萬人】	
唯願。如來永拂○○將報佛恩。	35-10(12)	若○○緩頰苦心而諫之。	35-2(12)
→(降○)		【萬仞】	
マイ		覆一貫以不止。終及○○矣。	34-5(12)
【每】		【萬水】	
【每春】		影臨○○。光滿三空。	33-4(11)
今上○○臨幸之地。葢路之草初繁。	42-10(16)	【萬姓】	
【每度】		萬歲藤之榮。所以卓躐○○。	24-15(4)
聖主○○。修福於七箇寺。	40-4(14)	大慈在情。撫○○於一子。	45-1(19)
【邁】		【萬代】	
況雪鬢齡○。黃壤期催。	31-2(9)	刻十月定星之期。廻○○不朽之計。	25-7(4)
マツ		【萬燈會】	
【末】		設○○○。修菩薩戒。	32-10(10)
【末光】		【萬方】	
上則增加新佛瓔珞之○○。	46-11(20)	累日有恙。○○不痊。	48-2(22)
【末法】		【萬邦】	
今臨○○少智行人之時。爭堪失若斯人之悲。	52-11(27)	昔當○○之有罪。歸責於一人。	30-7(8)
マン		【萬民】	
【滿】		天下安穩。○○快樂。	25-16(4)
影臨萬水。光○三空。	33-4(11)	【萬籟】	
八萬四千之相。秋月○而高懸。	42-5(16)	○○百泉、皆唱妙法之梵音。	25-12(4)
【滿園】		→(十○億・千○億・千○人・千○緒・八○四千・八○十	
○○之草木。期榮枯於彼恩。	47-2(21)	二)	
【滿月】		【漫】	
故瑩白銀鑄出○○之容。研黃金寫成貫花之偈。	45-6(19)	【漫起】	
→(圓○)		東山捍命之徒。陣雲○○。	30-5(8)
【萬】		ミ	
【萬機】		【未】	
玉體○○。化出哥王之表。	32-12(10)	【未央】	
爰移仙居於九重之裏。營孝思於○○之先。	45-2(19)	古之塔瓦文。有萬歲千秋樂○○之七字。	27-6(5)
【萬戶】		何圖樂○○哀先至。福漸始禍早成。	47-2(21)
畿內畿外。皆報千門○○之歡娛。	29-12(7)	【未曾有】	
		弟子爲奉貴祖考宗族之幽儀。發○○○之願。	26-7(5)
		衆心歡喜。得○○○。	33-12(11)

【未明】		兼三界而救群類。○○之功甚深。	30-8(8)
若有○○之月輪。餘習雲散永令圓滿。	46-11(20)	【妙法蓮】	
【未來】		縱有寒草依造塔力可暖。何草非○○○。	27-5(5)
久遠幾久遠乎。○○幾○○乎。	28-3(6)	【妙輪】	
【彌】		何疑鉢羅樹下。開菓臂而轉○○。	42-13(16)
【彌陀】		→ (殊○)	
上征兜率。西遇○○。	26-3(4)	ム	
專念○○。永歸極樂。	32-10(10)	【無】	
安樂界中。攀攪花於○○之樹。	50-8(24)	【無畏】	
【彌陀尊】		貞元之歲。○○道場。	31-3(9)
○○○之設蓮臺。望上品又仰下品。	48-8(22)	【無爲】	
【彌勒】		凡棄恩入○○。眞實之報恩。	35-4(12)
花雨四種。○○欲決疑於當今。	28-14(7)	【無緣】	
→ (須○)		三千大千。○○之慈普被。	24-9(4)
ミツ		乃至有緣○○。現界佗界。	32-13(10)
【密】		【無何】	
【密法】		太上法皇。昔是○○在心。	39-15(14)
求○○者至之。至之者作虛心之禮。	52-8(27)	【無涯】	
→ (三○)		佛心湛水。智惠之海○○。	28-14(7)
ミョウ		【無期】	
【妙】		燕肝越膽。輪廻之鄉○○。	30-12(8)
【妙音】		【無及】	
雪盡冰解之日。付谿鳥而傳○○。	31-6(9)	凡厥視聽所觸。言辭○○者乎。	52-7(27)
不知○○暫來自界。假爲後宮歟。	46-7(20)	【無休】	
【妙果】		寸心不亂。十念○○。	46-10(20)
仰願。功德池上。結○○於開示之蓮。	50-8(24)	【無窮】	
【妙覺】		九泉別淚。送千秋而○○。	50-14(25)
天上天下。○○之理獨圓。	24-8(4)	【無去】	
佗方○○之果。速證四八相之金容。	29-2(7)	○○無來。紺頂之影澄月。	30-3(8)
無得而稱。其唯○○歟。	30-4(8)	【無疆】	
併關薰修。咸證○○。	32-15(10)	設供養於○○。期香花於不朽。	26-7(5)
無上世尊。高並○○之座。	45-11(19)	【無愆】	
【妙曲】		鷲六牙之白象。證明○○。	24-2(3)
是故別命伶倫。整理音樂。兼令舞人盡其○○。	23-15(3)	【無行】	
【妙光法師】		無才○○。一羊僧也。	34-13(12)
妙法大乘。○○○○。	25-16(4)	【無才】	
【妙相】		○○無行。一羊僧也。	34-13(12)
三十二之寶祚誰論短。自象○○於如來。	44-11(18)	人皆有才○○。各言其子。	48-9(22)
【妙典】		【無罪】	
以前供養尊像。演說○○。	39-15(14)	佛願。有罪○○。定救我兒。	48-9(22)
【妙法】		【無三】	
匪石之所思。書○○而代立碑旌德之文。	25-6(4)	無二○○之車脂轄。運載爲宗。	28-15(7)
萬籟百泉。皆唱○○之梵音。	25-12(4)	【無始】	
○○大乘。妙光法師。	25-16(4)	○○以來。所有群類。	32-14(10)
蓮華世界之鳥。嚀○○之音。	29-9(7)	【無主】	
		方今仁山長崩。群居○○之荒砌。	40-3(14)

【無從】		從其○結蘭芬。心祈蓬矢。	48-1(22)
弟子涕淚流而○○。迷倒雲漢於眼下。	52-5(27)		
【無上】		【夢後】	
爲自身滅罪生善。○○菩提也。	27-3(5)	經者○○之精勤。以一乘爲輿轂。	44-6(18)
心在○○道。佛界何不垂慈悲。	27-14(6)	【夢路】	
意藥發露。○○之果欲求。	32-3(10)	百年偕老之契。不異○○之花。	50-3(24)
昇霞以來。定到○○法王之位。	42-13(16)	→ (春○)	
○○世尊。高並妙覺之座。	45-11(19)	【霧】	
【無常】		神變放光。暗冥之○盡散。	28-14(7)
諸法無相。四生○○。	31-13(10)	→ (卷○・重○・蒙○)	
娑婆電泡之國。誰免○○之悲。	41-5(15)		
曉雞一聲。長臨○○之別。	50-2(24)		
【無情】		メ イ	
柳眼○○。空添啼粧於池堤之暮雨。	42-11(16)	【名】	
【無相】		月宮留影。雖得承天之○。	29-4(7)
諸法○○。四生無常。	31-13(10)	空桑賢輔。久保金鉉之○。	29-11(7)
○○之月早歲。雖顯寂滅之理。	39-6(13)	願我成佛時。○曰釋迦牟尼。	33-13(11)
【無雙】		處處訪○。普課良家之繪舛。	40-7(14)
鶖子○○之智。振英聲於暮春之風。	29-8(7)	臥雲之後。雖謙一乘佛子之○。	42-13(16)
【無知】		器期霄雲。○顯紫闈。	51-9(26)
寄心於○○之域。委身於異類之人。	34-6(12)	【名衣】	
【無程】		寶蓋幢幡。○○上服。	25-9(4)
而痼病○○。卽世太速。	51-10(26)	【名號】	
【無二】		若聞釋迦牟尼如來○○。雖未發心已是菩薩也。	33-7(11)
○○無三之車脂轄。運載爲宗。	28-15(7)	【名字】	
【無邊】		聞佛法僧之○○哉。誠是生死海中大船師。	33-5(11)
功德○○。普及一切。	22-7(1)	【名利】	
所得功德。無量○○。	23-14(3)	身已有若亡。人間既非可求○○。	27-14(6)
有爲之鄉。○○之界。	31-7(9)	然猶不顧軀命。不著○○。	34-7(12)
同浴佛海之○○。須保壽木之不老。	32-13(10)	→ (虛○・才○・聲○・逃○)	
所生功德。無量○○。	49-11(23)	【命】	
【無便】		○不以人之惡夭而長其齡。	47-13(22)
今老沙彌。○○替風月之養。	22-6(1)	【命世】	
【無明】		才名超衆。修學○○。	34-10(12)
○○夢驚。長別苦海。	32-11(10)	【命命】	
【無來】		苦空傳音。如聞○○之鳥。	32-10(10)
無去○○。紺頂之影澄月。	30-3(8)	→ (運○・捍○・軀○・顧○・壽○・人○・天○・餘○・延○)	
【無量】		【明】	
所得功德。○○無邊。	23-14(3)	【明月】	
弟子年來作功德。種種○○。	27-2(5)	甚深之義。海象吐○○之珠。	32-8(10)
所生功德。○○無邊。	49-11(23)	→ (圓○・金光○經・三○・照○・證○・神○・精○・無○・幽○)	
→ (隨○・南○垢)		【迷】	
【夢】		雖知苦海之常理。還○淚川之難留。	50-1(24)
無明之○驚。長別苦海。	32-11(10)	雖知老少之不定。猶○先後之相違。	50-12(25)
摩耶入○。毒龍遺吸珠之悲。	40-1(14)	妾五內如割。一心已○。	51-9(26)
阿闍世王之○。煙暗金河之西。	43-4(17)	一心之難忍。猶○哀慟之自然者也。	52-4(27)
哀樂如○。未獻是界之壽。	45-7(19)	涕淚流而無從。○倒雲漢於眼下。	52-5(27)

<p>【迷惑】 ○○失據。似入重霧之中。 47-3(21) → (群○)</p> <p>【冥】 【冥助】 祖考感應。垂○○之令然也。 25-8(4) 又臥病之間。爲蒙○○。 51-3(25) → (暗○)</p> <p>【暝】 【瞑目】 便是綺窓○○之時。寧非蓮臺結跏之日。 46-10(20)</p> <p>メツ</p> <p>【滅】 修行是勤。罪根漸○。 34-7(12) 機緣薪○。花界駕催。 42-8(16) 去夏哀情毒焰。在臂而未○。 47-4(21)</p> <p>【滅罪】 爲自身○○生善。無上菩提也。 27-3(5) ○○登覺之謀。豈其不熟。 51-3(25)</p> <p>【滅度】 今跋提河之○○二千年。瑩紫磨金而禮兩足。 33-9(11) 雙林忽唱○○。至悲者椒庭寡居之秋風。 44-5(18)</p> <p>【滅亡】 遂議征伐而出師。更愍○○而泣罪。 30-6(8) → (消○・唱○・寂○・入○・必○)</p> <p>メン</p> <p>【綿】 【綿綿】 ○○此恨。生生何忘。 47-5(21)</p> <p>モウ</p> <p>【妄】 【妄語】 百二十之壽量。可賁○○於如來。 41-8(15)</p> <p>【妄想】 蕩○○於眞如。捨七寶以敬三寶。 44-1(18)</p> <p>【蒙】 【蒙益】 華夷消災。幽顯○○。 27-8(5)</p> <p>【蒙霧】 于時○○開愛日暖。 25-7(4)</p> <p>《もし=若→ジャク》</p>	<p>モン</p> <p>【門】 難解難入之○排局。開悟不測。 29-1(7) 唐太宗之設齋會。迎亡卒於菩提之○。 30-10(8) 今朝新變。欲開出世之○。 45-10(19) 雖生鐘鼎之○。未見驕慢之色。 50-1(24)</p> <p>【門業】 爲思○○。泣而不許。 51-1(25)</p> <p>【門戸】 常念一家之子孫。附○○於其頤。 47-2(21) → (槐○・腐○・緇○・松○・千○・禪○・桑○・同○)</p> <p>ヤ</p> <p>【夜】 山嵐朝掃庭。溪月○舉燭而已。 25-5(4) 不見經不見佛。不知晝不知○。 28-2(6) 椒房華朝。蘭殿雪○。 45-2(19) 漢宮入內之○。傍花釐而成歡。 47-5(21) 弘徽之秋月。○永不許獨看。 47-15(22)</p> <p>【夜漏】 況亦說法之後。更臨○○。設萬燈會。 32-10(10) ○○五盡。遂謝有涯之生。 50-2(24) → (黒○・夙○・雪○・中○)</p> <p>ヤク</p> <p>【藥】 爲除憂苦。譬之天上莫耆之○。 23-2(2) 先與諸○。令到寶山。 28-9(6) 世尊患風。香城施獻○之術。 40-1(14)</p> <p>【藥師如來】 扇梵風而增壽命。○○○○之本願殊妙。 45-5(19) → (湯○・毒○)</p> <p>ユ</p> <p>【由】 【由緒】 其○○詳見寬弘二年十月供養寺之願文矣。 26-8(5) → (率○)</p> <p>【諭】 爲除憂苦。○之天上莫耆之藥。 23-2(2) 爲滿求願。○之海中如意之珠。 23-2(2) 如佛子者。不及古人之○。 34-10(12)</p> <p>【輸】 天官依勅而○錢帛。舊院有議以營佛經。 42-11(16) 至于糴素男女。各皆○誠勵行。 44-2(18)</p>
--	--

ユウ

【右】

【右指】

娑婆假使出鳩鳴之城彈○○。 40-9(14)

【右膝】

○○著地。左手揮淚。 40-11(14)

→ (左○)

【有】

【有爲】

○○之鄉。無邊之界。 31-7(9)

雖顯寂滅之理。○○之悲難忘。 39-6(13)

今亦○○厭世。入三密而出家。 39-15(14)

【有緣】

乃至○○無緣。現界佗界。 32-13(10)

【有涯】

分段生死之鄉。雖緩○○之尅。 41-6(15)

誠是自然之理。○○之悲也。 47-13(22)

夜漏五盡。遂謝○○之生。 50-2(24)

【有虞】

○○舜帝之德。風悲玉山之東。 43-4(17)

【有慶】

一神○○。衆生賴之。 22-7(1)

【有才】

人皆○○無才。各言其子。 48-9(22)

【有罪】

佛願○○無罪。定救我兒 48-9(22)

【有習】

○○怨盡。應謝稠林。 32-11(10)

【有心】

此一乘教。○○展香華之筵。 22-6(1)

夫雲林院者。松筠○○之地。 23-11(3)

木幡山淨妙寺者。松栢○○之地。 26-6(5)

然天祿以降。○○渡海。 34-2(12)

【有頂】

乃至○○阿鼻。鐵圍沙界。 52-15(27)

【有頂天】

乃至自○○○。及阿鼻地。 29-12(7)

【有隣】

證明恩波之無岸。知見聖德之○○。 30-12(8)

抑說法○○。何野非鹿苑。 40-6(14)

【有漏】

禪林戴霜。○○之質已老。 32-2(10)

→ (希○・三○・隨○・中○・未曾○)

【邑】

【邑里】

昔朱邑之歸○○。有懷桐鄉之民。 31-5(9)

→ (朱○・成○)

【幽】

【幽閑】

九重之居非不貴也。豈若姑射之○○。 41-6(15)

【幽儀】

弟子爲奉貴祖考宗族之○○。 26-6(5)

○○定不忘峴亭之月。法音亦可傳耆崛之風。 49-8(23)

【幽顯】

華夷消災。○○蒙益。 27-8(5)

德化光於古今。福惠被於○○。 44-2(18)

【幽谷】

先照高山。次及○○。 33-4(11)

【幽墟】

古塚繁々。○○寂々。 24-10(4)

【幽邃】

泡山可厭。忽尋姑山之○○。 42-6(16)

【幽憤】

仰願。大悲照我○○。 51-9(26)

【幽明】

於是○○共動。遐迹普驚。 32-4(10)

【幽靈】

天神地祇。及茲山○○善神。 26-1(4)

弟子早引○○。偏在極樂。 48-8(22)

以此惠業。訪彼○○。 50-7(24)

功德多少。摠導○○。 51-5(25)

嗟吁。○○知我此志。 51-6(25)

【涌】

【涌出】

將若法龍池之驚六種動以○○歟。 25-13(4)

若是從地○○歟。穿雲而出歟。 26-12(5)

仰願。多寶如來從地○○。 30-11(8)

【遊】

花言綺語之○。何益於神道。 22-6(1)

禍福相改。忽赴佗方之○。 45-7(19)

【遊岱】

○○之魂更還。乞求夏臘高僧之戒。 51-1(25)

【遊塔】

白雲霄雲之低昂。迎○○之鳥。 26-13(5)

→ (春○・仙○)

【猶】

興隆之思。○切當今。 23-11(3)

然而大光迴映。○有伏不見之人。 29-6(7)

○恐九泉之底。永纏寒冰。 30-6(8)

然○不顧軀命。不著名利。 34-7(12)

不及古人之喻。○不可天之階矣。 34-10(12)

常理之中。○有難忍。 41-6(15)

其趣雖異。其志○同。 41-9(15)

彼一句半偈之功能。佛○難算數。	41-11(15)	→ (八十○・百○口)	
然○泡山可厭。忽尋姑山之幽邃。	42-6(16)	【興】	
鴛舌無識。○奏怨曲於庭樹之曉風。	42-10(16)	【興證】	
玄風雖遙隔。遺韻叩而○聞。	43-15(18)	經者夢後之精勤。以一乘爲○○。	44-6(18)
嗟呼。尊儀○如在于眼前。	44-10(18)		
人中之尊。○現四姑之相。	46-1(20)	ヨウ	
樂盡哀來。天人○逢五衰之日。	49-15(24)	【天】	
獨作燈下伴影之身。○添窓中戀古之恨。	50-4(24)	命不以人之惡○而長其齡。	47-13(22)
雖知老少之不定。○迷先後之相違。	50-12(25)	【用】	
一心之難忍。○迷哀憫之自然也。	52-4(27)	【用朝】	
昔當正法多智行人之間。○有離若斯人之歎。	52-11(27)	垂老猶愁。仕而○○者亦誰愛之暗通。	48-14(23)
【猶豫】		【孕】	
家既槐門。何復待厚祿而○○。	49-1(23)	大長者之出○。竊欲恨如來。	48-3(22)
【憂】		【幼】	
一旦背世之○。已殘心地之焰。	50-3(24)	【幼少】	
【憂喜】		○○失兩眼。十餘而隔二恩。	27-14(6)
光陰隔歲。○○同門。	51-5(25)	【幼日】	
【憂苦】		昔○○童子之戲。聚沙施石。	27-9(5)
爲除○○。譬之天上莫奢之藥。	23-2(2)	【羊】	
【憂悲】		【羊僧】	
合眼○○。彈指響咳。	30-7(8)	無才無行。一○○也。	34-14(12)
→ (坐○)		【羊太傅】	
【優】		識○○之絕後胤。伴槐棘以高法棟。	25-14(4)
【優曇】		【羊柱】	
似對○○之一現。合掌花而薰修。	26-14(5)	烏瑟暗加護持。○○適畢書寫。	32-2(10)
【優曇花】		【容】	
○○○發。海岸香薰。	29-9(7)	故瑩白銀鑄出滿月之○。研黃金寫成貫花之偈。	45-6(19)
【優鉢羅】		→ (舊○・金○・尊○)	
○○○之尊。三般失方。	40-1(14)	【惹】	
ヨ		累日有○。萬方不痊。	48-2(22)
【餘】		【瑤】	
【餘輝】		【瑤裙】	
夫佛日雖早蔽。○○明常在。	43-15(18)	坐憂臥憂。空思○○之去日。	45-8(19)
【餘慶】		【腰】	
泗水遺風。待七年而○○。	50-14(25)	垂柳婆娑之態。難及轉○。	24-1(3)
【餘香】		→ (柳○)	
乃至阿鼻。聞此○○。	50-8(24)	【養】	
【餘習】		○在深窻。外人不識。	47-1(21)
若有未明之月輪。○○雲散永令圓滿。	46-11(20)	→ (供○)	
【餘年】		【錄】	
○○之水菽者。汝之所能營。	35-3(12)	【錄腹】	
方今齡近艾服。不可恃○○以依違。	48-15(23)	白足青眼之輩。○○乘杯之人。	32-7(10)
【餘風】		【囀】	
謂扇驚頭之○○。併滅阿尾之殘焰者。	30-13(8)	【囀宿】	
【餘命】		今日擇○○。始法華三昧。	25-7(4)
全佛子○○。自唐朝還吾土。	35-7(12)	【翻】	
		【翻日】	

見露盤之〇〇。道場觀之智已開。	26-13(5)	→ (如〇・馳〇・飛〇・方〇・未〇・無〇)
【嬰】		
【嬰珞】		
上則增加新佛〇〇之末光。	46-11(20)	
ヨク		
【抑】		
〇亦往年。擇此地之閑敞。	24-1(3)	
〇檢家譜。萬歲藤之榮。	24-14(4)	
〇亦見佛聞法之大緣。功德遍于法界。	25-15(4)	
〇大般若經一部六百卷。金剛般若經三百卷。	39-5(13)	
〇說法有隣。何野非鹿苑。	40-6(14)	
〇追思往事。觸類銷魂。	44-8(18)	
〇亡者早在未病之前。深談出家之趣。	50-15(25)	
【欲】		
【欲海】		
〇〇愛河。流轉之輩不定。	30-12(8)	
→ (貪〇)		
《よって=仍→ジョウ》		
ラ		
【羅】		
度塔上之飛禽。避結使之〇。	27-4(5)	
【羅漢】		
正驚〇〇之僧。百口應請。	23-14(3)	
嘔百餘口之〇〇。仰三世佛之證明。	26-15(5)	
→ (百〇〇)		
【羅山】		
一咲再顧。既是〇〇之舊容。	46-2(20)	
【羅圖】		
抛〇〇而逃塵。比萬乘於脫屣。	39-3(13)	
【羅列】		
財幣玉帛。莛莛〇〇。	22-15(2)	
→ (綺〇・沙〇・星〇・鉢〇樹・優鉢〇)		
【蘿】		
【蘿襟】		
〇〇雲衲。不改舊日之詔名。	40-9(14)	
【蘿逕】		
〇〇分味。所助者千比丘之霞凜。	41-13(15)	
→ (松〇)		
ライ		
【來】		
【來世】		
皆以今日之善根。將爲〇〇之張本。	33-14(11)	
ラク		
【洛】		
【洛川】		
玄鬢翠蛾。莫不〇〇之麗質。	46-3(20)	
【洛陽】		
長安〇〇。貴賤上下。	32-4(10)	
【落】		
【落花】		
〇〇飄飄之光。寧如翻袖。	23-15(3)	
→ (一〇・捺〇)		
【樂】		
古之塔瓦文。有萬歲千秋〇未央之七字。	27-6(5)	
推其〇字之趣。感淚難禁。	27-6(5)	
現世則天下太平。理世安樂之〇。	27-6(5)	
後世亦地下拔苦。往生極樂之〇。	27-7(5)	
夫非魚者。不可以知魚〇。	34-11(12)	
從〇盡哀來。志留事變。	40-8(14)	
天上之〇。終爲五衰之悲。	46-1(20)	
何圖〇未央哀先至。福漸始禍早成。	47-2(21)	
〇盡哀來。天人猶逢五衰之日。	49-15(24)	
→ (哀〇・安〇・音〇・快〇・歡〇・伎〇・極〇・常〇・楚〇・得〇)		
ラン		
【亂】		
【亂骸】		
或伏白刃而係首。或迷蒼波而〇〇。	30-6(8)	
【亂常】		
南海〇〇之族。逆浪不閉。	30-5(8)	
→ (不〇)		
【蘭】		
平素不能採〇依翹誠。	48-14(23)	
【蘭質】		
〇〇秋深。初備三千之列。	47-1(21)	
【蘭省】		
草木愁色。況於〇〇梨園乎。	44-9(18)	
【蘭殿】		
〇〇椒房。鶴禁兎園。	32-12(10)	
椒房花朝。〇〇雪夜。	45-2(19)	
【蘭芽】		
從其夢結〇〇心祈蓬矢。	48-1(22)	
【蘭房】		
忽遇〇〇之永凋。酷嘆善苗之不熟。	40-8(14)	
→ (孟〇・景〇)		
【鸞】		

【鸞歌】			
鳳舞〇〇。雖乖去年之聖慮。	40-8(14)		
【鸞鳳】			
率〇〇之群。代鸞雀之賀。	26-15(5)		
リ			
【李】			
【李夫人】			
昔〇〇〇之反魂。尚可勞方士。	48-3(22)		
【利】			
【利益】			
功德遍于法界。〇〇及于衆生。	25-15(4)		
重爲佛法興隆。自他〇〇。	29-7(7)		
衆生法界。〇〇自然。	49-12(23)		
普及功德。併弘〇〇。	52-15(27)		
【利衆生】			
雁塔功能。遙分〇〇〇之月影。	24-5(3)		
【利生】			
四十年中。〇〇之願不遂。	40-2(14)		
他方〇〇之化相催。豈留中有之風。	52-15(27)		
【利他】			
以先彼後我之思爲思。以〇〇忘己之情爲情。	32-3(10)		
→ (舍〇・勝〇・名〇)			
【梨】			
【梨園】			
草木愁色。況於蘭省〇〇乎。	44-9(18)		
→ (桃〇・頰〇)			
【理】			
天上天下。妙覺之〇獨圓。	24-8(4)		
佛日懸光。真空之〇已顯。	31-12(10)		
雖顯寂滅之〇。有爲之悲難忘。	39-6(13)		
誠是自然之〇。有涯之悲也。	47-13(22)		
【理世】			
現世則天下太平。〇〇安樂之樂。	27-6(5)		
計其御寓。則過孝文皇帝〇〇之年。	44-5(18)		
→ (常〇・政〇・整〇)			
【離】			
【離苦】			
斷惡修善。〇〇得樂。	28-10(6)		
【離垢】			
精靈冤魂。浴法雨而〇〇。	27-8(5)		
→ (相〇)			
【籬】			
【籬花】			
月殘露結之朝。折〇〇以供佛界。	31-6(9)		
→ (楮〇)			
リキ			
【力】			
此山之林中。縱有枯株依造塔〇可榮。	27-5(5)		
此山之叢中。縱有寒草依造塔〇可暖。	27-5(5)		
麻淪送日之中。復施何〇。	32-4(10)		
彼大王之〇也。五尺猶假大工。	33-9(11)		
→ (威〇・合〇・衆〇・信〇・神〇・努〇)			
《リク = 六 → ロク》			
リュウ			
【柳】			
【柳眼】			
〇〇無情。空添啼粧於池堤之暮雨。	42-11(16)		
【柳腰】			
遠近遺恨。不見春洞連袂之〇〇。	40-10(14)		
→ (垂〇・翠〇)			
【流】			
併超生死之〇。令到菩提之岸。	47-10(21)		
古劍在傍。撫秋水而〇淚。	51-12(26)		
涕淚〇而無從。迷倒雲漢於眼下。	52-5(27)		
【流轉】			
加以〇〇三有之群類。欲拔罪根。	29-4(7)		
欲海愛河。〇〇之輩不定。	30-12(8)		
禽獸魚虫。何物非〇〇之父母。	31-14(10)		
【流傳】			
造塔善根。〇〇貝葉。	23-12(3)		
【流布】			
莊嚴熱田之靈社。〇〇般若之教文。	22-14(2)		
金言〇〇。知提河之有金。	25-10(4)		
【旒】			
【旒辰】			
是以鶴板頻馳。延講席於〇〇之南面。	52-9(27)		
【瑠】			
【瑠璃】			
七匝香煙。〇〇之雲成盖。	33-11(11)		
→ (紺〇〇)			
【龍】			
【龍駕】			
敬奉飭〇〇之不返。兼復供薦塔之新成。	40-9(14)		
【龍象】			
聚〇〇以弘智案。譏羊太傅之絕後胤。	25-14(4)		
忝咽六百高僧之〇〇。將歸十六大會之煙霞。	32-7(10)		
卷風幌以咽〇〇衆於其前。	49-4(23)		
鳳銜屢降。加崇階於〇〇之上首。	52-10(27)		

【龍女】			
昔〇〇獻珠。已證三明於南無垢之界。	47-9(21)	燕肝越膽。〇〇之鄉無期。	30-12(8)
法華經之說佛果。令我女不異〇焉。	48-9(22)	下則解脫群生〇〇之苦緣。	46-12(20)
【龍鬚】		→ (金〇・苦〇・月〇・法〇・妙〇・轉〇)	
如履虎尾。如撫〇〇。	24-14(4)	【磷】	
【龍胎】		劫石雖〇。願主之印不剋。	26-2(4)
少陽之宮。〇〇勸延年之術。	32-12(10)	【臨】	
【龍頭】		今〇末法少智行人之時。爭堪失若斯人之悲。	52-11(27)
〇〇鈎首之舟。棹穿秋水。	32-9(10)	【臨期】	
→ (亢〇・莓〇・法〇池)		四十九之惠業。國母〇〇。	40-5(14)
リ ヨ		【臨幸】	
【侶】		今上每春〇〇之地。菴路之草初繁。	42-10(16)
今弟子之誠子孫也。不如桑門之〇。	31-6(9)	【臨終】	
→ (法〇・禪〇)		思其昇霞。亦同南岳大師〇〇之日。	44-5(18)
【旅】		公主〇〇之間。西面憑几。	46-9(20)
【旅魂】		→ (降〇)	
弟子欲訪〇〇而未由。故圖金人以爲使。	48-4(22)	【鱗】	
リ ヨ ウ		【鱗水】	
【良】		臣等鶴林雲歸。〇〇義絶。	41-14(15)
【良因】		ル	
爰三五七之〇〇。聖主每度。修福於七箇寺。	40-4(14)	〈瑠→リュウ〉	
一准在世之御願。併攀證果之〇〇。	41-16(15)	ル イ	
受其法施。植其〇〇者。	52-9(27)	【淚】	
【良家】		爾時不覺〇下。竊作斯念。	24-11(4)
處處訪名。普課〇〇之總鼎。	40-7(14)	煖寒木於大智之日。〇變蒼栢之煙。	26-2(4)
【兩】		聞寶鐸之鳴風。菩提心之〇先落。	26-14(5)
【兩眼】		佛子一歡一泣。〇與言落。	35-2(12)
幼少失〇〇。十餘隔二恩。	27-14(6)	菩提之飭忽成。所加只四衆戀慕之新〇。	44-8(18)
【兩足】		九泉別〇。送千秋而無窮。	50-14(25)
今跋提河之滅度二千年。瑩紫磨金而禮〇〇。	33-9(11)	故劍在傍。撫秋水而流〇。	51-12(26)
リン		【淚川】	
【林】		更防〇〇。胷腋溢而難留。	46-15(21)
功德成〇。普開惠花於四生之意樹。	45-11(19)	雖知苦海之常理。還迷〇〇之難留。	50-1(24)
【林花】		【淚泉】	
〇〇纒殘。盈袖而散。	49-9(23)	於戲。此間吾等。縱沉至哀之〇〇。	43-8(17)
【林中】		【淚浪】	
此山之〇〇。縱有枯株依造塔力可榮。	27-5(5)	尼連禪河之水音。空咽跋提之〇〇。	52-4(27)
→ (鶴〇・沙羅〇・禪〇・雙〇・稠〇)		→ (感〇・揮〇・催〇・新〇・染〇・涕〇・悲〇・別〇・老〇)	
【凜】		【累】	
【凜性】		【累日】	
慈悲〇〇。佛法刻心。	42-5(16)	半行半坐。〇〇累年。	24-1(3)
柔和〇〇。婉順在心。	50-1(24)	〇〇有恙。萬方不痊。	48-2(22)
【輪】			
芥城縱盡。不退之〇長轉。	26-3(4)		

【累徳】 其積功〇〇。致誠專心者。	34-5(12)	レキ	
【累年】 半行半坐。累日〇〇。	24-1(3)	【歴】 【歴劫】 報是一心。雖〇〇雖改生何忘。	48-13(23)
【累業】 爰承〇〇之慶。浴皇華之恩。	24-12(4)	レツ	
【衆】 【衆衆】 古塚〇〇。幽塚寂々。 〇〇墳墓之緣邊。新建寺院。	24-10(4) 26-7(5)	【列】 蘭質秋深。初備三千之〇。 →(羅〇)	47-2(21)
レイ		レン	
【伶】 【伶倫】 是故別命〇〇。整理音樂。	23-15(3)	【連】 【連袂】 遠近遺恨。不見春洞〇〇之柳腰。 →(熙〇河・尼〇禪河)	40-10(14)
【勵】 【勵行】 至于緇素男女。各皆輸誠〇〇。	44-2(18)	【匳】 【匳香】 〇〇已在。薰印而燒。	49-10(23)
【嶺】 【嶺嶺】 法音不聞。只聞溪鳥〇〇。 →(鶯〇・雪〇)	24-11(4)	【憐】 【憐愍】 可以〇〇。可以相迎。	34-8(12)
【齡】 抑空也〇逐年暮。身與雲浮。 惹心春淺。未及二八之〇。 命不以人之惡夭而長其〇。 方今〇近艾服。不可恃餘年以依違。	32-2(10) 47-1(21) 47-13(22) 48-15(23)	【蓮】 禪波澄意。欲開上上之〇。 仰願。功德池上。結妙果於開示之〇。 今秋之悲淚。欲開覺藥於千葉之〇。	32-10(10) 50-8(24) 51-6(25)
【齡傾】 堂上有〇〇之老母。泣後事於松門之煙。	52-6(27)	【蓮眼】 佛則在世之時。〇〇早發。	39-3(13)
【齡邁】 況雪鬢〇〇。黃壤期催。 →(延〇・少〇・暮〇)	31-2(9)	【蓮華世界】 〇〇〇〇之鳥。嚀妙法之音。	29-9(7)
【麗】 【麗質】 玄鬢翠蛾。莫不洛川之〇〇。	46-3(20)	【蓮座】 以此香緣。奉飭彼〇〇。	41-14(15)
【靈】 【靈祝】 欲歸故郷之期。今不幾。神明願賜〇〇。	23-7(2)	【蓮臺】 寶樹〇〇。加莊嚴而相待。 便是綺窓瞑目之時。寧非〇〇結跏之日。 彌陀尊之設〇〇。望上品又仰下品矣。	40-3(14) 46-10(20) 48-8(22)
【靈山】 前白〇〇淨土釋迦尊言。 我等不圖。今日奉見〇〇釋迦。	24-8(4) 33-12(11)	西方極樂。定登九品之〇〇。 →(大寶〇・白〇・妙法〇)	51-14(26)
【靈鷲山】 疑是〇〇〇之乘五色雲以飛來歟。 雲衲霞袂。或來自〇〇〇之巔。	25-12(4) 27-1(5)	【嶺】 【嶺路】 今上每春臨幸之地。〇〇之草春繁。 →(花〇・翠〇・興〇)	42-10(16)
【靈社】 莊嚴熱田之〇〇。流布般若之教文。 →(寃〇・聖〇・精〇・先〇・尊〇・幽〇)	22-14(2)	【簾】 【簾帷】 〇〇不改。幡蓋惟新。	51-13(26)
		【簾前】 翡翠〇〇。花枝添戀古之色。	45-7(19)

【戀】			
四海皆○仁恩。最深者涓陽嗚咽之曉浪。	44-4(18)		
【戀恩】			
慈海已竭。共溺○○之涕川。	40-4(14)		
仰而○○者。寧非丹墀之舊臣。	42-9(16)		
【戀古】			
翡翠簾前。花枝添○○之色。	45-8(19)		
獨作燈下伴影之身。猶添窓中○○之恨。	50-4(24)		
【戀慕】			
菩提之愆忽成。所加只四衆○○之新淚。	44-8(18)		
口			
【路】			
天使相望於○。醫人多盡其方。	42-8(16)		
登覺之○欲赴。脫去春官及第之袍。	51-1(25)		
→ (覺○・行○・夢○・螢○)			
【虛】			
【虛胡】			
誹謗○○者。已千萬人。	34-8(12)		
【露】			
夫來而不留。薤鹽有拂曼之○。	31-1(9)		
月殘○結之朝。折離花以供佛界。	31-6(9)		
四種花雨。蒼蘆之○添灯。	33-11(11)		
【露瞻】			
商然聊○○於三寶。兼解嘲於衆人。	34-11(12)		
【露盤】			
見○○之耀日。道場觀之宵已開。	26-13(5)		
→ (花○・甘○・曉○・詞○・承○・朝○・發○)			
【鷲】			
【鷲池】			
白浪咽石之岸。相同○○。	32-8(10)		
【鏈】			
【鏈炭】			
宛轉不閑。如臥○○之上。	47-3(21)		
口ウ			
【老】			
禪林戴霜。有漏之質已○。	32-3(10)		
悲之又悲。莫悲於○後子。	50-12(25)		
【老翁】			
豈圖北芒駕促。營終制於○○。	50-14(25)		
【老沙彌】			
今○○。無便營風月之賽。	22-6(1)		
【老少】			
雖知○○之不定。猶迷先後之相違。	50-12(25)		
【老身】			
不聞于今仁王垂哀憐。不知又我○○忘寢食。	48-5(22)		
【老母】			
○○在堂。行年六十。	34-16(12)		
堂上有齡傾之○○。泣後事於松門之煙。	52-6(27)		
【老淚】			
痛矣一夕相離。○○已且四十餘日。	48-4(22)		
→ (借○・垂○・駐○・不○)			
【陋】			
【陋巷】			
有身暫退○○。有禁久在腋庭之故也。	48-1(22)		
【浪】			
尼連禪河之水音。空咽跋提之淚○。	52-4(27)		
→ (逆○・曉○・白○)			
【漏】			
【漏水】			
鼎湖隔雲。○○屢滴。	40-4(14)		
→ (夜○)			
【壠】			
苔○雲靜。松風只一聲。	50-15(25)		
→ (薤鹽)			
口ク			
【六】			
【六牙】			
駕○○之白象。證明無愆。	24-2(3)		
普賢策○○而護法也。	49-6(23)		
【六根】			
五蘊○○。雖陰陽之陶冶。	31-13(10)		
【六日】			
設○○之大會。移五時之舊儀。	33-10(11)		
【六種】			
將若法龍池之鷲○○動以涌出歟。	25-13(4)		
【六趣】			
往返○○之衆生。思授覺藥。	29-4(7)		
菩提分種。將潤甘露於○○之身田。	45-12(19)		
乃至○○四生。莫不引接。	48-9(22)		
【六通】			
材明○○。文殊能辨瑞於往昔。	28-14(7)		
【六度】			
曇无此丘之傳法水。遍迴○○之舟。	32-5(10)		
【六道】			
以六體佛菩薩。蓋當○○矣。	28-7(6)		
分此一心。備於○○。	30-8(8)		
是以爲四恩○○成佛得果故。	31-14(10)		
凡厥○○親疎。四生大小。	41-15(15)		
【六百】			
忝囑○○高僧之龍象。將歸十六大會之煙霞。	32-7(10)		
→ (十○・丈○)			

【鹿】

[鹿苑]

抑説法有隣。何野非○○。

40-6(14)

ワ

【和】

[和合]

可謂天地○○。風雨不違。

25-8(4)

[和鳴]

千花開盡之候。百鳥○○之時。

29-7(7)

→ (清○)

ワイ

【穢】

苟有潔信。潢汗之水非○。

22-15(2)

補遺

〈爲一譬～爲一譬〉

爲除憂苦。譬之天上莫奢之藥。
爲滿求願。譬之海中如意之珠。 23-2(2)

〈或～或〉

雲衲霞袂。或來自靈鷲山之巔。
錫杖香爐。或出從鳳凰谷之底。 27-1(5)
或於天台山。或於法性寺。 29-5(7)
或伏白刃而係首。或迷蒼波而亂骸。 30-6(8)
或催功德於人民。或得恭敬於草木。 32-6(10)
或降自雪嶺香山。或至自菴園奈苑。 32-7(10)
或順或逆。 33-14(11)
或及暮齡爲寡婦。或多愁恙無依怙人等也。 46-5(20)
或尊或卑。 52-9(27)

〈何～何〉

何疑哉。何疑哉。 48-9(22)

〈何一能～何一能〉

何謀能救。憑白毫之照明。
何善能通。仰白牛之引導。 29-5(7)

〈何一非～何一非（無）〉

禽獸魚虫。何物非流轉之父母。
山川巖澤。何處無生死之形骸。 31-14(10)
說法有隣。何野非鹿苑。
如來不往。何山非鷲峯。 40-6(14)

〈假使～定是〉

娑婆假使出鳩鳴之城彈石指。
眞如定如把孔雀之尾掃宮墻。 40-9(14)

〈過於～先於〉

過於熙連河之苦行一年。禪定水靜。
先於沙羅林之涅槃三日。應化月空。 42-9(16)

〈豈若～豈若〉

九重之居非不貴也。豈若姑射之幽閑。
四海之家未作貧也。豈若眞如之寂靜。 41-6(15)

〈豈唯～兼復〉

豈唯果報之殊勝乎。兼復道場之莊嚴也。 23-12(3)

〈疑是～將若〉

疑是靈鷲山之乘五色雲以飛來歟。
將若法龍池之驚六種動以涌出歟。 25-12(4)

〈更～還〉

剎那之榮花。更變枯木。
須臾之歡樂。還爲苦緣。 29-3(7)

〈更～復〉

薛服防風之外。更企何謀。
麻糲送日之中。復施何力。 32-4(10)

〈若不一何必～若不一何必〉

若不奉侍讀於我后。何必質朴之愚者得爲州刺史。

若不殖善根於此地。何必閑素之儒者得書大般若。 22-12(2)

〈若是～將亦〉

若是從地涌出歟。穿雲而出歟。將亦自天飛來歟。 26-12(5)

〈若一忽～若一永〉

若住暫舍之花色。常樂風吹忽令開敷。
若有未明之月輪。餘習雲散永令圓滿。 46-10(20)

〈若比～若比〉

若比弟子之合掌。彼一落不再開。
若比弟子之至心。此遠運可普供。 49-10(23)

〈縱～定〉

縱沉至哀之淚泉。忙界衆生定飲大悲之乳海。 43-8(17)

娑婆遺哀。縱屑千行於眼下。
眞如新饒。定現萬字於目前。 45-10(19)

〈縱一何～縱一何〉

此山之林中。縱有枯株。依造塔力可榮。何株非釋迦樹。
此山之叢中。縱有寒草。依造塔力可暖。何草非妙法蓮。 27-4(5)

〈如～如〉

如履虎尾。如撫龍鬚。 24-13(4)

〈如～似〉

如遇過去之二親。振肝葉而歡喜。
似對優曇之一現。合掌花而薰修。 26-14(5)
宛轉不閑。如臥毚炭之上。
迷惑失據。似入重霧之中。 47-3(21)

〈雖～定〉

臥雲之後。雖謙一乘佛子之名。
昇霞以來。定到無上法王之位。 42-12(16)

〈雖～猶〉

雖在宿昔。興隆之思。猶切當今。 23-11(3)
雖誠禽獸。猶思鄉土。 34-15(12)
雖知老少之不定。猶迷先後之相違。
四恩之不同。雖知凡聖之相隔。
一心之難忍。猶迷哀憫之自然者也。 50-12(25) 52-4(27)

〈相同～宛如〉

白浪咽石之岸。相同鷺池。
背草敷煙之堤。宛如鷺嶺。 32-8(10)

〈莫一於〉

當國之事。莫先於大般若會。
悲之又悲。莫悲於老後子。
恨而更恨。莫恨於少先親。 22-12(2) 50-12(25)

〈半是～半是〉

半是爲菩提。半是爲現世。 27-2(5)

〈非唯～兼爲〉

非唯果報之殊勝。兼爲佛庭之莊嚴。 26-11(5)

〈不一只～不一只〉

佛儀不見。只見春花秋月。

法音 <u>不</u> 聞。 <u>只</u> 聞溪鳥嶺猿。	24-11(4)
〈不能～不能〉	
不能供養此經。亦 <u>不</u> 能遂任秩。	22-11(2)
〈迷～如〉	
涕淚流而無從。 <u>迷</u> 倒雲漢於眼下。	
心肝屠而不靜。 <u>如</u> 吞風胡於胸中。	52-5(27)
〈猶～況〉	
彼一句半偈之功能。佛 <u>猶</u> 難算數。	
<u>況</u> 八萬十二之校量。誰敢知淺深。	41-11(15)
人中之尊。 <u>猶</u> 現四枯之相。	
天上之樂。終為五衰之悲。	
<u>況</u> 於凡身乎。 <u>況</u> 於下界乎。	46-1(20)